



若者の手にある世界遺産

学び、育み、行動する

教師用世界遺産教材

協同学校プロジェクトネットワーク



協力機関

●ローヌ・プーラン財団（フランス）



●ノルウェー開発協力庁NORAD

Original title

WORLD HERITAGE EDUCATIONAL RESOURCE KIT FOR TEACHERS

UNESCO 1998

UNESCO 2000(year of publication) for the Japanese adaptation.

The designations employed and the presentation of material throughout this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the UNESCO Secretariat concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or the delimitations of its frontiers or boundaries.

The authors are responsible for the choice and the presentation of the facts contained in this book and for the opinions expressed therein, which are not necessarily those of UNESCO and do not commit the Organization.

The Japanese adaptation has been prepared under the responsibility of the Kagoshima Prefectural Government.

原題:

教師用世界遺産教育教材

ユネスコ 1998年

ユネスコ 2000年 日本語版(発刊年)

この出版物において用いた名称や題材についての説明は、いかなる国、地域、都市、地区あるいはそれらの関係当局についてのユネスコ側の法的立場や意見を反映したものではない。

本教材に示された説明内容については著者が責任を有するものである。また、本教材中の意見についても同様であり、それらの意見は必ずしもユネスコの意見ではなく、ユネスコを拘束するものでもない。

世界遺産教育教材日本語版の発行に当たって



世界遺産条約に登録された屋久島を有する本県において、本年5月、世界自然遺産を有するアジア太平洋地域の地方自治体等が集まり、「自然にやさしく 自然とともに そして自然を未来の子供たちへ」をテーマに、世界自然遺産の保全と世界自然遺産を生かした地域づくりについて論議を深めるとともに、豊かな自然を生かした緑環と共生の地域づくりを促進するため、「世界自然遺産会議」が開催されます。

この世界自然遺産会議に先立ち、昨年10月、鹿児島市と屋久島で、その準備会議と世界自然遺産フォーラムが開催されましたが、その際にユネスコ世界遺産センターから「世界遺産教材」が贈呈されました。鹿児島県としては、ユネスコの御理解をいただき、(財)屋久島環境文化財団の資金協力を得て、この教材を日本語に翻訳し、各学校の先生方に活用していただくことにしました。

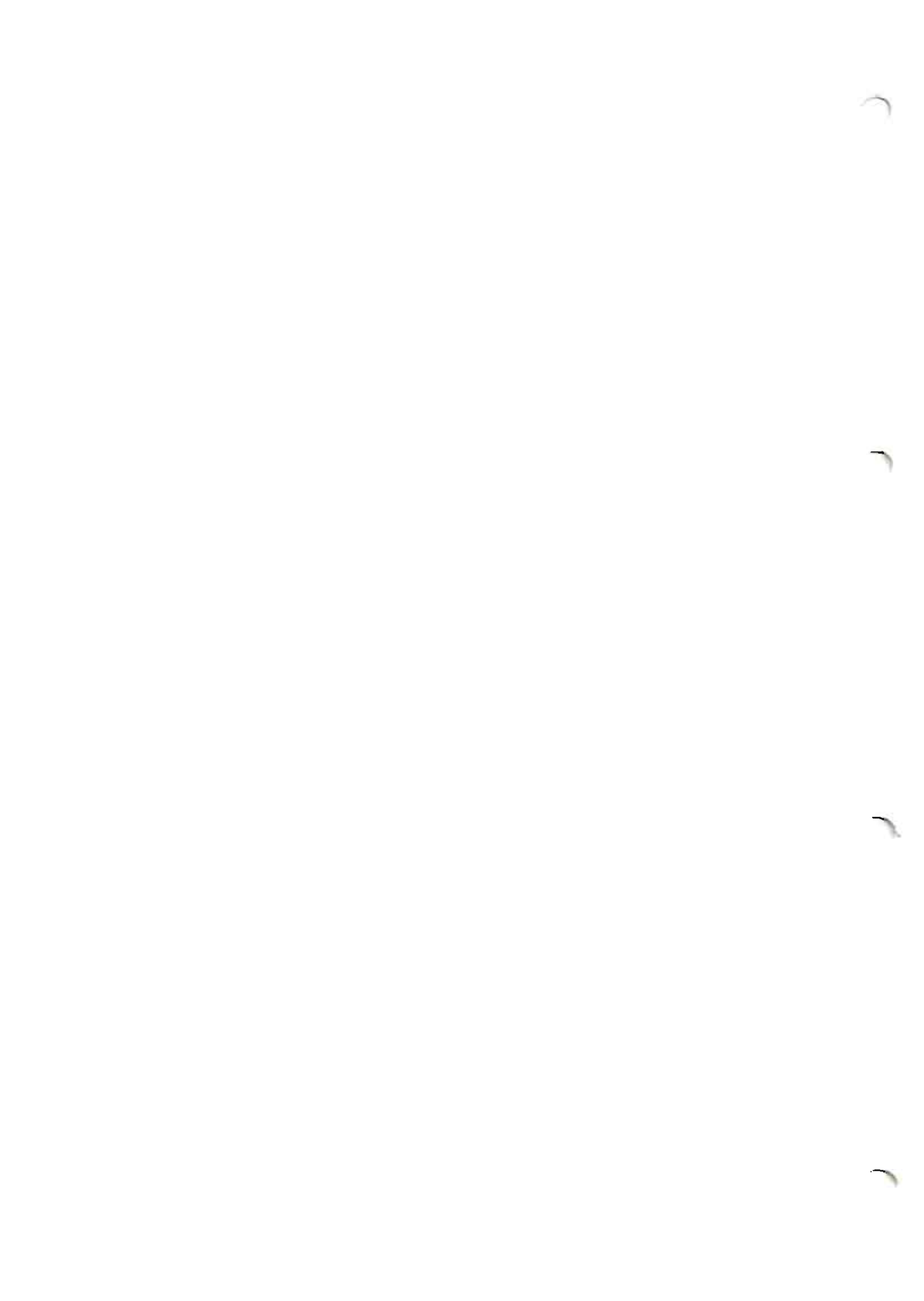
私達が祖先から引き継いだ自然遺産や文化遺産が次世代に引き継がれていくためには、21世紀を担う若者達が世界自然遺産の保全に積極的に参加することが重要です。そのために、世界中の教師が生徒と共に、世界遺産の価値とその保全の大切さを学ぶことの重要性をこの教材は教えてくれます。

また、この教材は、世界遺産条約に登録された遺産に限らず、守るべき自然遺産や文化遺産が私達の周辺にたくさんあることを教えています。

この教材が人類の宝である世界遺産はもとより、身近にある重要な自然遺産や文化遺産の保全のための教育活動の一助となることを願っております。

平成12年3月

鹿児島県知事 須賀 龍 郎



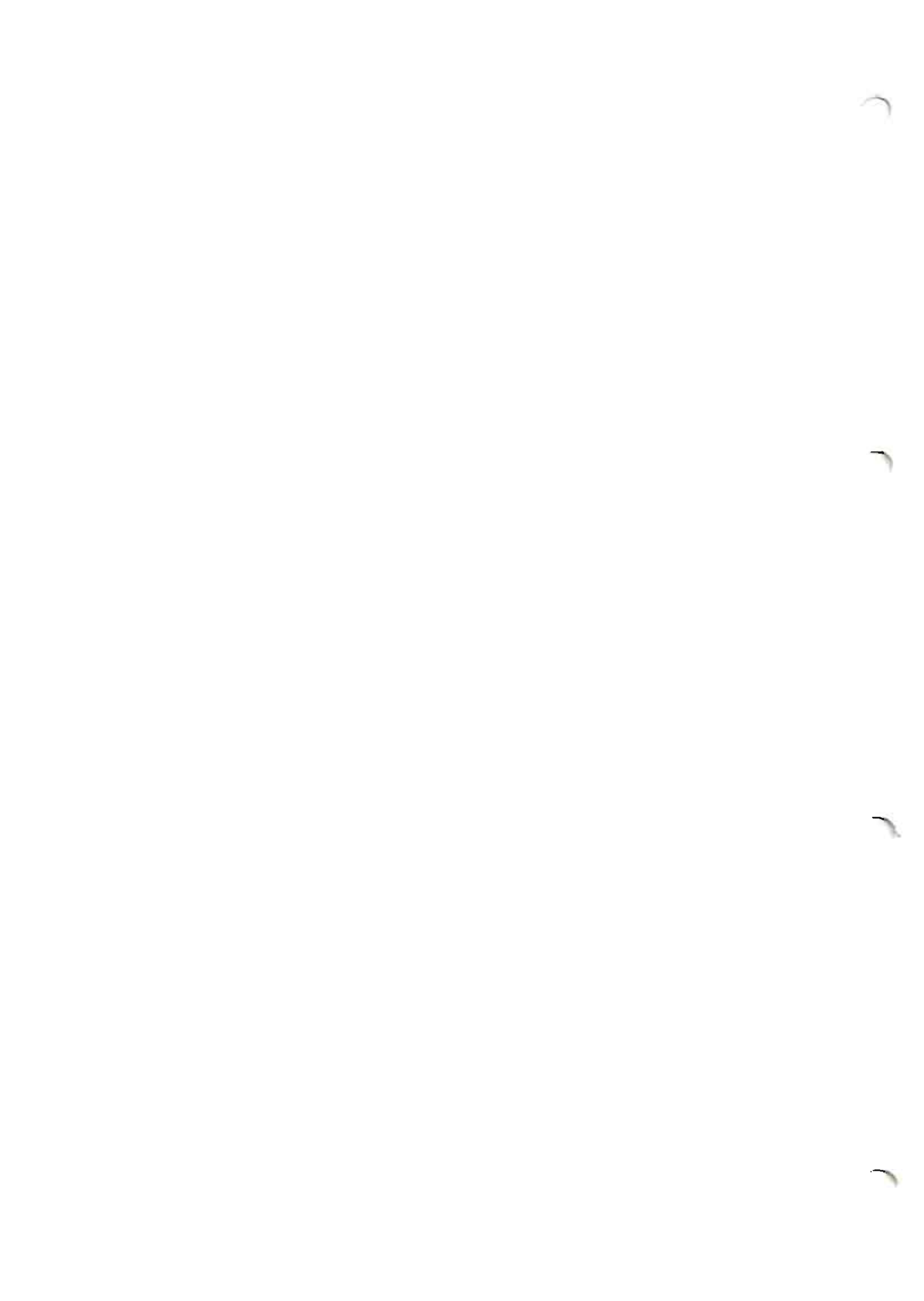
序文

1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」は、私たち人類の遺産を守り、未来の世代に引き継がせたいという情熱から発したものです。この試みを成功させるには、文化・自然遺産保護に責任をもつ専門家のみにとどまらず、先ず世界各国、各地域の人々に広くこの条約を周知徹底させることが重要です。彼らこそ人類の文化・自然遺産保護の担い手であり、この条約は数多くの困難を乗り越えて引き継いだ豊かな遺産を守る手段として、世界各国・各地域の人々こそが用うべきものなのです。

祖先から受け継いだ自然・文化遺産の保護や美化という仕事は、景観や遺跡の単なる保存にとどまらない、大きな広がりをもっています。有形の世界遺産を保存することにより、無形の世界遺産、さらに倫理という他の何にも代えがたい遺産を守ることが可能になります。今日、新たな千年紀に向かって、子供や若者に倫理的、人間的価値観を植え付け、彼らとその子孫が飢餓や戦争、環境破壊さらに人間としての尊厳の喪失といった災いから免れるようにすることが、最も緊急な課題となっています。このことは、今あなたが手にしている「世界遺産教材」の全体を通じ、とりわけ平和の文化を推進するユネスコ活動に関連する箇所において重点的に述べられています。

主として「協同学校プロジェクト」を通じてユネスコに協力する教師だけでなく一般の教師も含めて、教師が果たす役割は世界遺産教育にとって大きな重要性をもっています。彼らとの協力関係があって初めて、ユネスコは「世界遺産条約」の精神を、将来を担う何百万人という若者たちによりよい形で伝えることができるのです。したがって、この教材は主に教師を対象としていますが、教師だけでなく生徒の想像力や創造性を刺激して、遺産保存教育の取り組みが豊かなものになるように心配りされています。

教育とは、精神と実践、何よりも心を傾け、生涯にわたって取り組まれるべきものです。ここから「若者の手にある世界遺産:学び、育み、行動する」というこの教材の名称が生まれました。適切な事例を示しながら、この教材は、世界の最も壮麗な文化・自然遺産を巡り、さまざまな科目の教師が生徒と共に、知識を共有する旅へいざなってくれます。この旅は若者たちに過去の遺産の素晴らしさを教えるだけでなく、何よりもその遺産を積極的に保護する方法を教え、その実践を通じてより良い未来づくりに貢献するものとなるでしょう。



序にかえて

© RHÔNE-POULENC'S MUSEE



ローヌ・プーラン社は、現在、人間、植物、動物の健康を専門とする生命科学の分野で世界をリードする企業のひとつです。(わが社の特別化学製品事業は、現在、新会社ローディアが運営しています。)

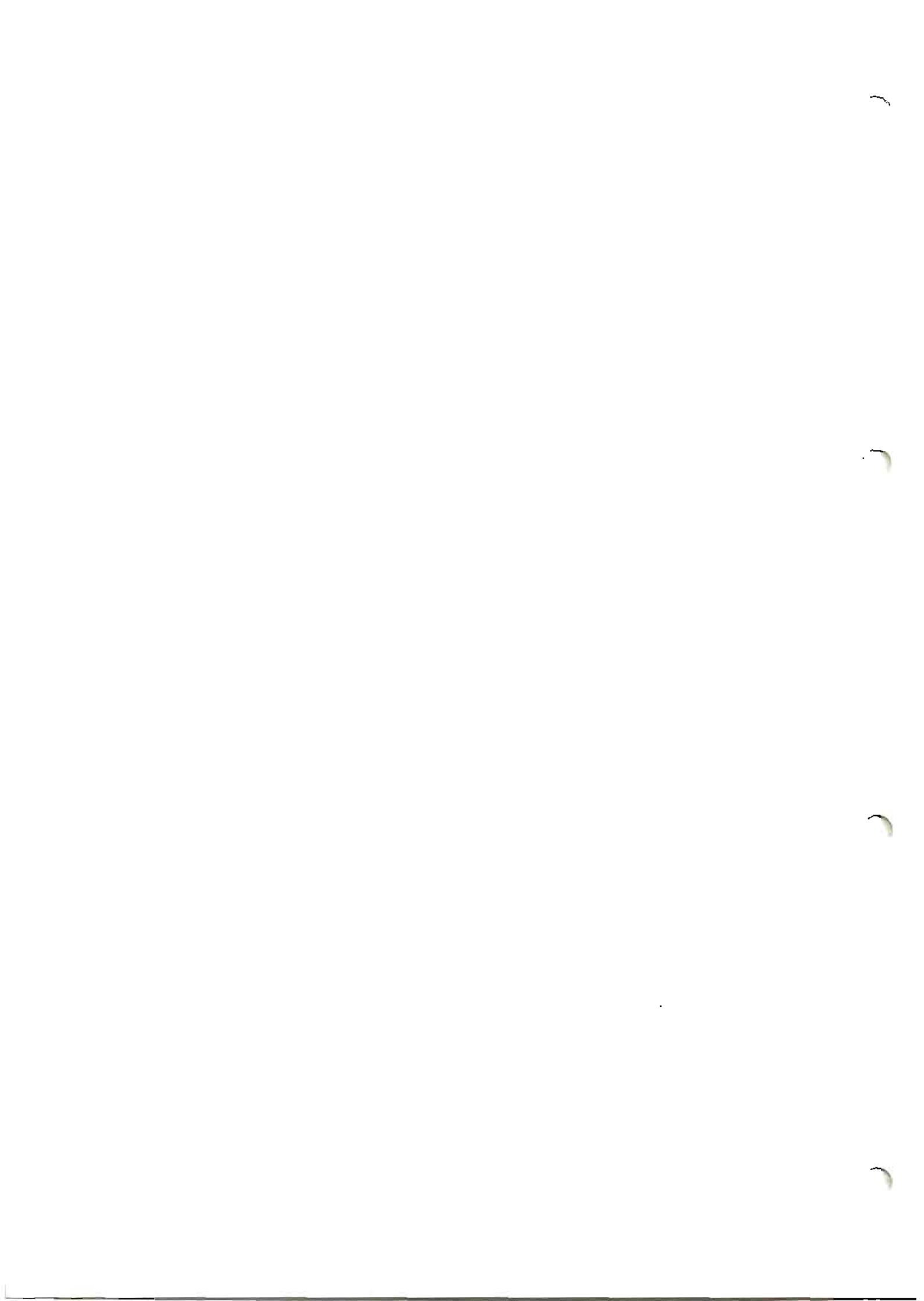
わが社の使命は、技術革新を通じて人々の幸福に貢献することです。わが社は、企業市民としての責任を自覚し、ローヌ・プーラン財団／フランス協会の活動を通じて実践しています。わが社が後援するプログラムには、四つの主要分野があります。研究と科学分野でのパートナーシップ、世界の自然・文化遺産保護、教育、そしてコミュニティ活動です。

これらの分野におけるニーズは大きく、私たちは資力と能力の及ぶかぎりそのニーズに応えています。前述の財団は、資金、技術そして人材を地域社会への奉仕にあて、若い人達が参加するプロジェクトに特に力を入れています。そしてこの若者たちこそが、これからの新しい考え方や価値観のゆくえを示してくれているのです。

1995年、私たちは「世界遺産の保存推進に若者の参加を促す」ための試験的教育プログラムを立ち上げ、ユネスコに協力することを決定しました。我々を引きつけたのは、プログラムの志の高さだけでなく、その試みの新しさと分野の垣根を越えた取り組みです。このプログラムは、教師に大きな主導権を与え、若者が身近な自然・文化環境に責任感を抱くよう働きかけます。

目まぐるしく変化する現代の世界では、私たち一人ひとりが自らの存在を再確認しつつ、他の文化にも開かれた心を持つ必要があります。世界遺産は、人類共通の有形資産であり、私たち一人ひとり、そして人類全体がその保護に責任を負うべきものなのです。

ローヌ・プーラン会長兼最高経営責任者
ジョン・ルネ・フルトゥー



世界遺産教育に向けて

© UNESCO/Michel Chisselle



1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」は、世界遺産の保存の分野における主要な国際法規です。

この条約は、ある種の自然地域・文化地域は「顕著な普遍的価値」を有し、人類共有の遺産であるという前提に基づく点で他に類を見ない条約です。この人類共有の遺産の保存は、それぞれの国家にとどまらない人類全体の関心事です。この条約のもう一つの重要な特長は、文化遺産と自然遺産の両方を保護するという点です。文化と自然には多くのつながりがあることを考えれば、この両面からのアプローチは遺産保護に新しい次元を切り開くものです。

1998年1月現在、世界112カ国に存在する552地域がユネスコの世界遺産リストに登録されています。また、25地域は直面する脅威を考慮して「危機にさらされている世界遺産」の指定を受けています。

数十年にわたり優れた建築家、考古学者、自然保護専門家と協力してきたユネスコは、遺産の保存と推進に若者たちを参加させる時がやってきたと考えています。このような経緯から1994年ユネスコ世界遺産センターとユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク(ASPNet)は、世界遺産という共有財産の大切さを若者に訴え、教育するために「世界遺産の保存推進への若者の参加」をテーマに「地域間世界遺産教育プロジェクト」を開始しました。

今では世界中どの地域でも導入されているこのプロジェクトを資金面で支えるのは、ノルウェー開発協力庁(NORAD)、ローエ・ブーラン財団、世界遺産基金そしてユネスコ通年プログラム(一般会計予算)です。世界遺産教育は、現在までにヨーロッパ、アフリカ大陸の英語圏、アジア太平洋地域の約90カ国、300以上の中等教育機関で実施されています。ここまで導入が進んだ背景には、平和、国際理解、人権、環境教育など現代の諸問題に取り組み、5,000校以上の学校をつなぐASPNetのネットワークがありました。そしてASPNetの仕事は、現在世界遺産教育に引き継がれています。

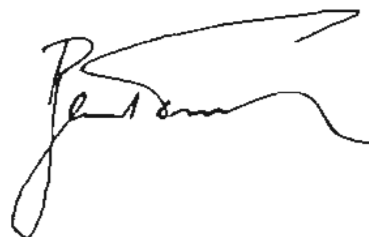
人類のかけがえのない世界遺産の将来は、現在そして未来の若者の双肩にかかっています。確信にあふれた若々しい精神が持つ力強さは、ネパールのロメーシェ・トリパティ(15才)の次の言葉にもはっきり現れています。

「世界遺産は私たちのもの」このことを決して忘れてはなりません。そして、現在だけでなく、この先何年、何百年にもわたり、言葉だけでなく行動で示していかなければならないのです。それが私たち若い世代の仕事なのです。」

世界遺産教育を成功に導くにあたって教師が果たす役割の大きさを考え、「若者の手にある世界遺産」と題されたこの教師用教材は、すでに英語版とフランス語版が出版され、順次他の言語が追加されます。双方向のアプローチに基づくこの教材は、さまざまな教科の教師を、世界中の貴重な文化・自然遺産を巡りながら、遺産の価値と遺産保存の大切さについて生徒と共に学ぶ旅へといざないます。

世界遺産教育プロジェクトは、世界中の多くの若者に感銘を与え、その結果彼らは世界遺産という考え方を世界に広める大使となって世界遺産保護に積極的に貢献しています。世界遺産保存の成否は、若者の参加が進むか否かにかかっていると私は確信します。この世界遺産教材によって異文化間の対話が促進され、寛容と世界平和の精神が培われること、また、この世界遺産教材が現在そして未来の世代の連帯を強化し、両世代に共通する普遍的価値をさらに高める象徴となることを切に願います。

ベルント・フォン・ドロステ
ユネスコ世界遺産センター元所長



人類共有の遺産

ガラパゴス諸島はチャールズ・ダーウィンに靈感を与えて進化論を生み出した。

ゴレ島は奴隷制度を記憶にとどめるよすがとなった。

ピラミッド遺跡は人類の創造的天才が生んだ傑作である。

トンガリロ山脈の霊気は、そこに住む人々の中に現れている。

アトス山の美しさは、その高みで執り行われる宗教儀式に命を吹き込む。

ローレースは300年以上にわたって鉱業の町として栄えてきた。



© IUCN/J. Thorsell.
トンガリロ国立公園、
ニュージーランド

コミの原生林は生物多様性への入り口である。

人間の想像力が生んだ均整のとれた都市ブラジリア。

これらの地域は一見多種多様でありながら、一つの共通項を持っている。人類共有の遺産という共通項を。

遺産とは、人類が過去から営々と築き上げ、現在ともに生き、そして未来の世代に手渡すもの、そこから学び、さらに積み上げ、喜びを得るもの。

人類の遺産は、私たちの試金石であり、文化の証しであり、
私たち自身の存在そのものである。

自分は何者かを理解し、他者を理解する助けとなるもの、
自然と人類の歴史を語り聞かせるものである。

この遺産のすばらしさを余すところなく表現するもの、
それは「顕著な普遍的価値」と認められるものであり、
自然と文化の豊かさを形づくるもの。

ユネスコ世界遺産条約は

この豊かな自然・文化遺産を大切に守り、
はぐくんで保護することを目的とする。

この仕事は、
国際社会が丸ごとになって取り組むべき責務であり、
若い世代が取り組もうとしている課題である。

ソーレンヌ・ドウレイユ、サラ・ティチン



教師用世界遺産教材

目次

| | |
|---|-------|
| 世界遺産教育教材日本語版の発行に当たって 鹿児島県知事 須賀 敏 郎 | P.3 |
| 序文 | P.5 |
| 序にかえて ローヌ・ブーラン会長兼最高経営責任者 ジョン・ルネ フォルトゥ | P.7 |
| 世界遺産教育に向けて ユネスコ世界遺産センター元所長 ベルント・フォン・ドロステ | P.9 |
| 人類共有の遺産 | P.11 |
| 目次 | P.13 |
| 前書き | P.15 |
| 世界遺産のシンボルマークとマスコット「パトリモニート」 | P.19 |
| 謝辞 | P.21 |
| 本教材の利用法 | P.23 |
| 評価レポート用紙 | P.29 |
| 世界遺産の教育手法 | P.41 |
| 世界遺産条約 | P.61 |
| 世界遺産とアイデンティティー（私たちの同一性・存在） | P.105 |
| 世界遺産と観光 | P.121 |
| 世界遺産と環境 | P.141 |
| 世界遺産と平和の文化 | P.161 |
| 資料 | P.175 |
| 用語集 | |
| 連絡先 | |
| 参考資料一覧表 | |
| 世界遺産条約 | |
| 概説 | |
| 世界遺産地域の写真26枚 | |
| 世界遺産地図 | |

2

3

4

5

前書き



教師用世界遺産教材をご覧ください。ありがとうございます。この教材はユネスコの「若者のための世界遺産教育プロジェクト」の一環として制作されました。

このプロジェクトは、1994年にユネスコ世界遺産センターと、協同学校プロジェクトネットワーク (ASPNet) によって開始され、世界遺産の保存に協力するための革新的な教育手法の開発を目的としています。具体的には、生徒達に次のような働きかけを行います。

© Patrimoine 2001/R
オールド・ハバナと
その歴史化都市

- ✓ 世界遺産リストに登録された文化・自然遺産の、崇高な普遍的価値について学習すること。
- ✓ ユネスコ世界遺産条約によって保護される登録遺産の保全に役立つ新しい能力を身につけること。
- ✓ 地方の、国の、そして世界の遺産を現在と未来の世代のために守る気持ちを生涯を通じて持ち続けるように育てること。
- ✓ 世界の文化と自然が有する驚くほどの多様性を維持するために国際協力を通じて重要な役割を果たすこと。

この教材の制作過程について

若者のための世界遺産教育プロジェクト開始の一年後、世界中から数百名の生徒、教師がノルウェーのベルゲンで開かれた第1回世界遺産ユースフォーラムに集い、それぞれの意見や、考え、そして経験を語り合いました。参加者は、世界遺産保護活動に対して強い関心、熱意、思い入れを表明する一方、学習の中に世界遺産教育を取り入れたり、充実したものとする時に、教師の力になる教材が少ないと訴えました。その結果、学校の内外で世界遺産教育を推進するために、ユネスコが教材を何カ国語かで作成してはどうかという意見が出されました。

ベルゲンのユースフォーラムの後、教材の作成と、その内容、全体的な表現法についての話し合いが、プロジェクトに参加した世界遺産専門家、ユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク (ASPNet) の教師・教育専門家の間で始まりました。次にあげる4つの会合と世界中の協同学校の先進的な活動が、この教材の制作に大きな役割を果たしました。

■**第1回世界遺産ヨーロッパ地域ユースフォーラム** がクロアチアのドゥブロヴニクで1996年5月25日から30日にわたって開催され、ヨーロッパ21カ国から数百名の生徒、教師が参加。教材に盛り込む主要テーマについての提案を支持。

■**この教材の草案をつくるための国際ワークショップ** がクロアチアのフヴァールで1996年7月に開催され、世界遺産専門家およびASPNetメンバーの教師が参加。教材に盛り込まれる5つの分野、教育手法、そして生徒の活動について提案。

■**第1回世界遺産アフリカ地域ユースフォーラム** がザンビアのビクトリアフォールズ(モシ・オ・トゥニヤ)とジンバブエで1996年9月18日から24日まで開催され、アフリカの17カ国から数百名の生徒、教師が参加。フヴァールで開かれたワークショップで提出された草案について意見を表明。特別カリキュラムではなく、教科学習に世界遺産を取り入れること、さらに学科の垣根を取り払った教育手法の必要性を強調。

■**第1回世界遺産アジア・太平洋地域ユースフォーラム** が中国の北京で1997年9月15日から21日にわたって開催され、アジア太平洋地域の20カ国から数百名の生徒、教師が参加。参加した生徒はこの教材に取り上げられた活動のうち11に参加し、その有効性について実証的な意見を提供。教師は草案段階の教材を検討し、積極的に感想を表明。さらに多言語での作成が望ましいこと、地域の条件や状況に適応させる必要性を指摘。

1997年4月、ユネスコの呼びかけで集まった国際的作業グループが最初の草案各一部を作成しました。作業グループには、インゲン・クヴィスタロイ(ユネスコノルウェー国内委員会、ノルウェー)、ピーター・ストーン(イングリッシュ・ヘリテッジ、現在は英国ニューカースル大学)、カティエ・フォージェ(ローヌ・プーラン財団、フランス)、カタリーヌ・バレおよびソフィー・エマンヌエル＝ナス(通儒・情報・教育、フランス)の各氏が参加しました。そのあとの作業はエリザベス・カワジキー、ブレッダ・パブリック、サラ・ティチンから成るユネスコの作業チームに引き継がれ現在の形にまとめられました。

草案段階の原稿は、ユネスコ世界遺産センター元所長ベルント・フォン・ドロステ、および北京世界遺産ユースフォーラム参加者の意見に基づいて検討され、修正が加えられました。

配 布

この教材は、試験的にユネスコ加盟国、および主としてASPNetに参加する学校に配布されます。

試行

世界中とは言わないまでも、さまざまな国の、さまざまな教科を担当する中等学校教員の用に供するための教材を作成することは、やさしい仕事ではありません。さまざまな国の教師が考案した実践的な教育手法や活動に基づき、世界中の約400名の生徒、教師から寄せられた提案や助言にそってこの教材を作成するにあたり、多大な努力が費やされました。しかし、できるだけ多くの教師に実際に試してもらい、それぞれの地域や国の状況に合わせて調整を加える必要があることは言うまでもありません。世界遺産教育を導入、継続する最良の方法について、また人類共有の世界遺産を、無知、貧困、戦争、工業化、汚染の危険から守るという生涯にわたる努力に青少年を導く最良の方法について教育現場の皆様から学ぶには、試行の過程が欠かせません。同封の評価レポートにご記入・返送いただくことで、これからも皆様のご意見、ご経験から学び、世界中の教師・教育専門家と知見を共有していくことが可能になります。

完成と調整

皆様からの評価表を検討し、この教材を完成させた後、商業的な生産と流通を進めるとともに、ユネスコ加盟国と共同で、調整作業、翻訳、出版の手続きを開始します。こうした取組みにより、世界中の学校で教育カリキュラムの一部として世界遺産教育が取り入れられるよう努めます。

継続的な努力

カリキュラムづくりには調査、試行、評価が欠かせません。これは、継続的に、かつ、長期的目標をもって進める必要があります。貴重な世界遺産を守るためにすべての人が力を合わせる平和で健全な世界を求めながら、新たな千世紀へと歩みを進める今、私たちは新たな教育理念を導入しつつあるのです。

ユネスコ編集者

エリザベス・カワジキ ブレグダ・バブリック サラ・ティチン

Elizabeth Kawajiki

Bregda Babrick

Sarah M. Tichen

1

2

3

4

世界遺産の シンボルマークと マスコット「パトリモニート」

世界遺産条約は、世界遺産のシンボルマークに象徴的に示されているように、自然遺産と文化遺産の保護をひとつに結びつけます。



このシンボルマークは、文化遺産と自然遺産の相互依存性を象徴しています。すなわち、中心に据えられた正方形は人間を、円は自然を表わし、このふたつがしっかりと結びつけられているのです。この地球と同じ円い形のシンボルマークはまた「保護」の象徴でもあるのです。



パトリモニートはノルウェーのベルゲンで行われた第1回世界遺産ユースフォーラムの期間中に、自分たちと世界遺産を結びつけるマスコットが必要だと考えたスペイン語圏の生徒達によって生み出されました。パトリモニートは「小さな遺産」という意味のスペイン語で、このマスコットは、遺産保護に協力する若者を表しています。

19



©UNESCO
第1回世界遺産アフリカ地域ユースフォーラムで、若者たちに贈り物をするパトリモニート。ジンバブエ

2

3

4

5

謝 辞

© UNESCO, Roger



この教材の制作には多年にわたり、多くの団体や個人が参加しました。ユネスコは、関係各位の協力のみならず、ユネスコの熱意を理解いただき、世界遺産教育という前例のない試みが必ず成功すると信頼をいただいたことに感謝し、心から厚く御礼申し上げます。

まず、テキスト作成にあたり、知識、時間、エネルギーを惜しみなく提供していただいた方々のお名前をあげて感謝の意を表します。ノルウェーのインゲン・クヴィスタロイ氏、英国のピーター・ストーン博士には、この教材にとって重要な数々の要素を指摘いただきました。ブルガリアのアナ・ゲオキーヴァ氏、クロアチアのヤセンカ・ジュヴェーラ・スプリヴァーロ氏、ニュージーランドのロップ・ローニ氏からも、教材作成にあたり非常に有益なアドバイスと資料を提供いただきました。

ユネスコは世界遺産委員会と4人の歴代委員長から受けた支援を深く感謝いたします。タイのアドゥン・ウィチエンチャルーン博士、ドイツのホルスト・ヴィンケルマン大使、メキシコのテレサ・フランコ氏、そしてイタリアのフランチェスコ・フランチョーニ教授です。同委員会の諮問機関である国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) および国際自然保護連合 (IUCN)、ならびに国際NGOである世界遺産都市機構 (OWHC)からは、このプロジェクトのさまざまな段階で、それぞれの専門知識を教示いただきました。

ユネスコは、さまざまな形で活動を支持していただいた、約80のユネスコ加盟国国内委員会に心から御礼申し上げます。うち数カ国は、この教材の内容が形をなし、定期的に試行される場となった世界遺産ユースフォーラムの開催地として大いに協力いただきました。開催順に、ノルウェー、クロアチア、ザンビア、ジンバブエ、ならびに中国の国内委員会の名を挙げて感謝の意を表します。国内委員会のおかげで、この教材は、世界を結ぶユネスコの協同学校プロジェクトネットワーク (ASPNet) を通じて、本当の「草の根」活動に参加した数百名に上る生徒、先生方の並々ならぬ情熱と決意に大いに助けられました。

ローヌ・ブーラン財団からは、当初からこの教材にかかわり、経済的な協力のみならず、オンドレ・ド・マーコ氏、ニコール・マータン氏、カティー・フォージュ氏をはじめとするスタッフの皆様の専門知識、揺るぎない信念と支援をいただきました。

フランスの通信・情報・教育 (CIE)からは、教材のデザインおよびレイアウトについて貴重な意見をいただきました。ユネスコは、同社のカタリーヌ・パレ氏、ならびにソフィー・エマンヌエル＝ナアス氏の理解と協力を心から感謝いたします。

本教材の利用法

この教材は中等教育に携わる先生方のために制作されました。

✓さまざまな状況、特に学校設備の不備、教員教材の不足、多人数教室、詰め込みカリキュラムなど問題の多い状況で生徒を指導する世界中の先生方だけでなく、インターネットやCD-ROMなど最新の教育技術を使って生徒指導にあたる先生方も対象になります。

✓12歳から18歳までの生徒を指導する、地理、歴史、言語、科学、数学、芸術など全教科の先生方を対象にします。

この教材は使いやすくできています。

この教材を使って次のようなことができます。

✓今日、明日、来週、またはこの先二、三カ月間に教室の内外で使いたい教材を選択することができます。

✓最初から読めば、教育手法のヒントを読み取ることができます。

✓テーマ別の各章を個別に取上げることも可能です。テーマ別の各章とは、「世界遺産条約」、「世界遺産とアイデンティティー（私たちの同一性・存在）」、「世界遺産と観光」、「世界遺産と環境」、「世界遺産と平和の文化」などです。

✓世界遺産条約、世界遺産地図、世界遺産の写真などの資料が参考になります。

✓この教材は全部でも一部でも使用できます。

✓手持ちの教材と一緒に使えます。例えば、自国や外国の世界遺産指定地域、その保護活動について図が出している情報、写真や地図、先生方や生徒が手作りした教材など。

この教材は利用しやすくするために色分けしてあります。

黒の太字で印刷された言葉は、
教材の中にある用語集の中で説明されています。

余白部分にはバトリモニートの絵とともに参考になる他の章の題名を示しました。

例えば



世界遺産の
教育手法

このマークは、
「世界遺産の教育手法」の章が参考になることを表わします。

このマークは、
「世界遺産条約」の章が参考になることを表わします。



世界遺産条約

24



世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)

このマークは、
「世界遺産とアイデンティティー (私たちの同一性・存在)」の章が
参考になることを表わします。

このマークは、
「世界遺産と観光」の章が参考になることを表わします。



世界遺産と観光



世界遺産と環境

このマークは、
「世界遺産と環境」の章が参考になることを表わします。

このマークは、
「世界遺産と平和の文化」の章が参考になることを表わします。



世界遺産と
平和の文化



このマークは、
次の資料・情報を含む「資料」の章が参考になることを
表わします。

条 約

本教材の表紙裏側のホルダーには、1972年ユネスコ「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（略称「世界遺産条約」）の全文が入っています。



写 真

本教材には世界自然・文化遺産の写真25枚が入っています。（写真の裏には、遺産の名称と簡単な説明、登録年月日、および登録の理由が記されています。）写真は、本教材の各章と関連づけて利用できます。生徒に主だった世界遺産の視覚的情報を与え、世界遺産認定基準の適用を理解させるのが目的です。



世界遺産地図

世界遺産地図は表紙裏側のホルダーに入っています。ユネスコ世界遺産センターが毎年作成するこの地図には、世界遺産条約の全締約国の批准年月日（1997年11月時点）、および地域別の世界遺産の登録年月日、名称が記載されています。



25

概 説

「概説」は表紙裏側のホルダーに入っています。ユネスコ世界遺産センターが毎年作成する「概説」には1998年1月時点で登録済みの世界遺産の説明、世界遺産リスト登録に際して適用された基準、およびリストへの登録年月日が記載されています。



連絡先

世界遺産情報や資料を各種団体・機関から入手するときのために、連絡先を「資料」の章に掲載しました。



参考資料一覧表

世界遺産に関する資料すべてを掲載するのは不可能なので、有料あるいは無料で入手できる参考資料の一覧表を「資料」の章に掲載しました。



先生方がこの教材を有効に利用できるよう 独自の特色や教材を加えました。



本教材には枠で囲まれた「生徒の活動」のヒントが42種類掲載されています。ここでもパトリモニートの絵を使って参考箇所を示しています。それぞれの地域、生徒のニーズに合わせて活動を調整、変更、あるいはさらに発展させることが可能です。活動のヒントをさらに有効に活用できるよう次のようなマークで表わしています。

活動の種類



討 議



視覚教育



調 査



世界遺産現地見学



実 習



ロールプレイ

活動種類の詳細



教室での活動



望ましい科目



課外活動



資 料



標準的な授業時間



その他教材

この教材には生徒に直接配布して、あるいはコピーして使える生徒の活動用シートが入っています。生徒の活動用シートの参照を勧める場合もパトリモニートのマークで表わします。

この教材の各章（「世界遺産条約」、「世界遺産とアイデンティティ（私たちの同一性・存在）」、「世界遺産と観光」、「世界遺産と環境」、「世界遺産と平和の文化」）には、各世界遺産とその問題についての追加資料として写真が添えられています。主要な5つの章の最後にOHPシートが一枚挿入されています。このOHPシートは5つの主要テーマの説明に使えます。例えば、世界遺産条約の章に添付されたOHPシートは、世界遺産の概念は文化遺産と自然遺産両方を含むという事実を説明するのに役立ちます。

本教材の中で展開されている世界遺産教育という概念は、内容・方法論どちらの点でもまったく新しい考え方なので、この教材も実験的な試みとして作成されました。本章の次には評価レポート用紙があります。本教材の使用を開始する前に用紙に目を通し、教材を使いながら記入してください。できるだけ多くの生徒の活動を実践し、資料を最大限に活用していただくことを希望します。記入済みの評価シートは、2000年7月30日必着でユネスコ [WHC/ASPNet, 7 place de Fontenoy, 75352 Paris 07 SP, France、またはファクシミリで(33 1) 45 68 56 22または(33 1) 45 68 55 70] にご返送ください。

この教材が提案する世界遺産活動という新しい、意欲的な試みに皆様方が成功を収められることをお祈りいたします。ユネスコはいつでも皆様に情報を提供し、お手伝いをさせていただきます。

**先生方と生徒の皆様の
成功をお祈りします。**

評価レポート用紙

若者の手にある世界遺産 —教師用世界遺産教育教材—

世界遺産保護の目的でユネスコが作成した試験的な教材の使用にご協力いただき有り難うございます。ユネスコは世界中の先生方からご意見をいただき、この教育教材を完成させ、刊行。多言語への翻訳、そして将来的には広く普及させたいと強く願っています。本教材をお試しいたきながら用紙に記入していただき、2000年7月30日までに自国のユネスコ国内委員会またはバリのユネスコ本部にご送付いただきますようお願いいたします。用紙が足りない場合は、別紙を添付してください。

一般データ

国名：.....

貴校について

学校名：.....

所在地（町名番地、私書箱番号、都市名および郵便番号、州／省名など）

電話番号：.....

ファクシミリ番号（ある場合）：.....

電子メール（ある場合）：.....

記入者氏名

性別 男 女

姓：.....

名：.....

本教材を使用した先生方の担当教科（例：歴史、地理など）をご記入ください。

1..... 4.....

2..... 5.....

3..... 6.....

参加生徒の年齢

12歳から13歳

14歳から15歳

16歳から18歳

一般的評価

1. 教材全体について先生の評価をお聞かせください。

大変役に立った 役に立った 役に立たなかった

その理由をご説明ください。

.....
.....
.....

2. この教材の構成全体についてのご感想をお聞かせください。

(例：ルーズリーフのホルダー、主要テーマごとの章分け、資料など)

大変優れている 優れている まあまあ よくない

その理由をご説明ください。

.....
.....
.....

3. 主としてどういう点が問題または使いにくい点だとお感じになりましたか？

.....
.....
.....

4. 今より良いものにするための具体的なお考えをお聞かせください？ こういうものを加えた方がいい、こういうものはない方がいいというヒントをお聞かせください。

.....
.....
.....

5. 主として教室での活動でお使いになりましたか、それとも課外活動にお使いになりましたか？

教室での活動で使用 課外活動で使用

6. 両方でお使いになった場合は、教室での使用と課外活動での使用時間の比率をお答えください。(例：教室での活動60%、課外活動40%)

教室での活動 % 課外活動 %

個別評価

7. この教材は、世界遺産教育に関する様々な教育手法を提案しています。次の項目について、1から3までの評価(1：大変有効、2：有効、3：有効でない)で有効性を判定してください。さらに、ご意見もお願いします。

総合的な取り組み 1 2 3

ご意見

✓世界遺産現地見学 1 2 3
ご意見

✓博物館見学 1 2 3
ご意見

✓インターネット 1 2 3
ご意見

✓その他の提案：
.....
.....

8. 1から3までの評価（1：大変関心を示した、2：ある程度関心を示した、3：まったく関心を示さなかった）で、テーマごとに分れた5つの章に対する生徒の関心度を判定してください。さらに、各テーマを扱われた順序をご記入ください。（例、「条約」：1、「環境」：2、「観光」：3など）

| | 関心 | 取り扱い順序 |
|---------------------------|----|--------|
| 世界遺産条約： 世界遺産とアイデンティティー | | |
| 世界遺産と観光： | | |
| 世界遺産と環境： | | |
| 世界遺産と平和の文化： | | |

9. 同じく1から3までの段階評価（1：大変有効、2：有効、3：有効でない）で、資料の有効性を判定してください。

| | |
|---------------|--|
| 用語集 | |
| 連絡先 | |
| 参考資料一覧表 | |
| 世界遺産条約 | |
| 世界遺産地域の概説 | |
| 世界遺産地域の写真25枚： | |
| 世界遺産地図 | |

10. 自国で既に作成されている世界遺産関連の教材を追加・併用することができましたか？

はい いいえ
「はい」とお答えの場合は、説明をお願いします。

11. 世界遺産教育に役立つ新しい教材の作成やこれまでにない教育手法の開発が可能でしたか？

はい いいえ
「はい」とお答えの場合は、説明をお願いします。

12. 生徒の活動の評価：
.....
.....



世界遺産の教育手法

| 生徒の 生活の 活動 | 実践の場 | | このテーマを用いた 授業時間数 | 科 目 | 評価 | | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|------------------|------|----|--------------------|--------|-----|------|------|--------------------------|
| | 授業 | 課外 | | | 効果大 | 効果あり | 効果なし | |
| 1 | | | | | | | | |



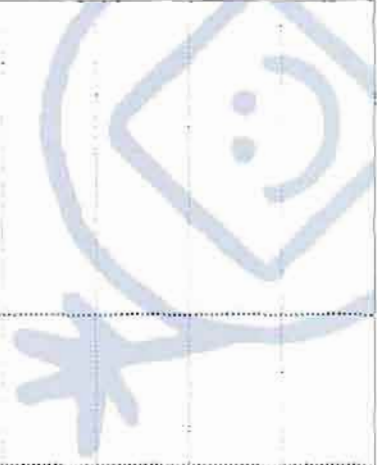
▶ 世界遺産条約

| 生徒の 活 動 | 実 践 の 場 | | このテーマを用いた 授業時間数 | 科 目 | 評 価 | | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|------------|---------|-----|--------------------|-----|-----|------|------|----------------------|
| | 課 外 | 課 内 | | | 効果大 | 効果あり | 効果なし | |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | |



世界遺産とアイデンティティー (私たちの同一性・存在)

| 生徒の 活動 | 実践の場 | | このテーマを用いた 授業時間数 | 科 目 | 評 価 | | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|-----------|------|----|--------------------|--------|--------|------|------|--------------------------|
| | 授業 | 課外 | | | 効果大 | 効果あり | 効果をし | |
| 16 | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | |



世界遺産と観光

| 生徒の活動 | 実施の場 | | このテーマを用いた授業時間数 | 科目 | 評価 | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|-------|------|----|----------------|----|-----|------|----------------------|
| | 授業 | 課外 | | | 到達度 | 効果なし | |
| 23 | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | |
| 26 | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | |
| 28 | | | | | | | |



世界遺産と環境

| 生徒の 活動 | 実践の場 | | このテーマを用いた 授業時間数 | 科 目 | 評 価 | | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|-----------|------|-----|--------------------|--------|-----|------|------|----------------------|
| | 授 業 | 課 外 | | | 効果大 | 効果あり | 効果なし | |
| 29 | | | | | | | | |
| 30 | | | | | | | | |
| 31 | | | | | | | | |
| 32 | | | | | | | | |
| 33 | | | | | | | | |
| 34 | | | | | | | | |
| 35 | | | | | | | | |
| 36 | | | | | | | | |

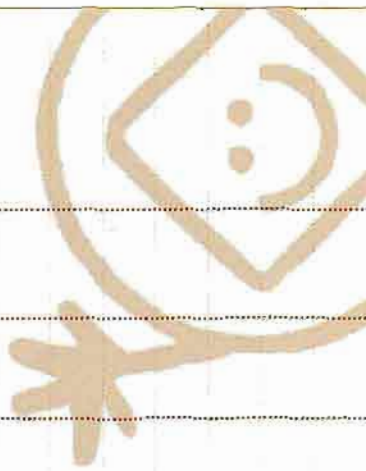


世界遺産と平和の文化

| 生徒の活動 | 実践の場 | | このテーマを用いた授業時間数 | 科目 | 評価値 | | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|-------|------|----|----------------|----|-----|------|------|----------------------|
| | 授業 | 課外 | | | 効果大 | 効果あり | 効果なし | |
| 37 | | | | | | | | |
| 38 | | | | | | | | |
| 39 | | | | | | | | |
| 40 | | | | | | | | |
| 41 | | | | | | | | |
| 42 | | | | | | | | |

13. 生徒の活動用シートに対する評価

| 生徒の活動用シートの名称 | 実践の場 | | このテーマを用いた授業時間数 | 科目 | 評価 | | | コメント (必要な場合別紙を使用) |
|--|------|----|----------------|----|-----|------|------|----------------------|
| | 授業 | 校外 | | | 効果大 | 効果あり | 効果なし | |
| 世界遺産地域見学 博物館の展示品調査 自国の世界遺産地域の認識 世界遺産地域の所在地把握 世界遺産登録基準の理解 文化遺産と自然遺産の推薦 世界観光統計1・2・3 世界遺産と観光ゲーム 遺産地域の観光施設の評価 世界自然遺産地域を通過する高速道路の建設 ギンドワナ大陸のジグソーパズル 世界遺産と平和のクロスワードパズルを作る | | | | | | | | |



14. この教材および生徒の活動、生徒の活動用シートを用いることで生徒の心構え、また行動に積極的な変化が出てくると思いますか。

はい いいえ

「はい」と答えた場合、どうやって変化ができるかをお書き下さい。

.....
.....

15. あなたの国の具体的なニーズや優先事項に対して、より良くこの教材を適応させるために、ユネスコとしてはどのように修正ができるのでしょうか。

.....
.....

16. この教材をあなたの国の言語に翻訳すべきだと思いますか。

はい いいえ

「はい」と答えた場合、言語名は？

.....
.....

17. UNESCOは、地域や国の状況に合わせてこの教材を共同で出版するための方法をいくつか探す予定です。地域/国のニーズへの最終案/適応ができれば、あなたの国においてすべての中学校に広く広めるべきだと思いますか。

はい いいえ

18. その他（必要なら別紙をご利用ください）

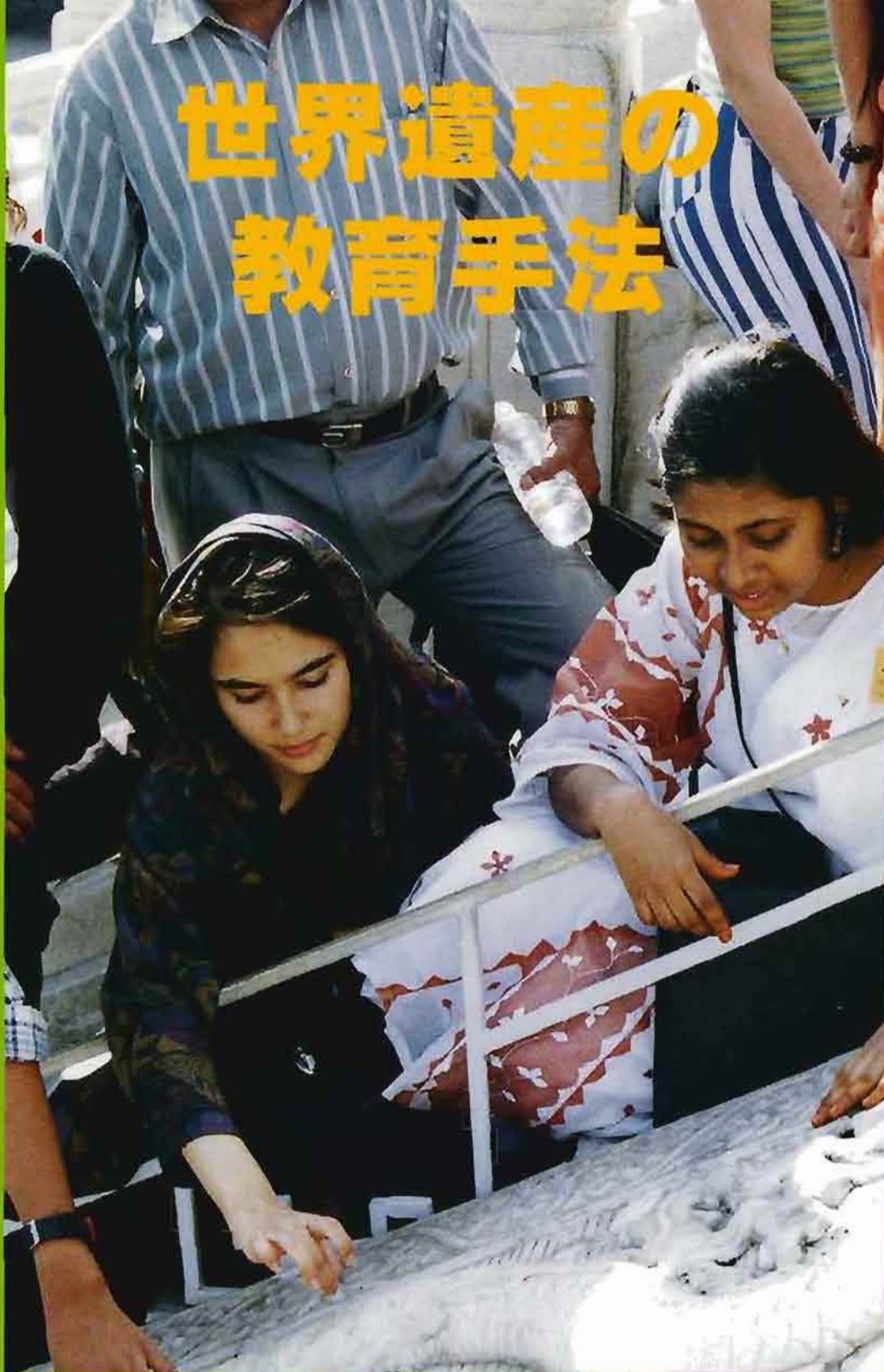
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....



10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

世界遺産の 教育手法

北京の紫禁城で匾の彫刻を鑑賞する世界遺産アジア太平洋地域ユースフォーラム参加の若者たち © UNESCO

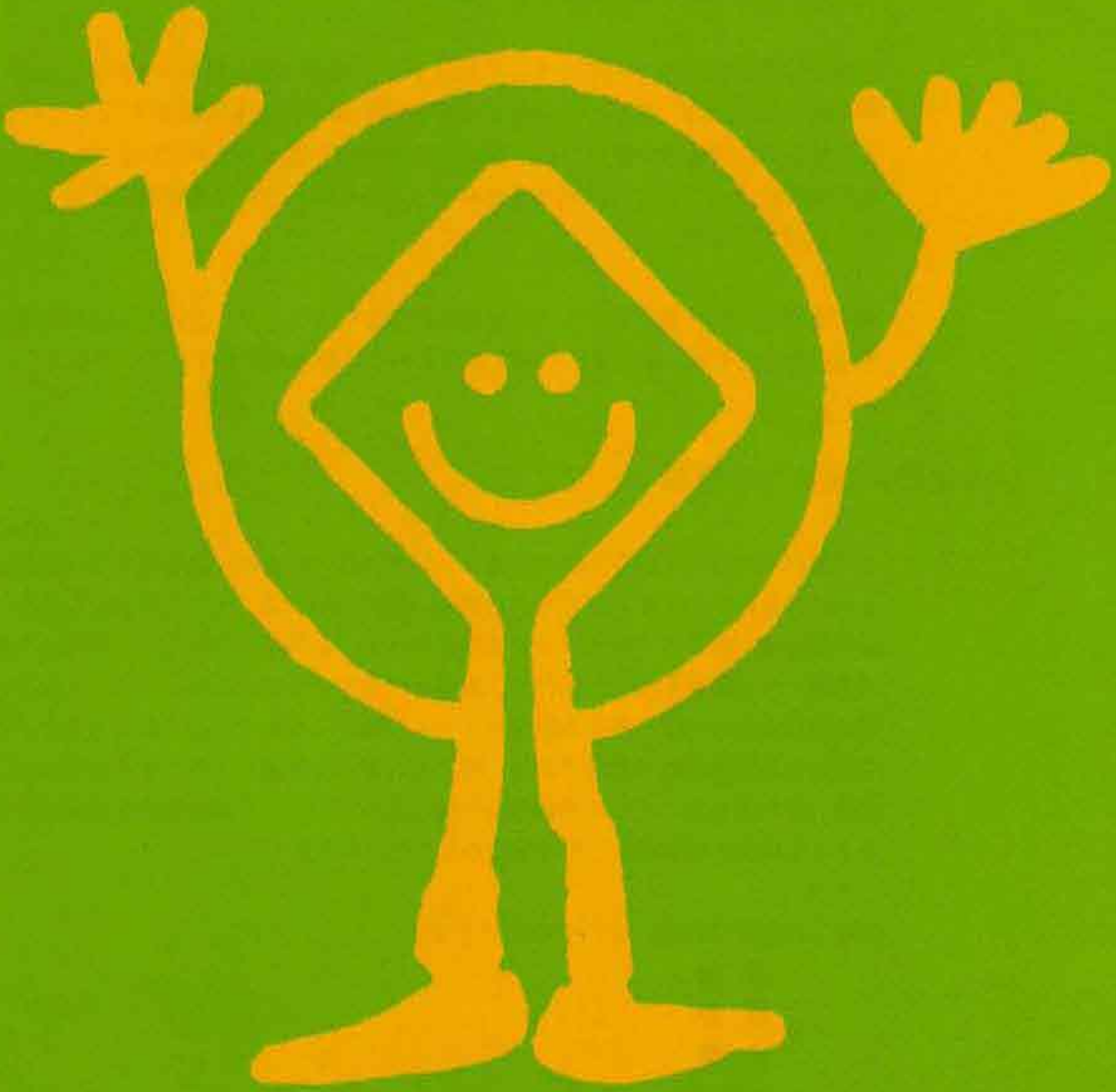


教師たちは、世界中の全ての学校における
全てのレベルで全ての生徒のために
世界遺産教育を導入し、
組み込むことが主な課題であることに合意した。

ザンビア・ジンバブエのビクトリアフォールズでの
第1回世界遺産アフリカ地域ユースフォーラム

世界遺産の教育手法

| | |
|-----------------------|------|
| 世界遺産の教育手法 | P.42 |
| 総合的な教育 | P.42 |
| 生徒の活動への提案 | P.43 |
| 討 議 | P.43 |
| 調 査 | P.43 |
| 実 習 | P.43 |
| 視覚授業 | P.43 |
| 世界遺産現地見学 | P.44 |
| 生徒の活動1：世界遺産地域クイズ | P.44 |
| 現地および博物館見学 | P.45 |
| 現地見学 | P.45 |
| 準 備 | P.45 |
| 下 見 | P.45 |
| 現地見学 | P.46 |
| 現地見学後の復習 | P.46 |
| 生徒の活動用シート：世界遺産地域見学 | P.48 |
| 博物館見学 | P.50 |
| 博物館見学時の説明員 | P.50 |
| 博物館展示品の調査研究 | P.50 |
| 生徒の活動用シート：博物館の展示品調査 | P.51 |
| 工芸工房の見学 | P.52 |
| ロールプレイ | P.52 |
| 教室でのロールプレイ | P.52 |
| 世界遺産地域での劇による歴史の再現 | P.53 |
| 対立の平和的解決 | P.54 |
| グローバルネットワーク化とインターネット | P.55 |
| グローバルネットワーク化 | P.55 |
| 世界遺産教育のためのネットサーフィン | P.56 |
| インターネット | P.56 |
| 電子メール（Eメール） | P.56 |
| ワールドワイドウェブ（WWWまたはウェブ） | P.56 |
| なぜインターネットを利用するのか？ | P.57 |
| インターネット上での世界遺産 | P.59 |
| インターネット上での協同学校プロジェクト | P.59 |
| 役に立つインターネットアドレス | P.60 |



総合的な教育

未来の子供たちのために、また私たちの地球の存続のために、世界遺産を保護することの大きな価値と普遍的な重要性、これらの課題は独創的な、多教科による、そして教科をまたがる（学際的な）教育と学習の機会を提供します。

ほとんどの学校では既に関心を持ってカリキュラムをつめこみすぎて、教師の負担も増えつつけているため、若い人たちの世界遺産保護への感覚を養おうとする教師たちはこれまでも総合的な手法を選択してきました。

総合的かつ学際的な手法をとることによって、歴史・地理・科学・語学などの異なる学科の教師たちが、教室での授業に世界遺産に関する教育的要素を導入できます。この教材の主な各章の末尾には、関連する学科の手法が示されています。全ての手法が生徒に適しているとは限りませんが、これらのアイデアを状況に応じて活用することができます。

異なる学科の教師達が協力して世界遺産教育を行うことで、生徒たちに世界遺産の保全のために学び、慈しみ、行動しようという気持ちが生まれることでしょう。

▲生徒の活動への提案

この教材で示されている生徒の活動は、提案されている総合的な教育手法を進めるように作られています。これらの活動の一部については、すでに当初から若者のための世界遺産教育プロジェクトに参加している、世界中の各地域から選ばれた多数の教師たちが調査を行い、試行し、評価を行っています。この手法は、それぞれの国の地域的なニーズや異なる教育システムに簡単に適合することができます。ここで紹介する学習技術の最終目的は、私たちの遺産を保護しようとする若者の思いを刺激し強めること、そして地域社会を巻き込んでいくような刺激的な活動を提供することで学校と地域社会との溝を埋めることにあります。

提案した生徒の活動には6つの柱があります。

討 議
調 査
実 習
視覚授業
世界遺産現地見学
ロールプレイ

討 議

世界遺産教育によって生徒たちは遺産の意義や価値、世界遺産の管理に必要な技術、世界遺産を訪ねる観光旅行の功罪といったような事柄について考え、話し合うよう

になります。世界遺産教育は知識の習得とともに活動も含んでいるため、討議の授業は生徒たちが世界遺産にいっそう親しみを持ち、遺産の保護に生涯にわたって関わっていくのに最も有効です。



自分の「遺産」のひとつである自家製の菓子をドップロヴニクユースフォーラムの参加者に配るスロベニアの生徒。
©UNESCO

調査

科学技術の進歩に伴い、大きな情報革新が進んでいます。図書館あるいはインターネットを通じて情報案内やデータバンク、各種調査結果、統計一覧にアクセスする学校は増加し続けることでしょう。世界遺産教育は生徒たちに、情報の収集と分析、結論の導き方、世界遺産保護に関連する活動の提案・計画などの基本的な研究方法を手ほどきします。

実習

世界遺産教育は、行動を通して学ぶことを重視しており、生徒たちはここでは実践的で実際の活動を行います。この手法は経験的な学習としてよく引き合いに出されます。活動は生徒たちの独創力、想像力、問題解決の技術、芸術的・美術的才能、ゲームやロールプレイの能力にかかわるものです。この教材で提案している実習では生徒にとって使いやすく、生徒の手で完成しやすい生徒の活動用シートを用います。

視覚授業(写真を利用)

世界遺産教育は、世界遺産リストに登録されている世界遺産地域(2000年)月現在で630カ所)について生徒たちが学ぶよう勤めています。この教材では豊富な種類の写真をもとに学習過程が進むようになっていきます。初めてこれらの遺産を目にする生徒も多いでしょうが、一度見るとこれらの遺産を忘れることはないでしょう。CD-ROMやインターネットなどの新しい教育技術を利用される方にも世界遺産の驚異を発見する手段としてお使いになるようお勧めします。

世界遺産現地見学



ハンガリーの
アグテレック・カルストの洞窟と
スロバキアのスロバキア・カルストの
洞窟について専門家から
説明を受けるハンガリーの生徒
© UNESCO

若者のための世界遺産教育プロジェクトでわかったことは、生徒が世界遺産について知れば知るほど、自分の国や大陸を越えた場所を学び、探索し、調査したいと思うようになるということです。この教材ではさまざまな活動が紹介されています。世界各地から選ばれた世界文化遺産・自然遺産の性質や価値、またその保護についてより深く理解できます。背景となる情報や、写真、スライドによって、生徒たちが遠く

離れた土地を旅し、探検することを想像して世界遺産に特別な興味や関心を抱くようになればと考えます。

■生徒の活動1

世界遺産地域クイズ

目的：世界遺産地域についての生徒の知識を測り、世界遺産保護に対する興味を促す



見直し



教室での活動



所要時間：
1時間



地理・社会



中学生、
世界遺産の知識
がある

✓生徒たちに世界遺産クイズを出題することを説明し、これから見せる1から25までの各写真の遺産地域の名称を書いてリストを作らせます。もし生徒が遺産地域名をはっきり知らない場合は、この遺産がどこにあるか、その国名を書きます。遺産名を書き取れるよう、生徒にこの教材にある25枚の写真を一ずつ見せます（教師参照用に写真裏に遺産地域名が示してあります）。

✓生徒に写真を全て見せ終わったら、隣の席の生徒とリストを交換し、完全正解一つ毎に1ポイント、(遺産名を書けずに)国名が正解の場合には0.5ポイントをつけさせます。正解者にはちょっとした賞品をあげます。

現地および博物館見学

若者たちを教室外に連れ出し、自分達の地域社会や国、さらには外国にある現地や博物館を訪れる機会をもてることが世界遺産教育のすばらしい特長になっています。周到的な準備と効果的な構成、復習の活動を行えば最高の結果が与えられるでしょう。

▲現地見学

世界遺産教育での最高の目玉が世界遺産地域の現地見学であることは経験上明らかです。以下の実践的なステップを踏めば、教師・生徒双方にとって非常に思い出深い経験となるでしょう。

準備

世界遺産地域見学を成功させるためには十分な準備が必要不可欠です。この準備には以下のようなことが含まれます。

- 教師による遺産地域の下見
- 遺産地域およびその保護に対する生徒の知識、心がまえ、能力、行動の変化を評価するための、見学前・後のアンケート準備
- 過去の出来事を再現したり、遺産地域にまつわる物語や伝説を話し、または描いたりするような、生徒の特別活動を準備
- 生徒にとって見学の復習になるような課題を計画

下見

教師が生徒の訪問の準備を手助けするため、できるだけ多くの学科からできるだけ多くの教師が参加するようにしましょう。例えば、歴史の教師は遺産地域について時代を通しての情報を提供できます。地理の教師は遺産の立地についての特徴や遺産そのものの地理的な特徴について教えることができます。語学の教師は専門のテキスト（文学、詩、劇など）を提供できます。美術教師は生徒たちに絵を描きあるいは遺産地域の縮尺模型をつくるよう、指導できます。教養教師は生徒たちに文化遺産がどのように作られたか、あるいは自然遺産にはどれくらいの種類の生物が含まれるかを計算させることができます。理科の教師は観光、公害、不注意が遺産に被害を及ぼす可能性を生徒に教えることができます。



古代エジプトの頭飾をつけて、エジプト、サハラ砂漠の階段状ピラミッドを見学中の協同学校プロジェクトの生徒たち
© UNESCO

生徒たちに伝統的な衣装を着け、古代の音楽や伝統音楽を聞かせ、あるいは生徒たちに歌わせたり、(生徒たちには内緒で) 特別ゲストを招くなどして、見学を忘れない経験にしましょう。その遺産地域に見学の計画を支援してくれるような教育関係者がいるかどうか調べてみて下さい。

その遺産地域についての教材がすでにある場合には、見学に先だって生徒たちと利用してみましょう。実際上必要な情報(入場料の額、開場時間、写真撮影の可否、食事や軽食ができるかどうか、土産品店、休憩室、応急手当設備の有無など)を集め、生徒全員が同時に宿泊できるか、それともいくつかのグループに分けなければならないかどうかを確認しましょう。

遺産地域訪問中に生徒の活動用シートを完成できるように、シートを準備し、筆記用具、画用紙、カメラ、鉛筆など見学に必要な道具や装備をそろえましょう。

ビデオカメラがあれば、見学を記録し、後から生徒や父兄などにビデオを見せることができます。



生徒の活動用シート
世界遺産現地見学

現地見学

スケッチ、写真撮影、(遺産地域ガイドと一緒に、あるいは単独で、または複数の生徒たちによる) インタビュー、生徒各個人の見学日誌の用意、ビデオ撮影、休息やレクリエーション(例: 歌謡フェスティバル、遺産地域で働いている人々と一緒に父兄が用意したおやつを食べる)など、遺産地域現地見学中のさまざまな活動を予測しましょう。ちょっとしたお土産を用意し、帰るときに遺産地域の管理者にそれを生徒からプレゼントさせましょう。

北京世界遺産ユースフォーラムにて、天壇を訪れた生徒たちが自分たちの遺産地域を25メートルの巻き紙に描いている
©UNESCO



ザンビア、ジンバブエのビクトリアフォールズ(モシ・オ・トゥニャ)世界遺産ユースフォーラムに参加している生徒たち。彼らの遺産地域見学の重要性について議論している
©UNESCO

現地見学後の復習

見学の復習は、生徒たちがその体験を自分のものとし他の人たちに伝えるために、準備と同様に重要です。復習として以下のことを提示します。

- ・生徒たちと、何が一番好きだったか嫌いだったかも含め、見たものや

学んだことについて話し合う

・遺産地域を保護しつつ観光誘致に利用するにはどうしたらよいか、遺産地域を脅かしているものとそれに対して取るべき解決法、旅行者の管理をしやすいするための若いガイドへの提案など、新たな調査計画を生徒たちに提案する

・生徒たちのスケッチに基づき、もっと大きな絵画や工作に取り組みよう指導し、展示会を開く

・生徒が見学の際に撮った写真を現像させ、展示会を企画して、そこで生徒と父兄に最もうまく撮れた遺産地域の写真をいくつか選んでもらい、入賞者へ賞品を出す

・生徒たちに彼らの遺産地域見学について学校新聞や地方紙・全国紙に記事を書くよう勧める

・生徒にその他の遺産地域見学の企画をもちかける



北京世界遺産
ユネスフォーラム
©UNESCO

各生徒が地域（世界遺産地域が望ましい）の見学前、見学中、見学直後に記入

地域名 _____

生徒名 _____

見学日 _____

見学に期待すること（発見したいこと、学びたいことなど）

期待すること（発見したいこと、学びたいことなど）

見学中

遺産地域で特に心に残った部分や特徴のスケッチをしましょう（別紙）。

遺産地域についてあなたが学んだ事実や数字を記録しましょう。

感じたことを書きましょう：目を閉じて聞こえた音、匂いについて書きましょう。またあなたに強い印象を与えた遺産地域の姿を描写してください。

音： _____

匂い： _____

触め： _____

見学後

期待通りの見学でしたか？

はい

いいえ

理由

理由

この遺産地域が大切なと感じる理由を書きましょう。

代わりに

理由

日付

▲博物館見学

博物館の見学は世界遺産教育のもう一つの重要な面であり、博物館職員もしくは世界博物館会議 (ICOM) のメンバーが、教師にとって頼れる仲間となります。博物館は往々にして特定の文化的・自然的特徴をはっきりと見られる唯一の場となります。

近くに博物館のない学校では、その他の地元の場所・地域の人々・両親や祖父母が、過去を想起させ、過去と現在を結ぶ役割を果たします。



カイロ、ギザ、ゴラクで、以前は奴隷の館だった歴史博物館を訪れる生徒たち
©UNESCO



エジプト、アレクサンドリアのローマ帝国博物館で説明を受けている協同学校プロジェクトの生徒たち
©UNESCO

博物館見学時の説明員

博物館の中には、巨大で膨大な数の展示品を有するものがあり、若者が1回の見学で知識を吸収し、鑑賞することは困難です。したがって、自分たちの見学のテーマや課題をしぼり、(知識が豊富で話がうまい) 説明員を特別に手配する教師もいます。

博物館展示品の調査研究

博物館見学に先立ち、生徒には、特に見学中に観察し、深く調査する目標を一つ示すことが望まれます。生徒の活動用シートでは、生徒が各自課題を進めるように博物館の展示品調査が与えられています。見学後、教室にもどって生徒たちが発見したことを発表します。

調査する展示品を書きましょう

| 観察された様子 | 質 問 | 観 察 | さらに質問が必要なこと |
|---------|---|-----|-------------|
| 形態上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・何色ですか？ ・どんな匂いですか？ ・どんな音ですか？ ・何でできていますか？ ・自然にできた物ですか、それとも人工物ですか？ ・完全ですか？ ・直したり、調整したり修繕したりされていますか？ | | |
| 精 造 | <ul style="list-style-type: none"> ・すりへっていますか？ ・手で作った物ですか、それとも機械で作った物ですか？ ・全体を一度に作ってありますか、それとも部分部分で作ってありますか？ ・どうやってくっつけてありますか？ | | |
| 使 用 | <ul style="list-style-type: none"> ・それはどうやって使われたのですか？ ・使用法は変わりましたか？ | | |
| デザイン | <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った動きを十分にしていますか？ ・飾りがついていますか？ ・最高の材料が使われていますか？ ・みかけは気に入りましたか？ ・あなただったらどんなデザインにしますか？ ・どのくらいの価値がありますか？ | | |
| 価 値 | <ul style="list-style-type: none"> ・それを作った人にとってはどうですか？ ・それを使った人にとってはどうですか？ ・それを持っていた人にとってはどうですか？ ・あなたにとってはどのくらいの価値がありますか？ ・博物館にとってはどのくらいの価値がありますか？ ・収集家にとってはどのくらいの価値がありますか？ | | |

工芸工房の見学



参考資料一覧表

博物館の工芸のなかには、数十年あるいは何世紀にもわたって代々伝えられた技術を継承した現代の職人が今でも作っているもの（例えば陶芸）もあります。工芸工房の見学も組み込むことで生徒たちに、彼らが博物館で見た伝統工芸品が現在でも作られているのに実際に触れ、見るすることができます。こうして生徒たちは自分たちの存在と（世界遺産を含めた）遺産と地元の工芸とのつながりを理解するのです。



ユネスコによる芸術工芸意識向上のための地域間プロジェクトの一部として、グアテマラで織物の技術を学んでいる児童
©UNESCO

52

ロールプレイ

生徒が世界遺産保護に賛同するよう関心を引こうとしている多くの教師たちが、ロールプレイがとても有効であるということに気付いてきました。ロールプレイには5つの目的があります。

- ・ 自覚を促す
- ・ 難解で抽象的なテーマを理解しやすくする
- ・ 新しい調査技術を身につける
- ・ 心構えと長期にわたる関わり合いをつくりだす
- ・ 生徒たちの創造的潜在能力をひきだす

▲教室でのロールプレイ

世界遺産の保護には難しく複雑な問題をたくさんかかえている場合もあります。例えば世界遺産リストに新しい遺産地域を加えるかどうかの決定やさまざまな保存材料や方法、開発の選択（古い家の解体、観光の発展、新しい道路の建設などの開発）、保護・管理計画、遺産地域の点検、広報キャンペーン、どの遺産地域を他より優先させて資金援助するか、などです。

ロールプレイを通じて生徒はこれらの論点について、また適切な決定をする方法についての理解をより深めます。教師は生徒を小グループに分け、各グループにその

グループが演じるべき立場や特性を熟考し、調べるように言います。必要な情報やデータをどこで見つけるかを示すことで生徒を手助けできます。別の場合には、教師があらかじめ演ずるべき各関係者について記載したカードを生徒の各グループに1枚ずつ配っておきます。各グループはそれぞれの立場について話し合い、代表としてロールプレイに参加する生徒を一人選びます。この生徒はロールプレイで自分のグループの立場を弁護します。その他の生徒は代表の生徒の発表を元に決定投票する陪審員あるいは委員の役割を果たします。

以下のようなステップを踏めば生徒たちがロールプレイの課程を全体的に理解できるでしょう。

- ・世界遺産地域が直面している保護に関する課題の特質を確定する
- ・生徒たちが異なる各関係者を代表して、この課題の解決法を提示する
- ・発表された解決法を生徒たちが評価する
- ・最善の解決法を生徒たちが民主的に選択する
- ・この解決法を実行するにはどうしたらよいかを生徒たちが決める
- ・自分たちの選択の結果がどうであったか、生徒たちが評価する

▲世界遺産地域での劇による歴史の再現

世界遺産地域の現地で歴史劇を演ずることは、若者の心に強い印象として残ります。デンマークのクローンボア城でのシェークスピア作「ハムレット」上演や、エジプト・ルクソールでヴェルディのオペラ「アイーダ」上演など、数々の名作が世界遺産地域で上演されています。クロアチアの世界遺産都市スプリトでは、ユネスコ協同学校プロジェクトの生徒たちがローマ帝国皇帝ディオクレティアヌスの城跡で彼にまつわる劇を上演しました。



ロールプレイを通じて世界遺産都市スプリトの生きた歴史を伝える協同学校プロジェクトの地元生徒たち（クロアチアのスプリト、ディオクレティアヌスの城跡）
©UNESCO

▲対立の平和的解決

世界遺産の保護に関連して対立が生じる場合があります。例えば所有権をめぐる論争や、戦争、開発計画などが原因になります。そしてこれらの対立は創造的かつ公正な解決法を用いて平和的に解決されなければなりません。ロールプレイは若者に暴力によらない対立解消法を示し、問題を違った角度からとらえ、妥協という概念の重要性と実用性を理解するのに有効です。

教師が「開発計画」対「世界遺産の保護」などのシナリオを用意する方法もあります。生徒を異なったグループに分け、各グループに固有の役割を与えます。例えば開発責任者、世界遺産地域を歴史的に守ってきた人々、遺産地域の学芸員、地元的首長、地元建設業者や観光客などです。下記のチェックリストは解決に向けての交渉を準備するうえで各グループへの手助けとなるでしょう。この解決はみんなに安心感を与え、問題を先送りにしないものです。

ロールプレイを通じた平和的解決法による世界遺産保護のためのチェックリスト

1. 発表者ではなく問題に傾注する
2. 反対者の立場においてものを考えるよう努め、一つのグループが複数の利害を有することを念頭におく
3. 反対者が自由に意見や感想を言えるようにする。意見をよく聞く
4. 反対者を理解するよう努め、彼らの主張の骨子が何であるかを認める
5. 包括的なものの言い方をするのではなく、本質的な質問をする
6. 言いたいことを相手にはっきりと伝える
7. 細かいことにこだわり過ぎて本質を見失わないように
8. 可能な限り、全てのグループが何らかの満足感を得られる解決法を見つける。目標は適切な解決を見出すことである
9. 相手を脅かさない
10. 表面下での圧力をかけない
11. 個性的で前向きな意見を述べる
12. 前向きに最も難しい問題に取り組み、徐々に対立を解決する
13. 新たな対立を生まないよう、協力する
14. 将来の対立の解決法に合意する



教師は観察者として舞台裏にとどまるようにします。ただし（求めに応じて）手助けをできるようにします。

グローバルネットワーク化とインターネット

私たちは、情報が爆発的に増加する時代に生きています。インターネットを通じて、即座に世界中の図書館、データベース、公文書館、気象情報、消費物資などにアクセスできます。世界遺産教育および研究において情報やデータは重要であり、新しい技術によって教師や生徒は世界遺産の価値を発見したり、遺産の保護についてより深く学ぶための新たな刺激的な方法を得ることでしょう。

しかし、インターネットは世界中のすべての人々が使えるというわけではなく、ほとんどの人々はまだアクセスできずにいます。しかし、コンピューターの購入価格の下落と世界中でより安価な通信サービスを利用できるようになったことで、ユーザーの数は急速に拡大していくと見込まれます。

▲グローバルネットワーク化

ユネスコによる若者のための世界遺産教育プロジェクトを通じて、世界中の各種の中学校がグローバルネットワークに参加するようになりました。このプロジェクトの重要な点は、学校のカリキュラムに世界遺産を導入するための新しく効果的な方法を開発させていく上で、互いに学びあい、それぞれの経験を共有できることです。

このプロジェクトに参加する学校のはほとんどはユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク (ASPNet) のメンバーです。このユネスコ協同学校プロジェクトネットワークはユネスコ世界遺産センターと共に若者のための世界遺産教育プロジェクトのような試験的なプロジェクトを行い、教育の人文的・文化的・国際的側面を強化するよう企画されています。協同学校プロジェクトネットワークの学校は、経験だけでなく資源も共有するという連携関係や交流を確立しています。

世界中の教師と生徒を結びつけるのがネットワーク化のもう一つの重要な特長であり、ユネスコは世界遺産ユースフォーラムを通じ、国別や地域の複数国を対象とした教師向けのワークショップを主宰することでこれをすすめています。ユネスコ加盟国は、教師向けの世界遺産国内ワークショップなどの特別研修を率先して実施するように求められています。こうしたワークショップは1997年と1998年の8月に、世界遺産の鉱山町であるノルウェーのレーロースで開催されました。また、レーロースでは若者のためのヨーロッパ世界遺産修復のコースも1997年8月5日から14日まで行われました。

各国から教師と生徒が集まるにはもちろん非常にお金がかかります。しかしネットワーク化を目指してインターネットなどの新技術を利用することは、人々が互いに知り合い、活発で日常的なコミュニケーションをとり、考えを共有するための効果的な手段となります。

効果的なネットワーク化には豊富な情報の流れと強い協力関係が必要です。ユネスコは若者のための世界遺産教育プロジェクトについての情報をインターネットや各種刊行物で広報しています。



▲世界遺産教育のためのネットサーフィン

新しいコミュニケーションの技術が利用できるようになるにつれ、情報にアクセスする手段は目下、空前の変貌と発展を遂げつつあります。今日の若者にとって、最大の試練は氾濫する情報や彼らが利用可能なデータの意味を理解し、それに対して批評眼をもって接することです。それに加え、生徒たちは何を・どのようにして・どこで探すかを知る必要があります。

インターネット

インターネットは情報交換のための世界的ネットワークであり、共通の様式（プロトコル）すなわちコミュニケーションの基準によって成立しています。

インターネットによって情報データベース、電子新聞雑誌、参考図書一覧表、ソフトウェアが利用可能になり、情報の交換と伝播の場が提供されます。

今日では、インターネットは誰も予測し得なかったほど急速に広まってきています。日々新たなホームページが追加されています。インターネットのユーザーは1995年には5600万人でしたが、2000年までには20億人に増えると予想されています。

電子メール（Eメール）

Eメールはコンピューターを利用してメッセージを送る方法です。メッセージは、モデムや電話回線、または送電線を通じて他のコンピューターと電子的に接続されたコンピューターに打ち込まれます。

どの機種でも、どの速さでも、モデムのついたコンピューターがある学校なら、電話回線を通じてEメールを交換することができ、新しいグローバルコミュニケーションネットワークに参加することができます。

Eメールを通じれば、ユネスコの世界遺産電子ニュースサービスであるWHNEWSや世界遺産ニュースレターなどを簡単に購読契約することができます。

Eメールを通じてwwwの情報にアクセスすることも可能です。

ワールドワイドウェブ（WWWまたはウェブ）

ウェブは、ユーザーがインターネット上で世界中の読者に向けて情報を提供できるひとつの方法です。コンピューターのユーザーがちょうど掲示板のように情報を書き込むものです。

ウェブで見られる個々のページをホームページといいます。それらのページは通常、関連する他のホームページ上の情報（資料、組織など）とリンクする、キーワードとなる単語やフレーズをのせています。

ホームページにはテキスト形式で情報を載せているものと、映像やアニメーション、音楽を載せているものもあります。

ウェブサイトは、施設、組織、個人、学校などが単独で利用可能になったホームページの集りもしくはグループです。

ウェブには現在3000万から5000万のホームページがあり、ホームページ数は月に合計20パーセントの割合で増加しつづけています。

なぜインターネットを利用するのか？

インターネットは、教師や生徒に、世界中の教師や生徒たちと直接連絡を取りあう機会を提供すると共に、新たな情報源を与えるものです。生徒たちにはこの莫大なネットワークが提供する情報源を利用するために必要な技術と設備を手えなければなりません。

インターネットは以下のことに役立ちます。

- ・生徒にインターネットの主要な機能を紹介する
- ・世界遺産の調査を行う上で、情報技術を利用する技能を高める
- ・世界遺産の専門的な論題について、情報、電子新聞雑誌、ソフトウェアのプログラム、情報交換の場にアクセスできる
- ・生徒が世界中の仲間たちと直接連絡をとることを可能にし、異文化学習を促進する
- ・特定の場面において生徒が問題を解決するときに情報技術を用いるよう奨励する

WWWやEメールを通じて生徒は、自分自身について、自分たちの文化や慣習、価値観、遺産について、遠くにいる仲間たちに紹介できます。教室に座ったままで、生徒たちは国内外のはかの生徒たちと直接コミュニケーションを行い、文化、文明、世界遺産についてより多くの発見ができます。私たちの共有する遺産を公衆、都市化、戦争、怠慢による危険や破壊から守るための共同プロジェクトで、世界各地の学校が協力できます。

活動

1. ユネスコの世界遺産ホームページに問い合わせて、世界遺産保護のためにユネスコが何をしているのかを見出す
2. 世界遺産教育に関わっている学校を確認するためユネスコ協同学校プロジェクトネットワークのウェブサイトを見る
3. 2か国にわたる世界遺産に関連した観光旅行を説明・比較するなどの世界遺産教育プロジェクトを開発する
4. 外国の学校と、世界遺産リストに登録を提案する場所のリストを作成・交換する
5. パトリモニートが地元の遺産地域を訪問したときの話をマンガで描き、他の学校に送る

6. 外国の主要な大学図書館に特定の世界遺産地域に関する参考図書一覧表を提供してくれるよう、相談する
7. インターネットに必要な設備がない学校は、世界遺産教育のためのインターネットの設備やリンクに要する資金を集める
8. 学校のホームページを作成し、自分たちの世界遺産プロジェクトについて記述する
9. 世界遺産教育の重要な問題についてネットワークを通じて外国の学校の同僚と話し合う
10. 電子版の世界遺産ニュースレター「WHNEWS:LookingatASPnet (ユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク)」の配信を申し込む

クロアチアのドゥブロヴニクで行われた第1回ヨーロッパ地域世界遺産ユースフォーラムでは、生徒たちがインターネットを始め、インターネットを通じて世界中の仲間たちや世界遺産の専門家たちと話をしました。以下に生徒たちが受け取ったメッセージの抜粋を掲載します。

あなたたちのフォーラムが楽しいものでありますように。ベルゲンで開かれたときと同じような感じですか？ワークショップはどうですか？市街地に行ってみましたか？まだ復興していませんか？私たちのポスターを生徒の皆さんはどう思いますか？

ベルゲンユースフォーラムに参加したフランスの生徒

ドイツにある協同学校プロジェクト参加101校では、あなたたちのフォーラムが世界遺産教育を進める上で有益な結果を数多く出せるよう、お祈りします。私たちは9月にある協同学校プロジェクトの年次会合のために世界遺産教育ワークショップの準備を進めており、そのときみなさんが何をやるかについて情報をお寄せ下さればと思います。

協同学校プロジェクトドイツ国内コーディネーター

インターネットのワークショップをどう思うかという質問に対する生徒の反応

私はコンピューターに興味を持っています。私はインターネットを利用したことがなかったのでますます興味がわいてきました。ヨーロッパの遺産地域についての情報を得ることができました。

イギリスの生徒

たくさんの情報を得られるので、コンピューターを使うのは好き。このグループは面白い！

ラトヴィアの生徒

▲インターネット上での世界遺産

ユネスコ世界遺産センターは世界遺産条約や世界遺産地域についての情報をインターネットで提供しています。世界遺産のホームページは2000以上あり、現在進行中のプロジェクトや出版物を表すために5つの基本的な見出しと図柄によって構成されています。

- 世界遺産について
- そのしくみは？
- リストのすべて
- 案内係
- 内 容

世界遺産情報ネットワーク (WHIN)



WHINは、ユネスコ世界遺産センターと、世界遺産地域の保護に関わるその他の機関が連携して運営しています。世界保全監視センター (WCMC) の協力を得て、WHINは世界遺産地域について重要な情報を掲載したウェブサイトをすべて検索できるサーチエンジンを有しています。もっと詳しい情報を知りたい方はwhin@unesco.orgまで、Eメールをください。

▲インターネット上での協同学校プロジェクト

ユネスコ協同学校プロジェクトネットワークのウェブサイトには、ネットワーク、活動の目的、参加している学校や国の数、代表的なプロジェクト、利用可能な資料、ユネスコ協同学校プロジェクトネットワークの実践的な手引書やパンフレットなどに関する総合的な情報が掲載されています。もっと詳しい情報を知りたい方はaspnet@unesco.orgまでEメールでお問い合わせ下さい。



▲インターネット上での協同学校プロジェクト

ユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク案内
<http://www.education.unesco.org/educprog/asp/>

ユネスコ教育案内
<http://www.education.unesco.org>

世界遺産センター
<http://www.unesco.org/whc/>
Eメール：wh-info@unesco.org

世界遺産リスト
<http://www.unesco.org/whc/heritage.htm>

国際自然保護連合 (IUCN)
<http://www.iucn.org>

国際博物館会議 (ICOM)
<http://www.icom.org>

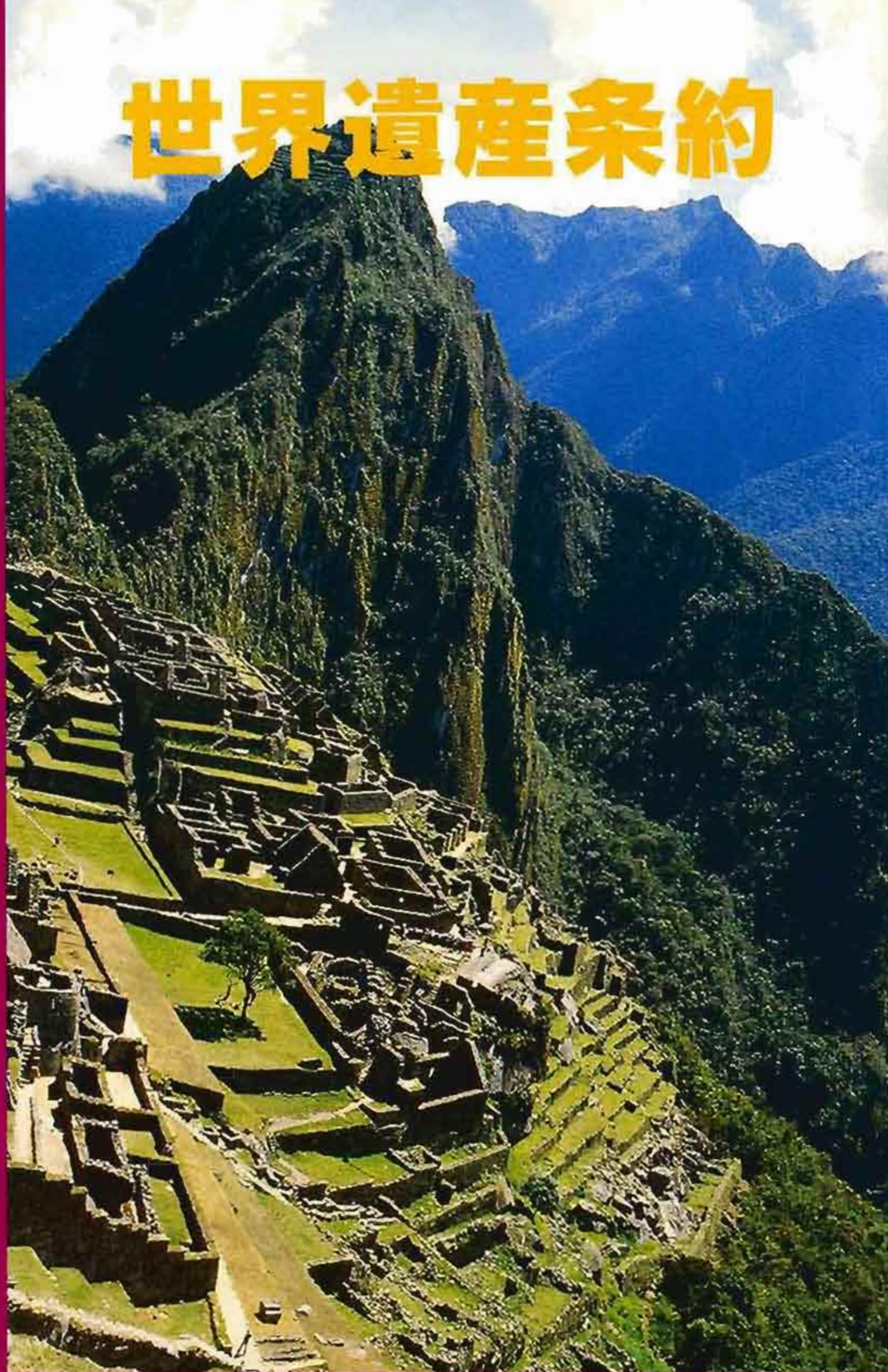
国際記念物遺跡会議 (ICOMOS)
<http://www.icomos.org>

文化財の保存及び修復の研究のための国際センター (ICCROM)
<http://www.iccrom.org>

遺産保護のためのインターネット資料
<http://www.cr.nps.gov/ncptt/irg/>

世界遺産都市機構 (OWHC)
<http://www.ovpm.org>

世界遺産条約



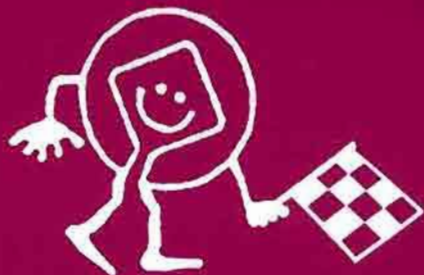
文化遺産または自然遺産の損壊や滅失は、
世界のすべての国民の遺産に対する
憂うべき貧困化を意味する。

世界遺産条約前文

世界遺産条約

| | | | |
|------------------------------|------|--|-------|
| 目 的 | P.61 | 世界遺産の登録基準 | P.79 |
| 知 識 | P.61 | 世界文化遺産の登録基準 | P.79 |
| 心がまえ | P.61 | 世界自然遺産の登録基準 | P.80 |
| 能 力 | P.61 | 世界複合遺産の登録基準 | P.80 |
| | | 基準の適用 | P.81 |
| 私たちの遺産についての認識 | P.62 | 生徒の活動8：世界遺産地域の所在地把握 | P.82 |
| 「遺産」とは？ | P.62 | 生徒の活動用シート： 世界遺産地域の所在地把握 | P.83 |
| 生徒の活動2：遺産の意味 | P.63 | 生徒の活動9：世界遺産登録基準の理解 | P.85 |
| 遺産の存続にとって深刻な脅威 | P.64 | 生徒の活動用シート： 世界遺産登録基準の理解 | P.86 |
| 世界の遺産の救済 | P.65 | 生徒の活動10：文化遺産と自然遺産の推薦 | P.88 |
| 成功したアブシンベル神殿移設運動 | P.66 | 生徒の活動用シート： 文化遺産と自然遺産の推薦 | P.89 |
| 生徒の活動3：世界七不思議 | P.67 | 世界遺産委員会と ユネスコ世界遺産センター | P.91 |
| 私たちの世界遺産を救う条約の草案づくり | P.68 | 生徒の活動11：国内遺産委員会との会合 | P.92 |
| 生徒の活動4：「遺産」と「保護」の定義づけ | P.68 | 生徒の活動12：コロンビアの サンタ・クルーズ・デ・モンポスの歴史地区 | P.93 |
| ユネスコ世界遺産条約 | P.69 | 世界遺産地域の保護状況の監視 | P.96 |
| 世界遺産条約 | P.69 | 「危機にさらされている世界遺産リスト」 | P.96 |
| 生徒の活動5： 遺産保護一国の法律と国際条約 | P.71 | 生徒の活動13： イエローストーン国立公園（アメリカ合衆国） | P.98 |
| 緊密に結びついた自然と文化 | P.72 | 生徒の活動14： 世界遺産をテーマにしたラジオ番組の制作 | P.101 |
| 文化遺産と自然遺産 | P.72 | 世界遺産基金 | P.101 |
| 文化的景観 | P.72 | 生徒の活動15：意識の向上 | P.103 |
| 遺産保護の過程 | P.73 | カリキュラムを通じて：世界遺産条約 | P.104 |
| 世界遺産リスト— 顕著な普遍的価値を有する遺産地域 | P.75 | OHPシート：世界遺産条約 | |
| 公平でバランスのとれた | | | |
| 世界遺産リストのための世界戦略 | P.75 | | |
| 生徒の活動6： 世界遺産地域の縮尺模型の作成 | P.76 | | |
| 生徒の活動7：自国の世界遺産地域の認識 | P.77 | | |
| 生徒の活動用シート： 自国の世界遺産地域の認識 | P.78 | | |

目的



知識

生徒の知識と理解を育てる：

- 遺産と「世界遺産」の概念について
- 世界遺産が直面している脅威について
- 世界遺産条約の重要性について
- 世界遺産リストへの登録の適否を判断する基準について
- 世界遺産保護の重要な過程について

心がまえ

生徒の心に働きかける：

- 自分が暮らす地域の遺産保存にかかわるように
- 世界遺産地域を尊重し、価値を認識するように
- 異文化への理解を深め、関心を抱くように
- 文化や自然の多様性を尊重するように

能力

生徒の能力を育てる：

- 自分の地域にある遺産や世界遺産を保護するために責任ある決定を下す能力
- 遺産に関連する問題解決のヒントを提供し、協力する能力
- 遺産の保存活動に協力する能力
- 調査を行い、分析的手法で世界遺産についての学習を深める能力

▲「遺産」とは？

「遺産」は、私たちが過去から受け継ぎ、現在ともに暮らし、そして将来の世代が学び、驚きの目を見張り、喜びを感じることができるように伝えるものと定義されます。

辞書を見ると、「遺産」は「相続したもの」と定義されています。

遺産

1. 実際に相続した、あるいは相続する可能性のあるもの
2. 相続という事実、世襲相続
3. 適切に所持されるように贈与された、あるいは受領されたもの
4. 相続した土地全体、あるいはその一部

(オックスフォード小辞典より)

あなたは、遺産とは私たちが守りたいと願う場所や「もの」だと考えるかも知れません。それは、先祖から私たちに伝えられたものであり、私たちに活力を与え、着想の源となる美しく、科学的に重要で、かつ、かけがえのないものです。そこに私たちは文化遺産や、自然遺産の価値を見いだします。文化遺産や自然遺産は私たち自身を知るための鏡、私たちの評価基準、私たちの存在そのものです。遺産はしばしば私たちの祖先の生活を垣間見せてくれます。遺産が今日もなおそこにあるのは、保存の努力がなされているからです。

あなたの地域に遺産がなかったとしたら？ 試しに自分達が住んでいる場所のことを考えてください。過去、現在、未来を表現するのは何ですか？ 保存すべきなのは何ですか？ 取り替えがきくのは何ですか？ 取り替えがきかないのは何ですか？

世界には文化遺産と自然遺産の両方があります。あなたの地域にも、考古学的遺跡や岩絵の遺跡、教会など宗教的な場所や、聖なる場所、あるいは歴史都市と呼ばれるものがあるかも知れません。これらを「文化遺産」と呼びます。あなたは森、あるいは長い海岸線の近くに住んでいるかも知れません。これらを「自然遺産」と呼びます。これらはすべて「非可動遺産」(簡単に移動させることができない)

です。コイン、植物、絵画、彫刻、出土品などの遺産は、「可動遺産」(手軽に持ち運びができる)です。



非可動遺産：タージ・マハル (インド)
© UNESCO/P. Leclaire



可動遺産：アフリカの仮面
© UNESCO/P. Leclaire



世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)



■生徒の活動2

遺産の意味

目的：遺産の意味・価値・種類を理解する



討 議



教室での
活動



授業時間数：
2時間



語学・歴史・
社会



写 真、
OHPシート



自分の
持ち物

可動遺産

✓家で何世代にもわたって受け継がれてきて、大事にして価値をおいている自分の持ち物（例えば、絵、宝石、数物、陶器）を生徒に見せ、それは容易に動かしたり、移動させることができるので可動遺産であるということを説明します。これは文化遺産ですか、それとも自然遺産ですか。

✓討 議

・物とは何でしょうか。それがあなたにとってなぜ価値があるのでしょうか。なぜあなたはそれを大切にしようとするのでしょうか。その物を大切にあなたの子孫に残そうとするのであれば、それを守るために何をしなければならないのでしょうか。

・生徒に自分が大切にしているものを翌日教室に持ってこさせ、持ち寄った物を並べて、教室を臨時の博物館にし、それについて話し合ってください。この品物を将来ずっと保存する価値があると生徒に思わせるものは何なのでしょう。

✓ユネスコは可動文化遺産の保護に関する国際条約（文化財の不法な輸入、輸出および所有権譲渡の禁止および防止の手段に関する条約、1970年11月14日）も担当していることを説明します。

非可動遺産

ユネスコの世界遺産リストに登録されている地域はすべて非可動遺産です。すなわち容易に動かすことができないものであることを説明して下さい。写真やOHPシートから例となる物を選びます。

✓討 議

・生徒に自分が今までに見たり学んだりした国内外の地域について考え、顕著な建築物、希少動植物など、わたしたちに伝えられてきたその場所についての情報や意味を挙げさせます。

・周辺地域で採集、手をつけずにおいていたいと思う自然地域を生徒に考えさせます。その地域を保護することがなぜ大切なのか理由を挙げ、話し合ってください。



参考資料一覧表



写 真



無形の遺産：
ブルンディから来たダンサーたち
© UNESCO/M. Claude

▲遺産の存続にとって深刻な脅威


世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)


世界遺産と観光

64


参考資料一覧表


世界遺産と環境

私たちの文化遺産や自然遺産は損傷を被りやすく、特に過去100年間は大きな脅威にさらされてきました。例えば第一次、第二次世界大戦では数多くの古い町や都市が破壊されました。重要な文化的記念建造物が損傷したり、焼失したりしました。また、遺産は急速な都市化、貧困、自然災害、環境汚染にもさらされてきました。観光地化の進行により、数多くの歴史的記念碑や遺跡に人々が押し寄せます。遺産の存続にとって最も大きな脅威のひとつは、世界中の多くの人々が遺産に注意を払わないことです。

新しい脅威に対応するため、第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、**国連**の前身である**国際連盟**が遺産の保護について検討を始めました。国際連盟は遺産保護への協力を世界に訴えました。**国連教育科学文化機関**（ユネスコ）が第二次世界大戦終了の年1945年に設立された時、特に重要な遺産を救う運動がいくつか繰り広げられたことと、人類の遺産を守るための新しい国際条約の草案と勧告が作成されたことで遺産保護運動に弾みがつきました。結果として生まれた「武力紛争の際の文化財の保護のための条約」（1954年ハーグ条約としても知られる）は戦時における文化遺産保護を目的としています。

世界遺産

世界は私たちが受け継いだ財産
それは私の、あなたの、そして私たちのもの
だから未来の人々のために大切にしましょう

ビクトリア湖の静かな湖面
雄大なビクトリアの滝、そしてドナウ川の優美な流れと
そこに集まる小鳥達、そして
曲がりくねって流れるミシシッピ川とミズーリ川

見上げれば何が見える？
美しい風景と、ジンバブエの古代遺跡が見えます
ファラオの国にある謎に満ちたエジプトのピラミッドも

エルサレムにある古代の城壁、中国の万里の長城も見えます

見上げれば見えるのは、

力強いドラーケンスベルク山脈

ムチンガの切り立った斜面

ヒマラヤ、そしてロシアのウラル山脈

それにカナディアンロッキーと、息をのむキリマンジャロ山

あなた、わたし、そして他の人たち

世界は私たちの遺産

あなたが守っていく遺産

私たちの世界遺産を壊さないで

美しい風景や山々を切り崩さないで

国立公園や野生動物を損なわないで

それから、コンゴの森とジャングルも、アマゾンも

どうか世界遺産を救い、守ってください

ザンビアとジンバブエの国境にあるビクトリアの滝で開かれた
世界遺産ユースフォーラムに参加した生徒マウヤネイ・マラベサ作



ビクトリア滝
(モシ・オ・トゥニャ)
ザンビア・ジンバブエ
© UNESCO/D. Reed

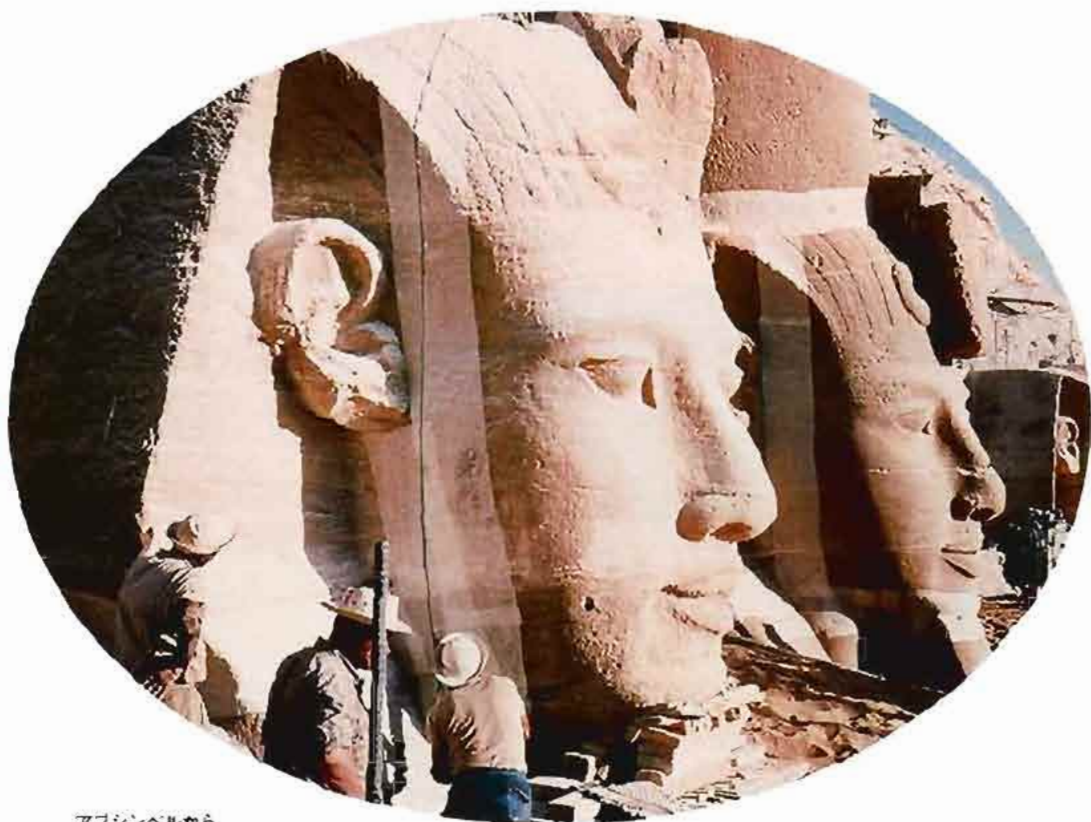
世界の遺産の救済

1950年代、エジプトがアスワンハイダム建設を決定した時、大切な遺産のある場所を救うための国際的運動がユネスコによって開始されました。古代エジプト文明の精華、アブシンベル神殿があるナイル峡谷がダムの底に沈むというニュースは世界の国々の関心を引き、早急に保護活動を取りまとめる必要があることを知らせました。エジプト政府とスーダン政府の呼びかけに応じ、ユネスコは1959年アブシンベル神殿を救う国際運動を開始しました。ユネスコの活動に協力した約50カ国は、緊急保護運動の期間中18年間に合計8000万ドルを拠出しました。

最新技術のおかげで、フィラエ島の神殿群は石材ひとつひとつに分解され、水位が上昇してもナイル川の水が及ばない近くのアギールキア島に運ばれて、再び元の

形に組み上げられました。島に遺跡を移設するために爆薬で岩を爆破し、解体した神殿の重いブロックが壁にはめ込まれました。石のブロックの重さはひとつ0.5トンから12トン。約40,000個のブロックを移設しました。ブロックひとつひとつに番号が打たれ、新しい場所で間違いなく組み立てられるように配慮されました。

アスワンハイダムが建設されれば、アブシンベル神殿はナイル川の底に水没するはずでした。「非可動文化遺産」と通常私たちが考えている遺産の例である神殿を救う唯一の方法は解体と移設でした。今日、世界中の遺産保存専門家はアブシンベル神殿のように、他に手段がない場合以外は、文化的記念物を物理的に移設するのは好ましくないと考えています。



66

アブシンベルから
フィラエへ移されたヌビアの像
© UNESCO/NENADOVIC

▲成功したアブシンベル神殿移設運動

アブシンベル神殿を救う運動は、遠い国々の人でも関心を持たずにはいられない「顕著な普遍的価値」を有する遺産が世界には存在することを示しました。さらに、遺産保護においては国々が責任感を共有し団結する必要があることも示しました。この運動の成功は、その後次々に行われた国際的保護運動につながりました。例をあげると、イタリアのベニス、パキスタンのモヘンジョダロ、インドネシアのボロブドゥールなど、そのうちのカンボジア、アンコール等の国際的保護プログラム等は現在も継続しています。



■生徒の活動3

世界七不思議

目的：

古代から現代までのかけがえのない地域についての概念を考える



討 議



教室での活動



授業時間数：
1時間



語学・歴史・
社会



世界遺産地図、
解説

重要な地域のリストをつくるという考え方は古くからあります。古代ギリシャ人は世界の七不思議を次のように考えました。

- ・エジプトのピラミッド
- ・バビロンの吊り庭
- ・エペソスのアルテミスの神殿
- ・オリュンピアのゼウス坐像
- ・ハリカーナサスの霊廟
- ・ロードス島のヘーリオスの巨像
- ・アレキサンドリアの灯明台



メンフィスと共同墓地—エジプトのギザからダーシュールにあるピラミッド
© UNESCO, Alcocerbt

エジプトのピラミッドは現存していますが、古代の7不思議のうち、残りの6つはほとんど消滅しており、考古学的な記録の中にわずかにその痕跡が残っているだけです。

古代ギリシャ人が考えた七不思議は、その時代の地中海世界での文化遺産の最高の例といえます。世界遺産のリストには世界中の自然遺産と文化遺産があり、重要なことは、その保護のために世界遺産条約が法的な役割を果たしていることです。七不思議と異なるのは、私たちがこれから何世紀にもわたって世界遺産地域をすべて守っていけることを願っていることです。

✓生徒に、自分にとってもっとも大切な、七つの地域のリスト—自分自身の世界七不思議—を新たに作らせ、その七つの地域と世界遺産リストに登録されている地域との比較をさせてください。その結果を話し合ってください。



世界遺産地図



解説

▲私たちの世界遺産を救う条約の草案づくり



連絡先



世界遺産と環境

アブシンベル神殿を救う運動の結果として、ユネスコは、国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) という非政府団体と共同して文化遺産保護に関する条約の草案づくりに着手しました。アメリカ合衆国と国際自然保護連合 (IUCN、同じく非政府団体で現在の名称はWorld Conservation Union) は自然遺産と文化遺産の保護の両方をひとつの条約に盛り込むことを提案しました。この提案は、スウェーデンのストックホルムで開かれた1972年9月の国連人間環境会議 (この会議は20年後の1992年にリオデジャネイロで開かれた地球サミットに引き継がれました) に提出されました。「顕著な普遍的価値」を有する文化遺産と自然遺産の両方を対象とする国際条約を生み出す準備がこうして整ったのです。ユネスコは国連の専門機関の中で、教育、科学、文化という広範な領域を対象とする唯一の機関であることから、ストックホルム会議は自然遺産と文化遺産を保護する条約の作成をユネスコに委託しました。

ストックホルムでの環境会議の2ヶ月後、1972年11月16日、フランスのパリにあるユネスコ本部で開かれたユネスコ総会第17回総会において「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」が採択されました。

■生徒の活動4

「遺産」と「保護」の定義づけ

目的：「遺産」と「保護」という考え方についての理解を深める



討議



教室での活動



授業時間数：
2時間



語学



用語集



評書

✓ 「遺産」と「保護」を定義づけ、二つの言葉にまつわる短い作文を生徒に書かせます。優秀な作文を書いた生徒には賞品を出します。地域で進行中の遺産保護プロジェクトの実例を挙げさせ、他の遺産についても提案を出させます。



ユネスコ世界遺産条約

▲世界遺産条約

国連教育科学文化機関

世界の文化遺産及び 自然遺産の保護に関する条約

1972年11月16日パリで開催された第17回総会で採択された

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
Organización de las Naciones Unidas para la Educación, la Ciencia y la Cultura
Organisation des Nations Unies pour l'éducation, la science et la culture
Организация Объединённых Наций по вопросам образования, науки и культуры
منظمة الأمم المتحدة للتربية والعلم والثقافة

Convention concerning the protection of the world cultural and natural heritage

adopted by the General Conference at its seventeenth session
Paris, 16 November 1972

Convención sobre la protección del patrimonio mundial, cultural y natural

aprobada por la Conferencia General en su decimoséptima reunión
Paris, 16 de noviembre de 1972

Convention concernant la protection du patrimoine mondial, culturel et naturel

adoptée par la Conférence générale à sa dix-septième session
Paris, 16 novembre 1972

Конвенция об охране всемирного культурного и природного наследия

принята Генеральной конференцией на семнадцатой сессии,
Париж, 16 ноября 1972 г.

اتفاقية لحماية التراث العالمي الثقافي والطبيعي

المرتبطة بالتصديق على بروتوكول القاهرة
تاريخه 16 نوفمبر 1972





ユネスコ本部
(フランス・パリ)
© UNESCO/ Ombouy

この条約は、顕著な普遍的価値を有する、かけがえのない人類共有の文化遺産及び自然遺産を、緊急に特定・保護する必要を明文化した世界初の公式な国際的法律文書です。

この条約は、人類共有の文化遺産及び自然遺産を国際協力を通じて保護することが人類共通の倫理的・財政的責任であると明確に規定しています。

世界遺産という考え方

- ・顕著で普遍的価値を持つ遺産の保護
- ・文化遺産および自然遺産の両方を対象とする
- ・非可動遺産であること
- ・かけがえのない遺産の保存
- ・世界遺産の保存は国際社会全体の行動にかかっている

生徒の活動5

遺産保護－国内法と国際条約

目的：

国レベル及び国際的な遺産保護活動の実施について意識を啓発する



調査



教室での活動



授業時間数：
1時間



語学、歴史、
社会



世界遺産地区、参考資料
世界遺産条約、一覧表

✓生徒をふたつのグループに分け、次の調査課題と問題を与えます。

(a) グループ1には、自分の国が世界遺産条約の締約国になっているかどうか、なっている場合はいつ締結したか調べさせます。(世界遺産地区にある各国の締結年を参照。)世界遺産条約締結調印の動機と利点は？

(b) グループ2には、国際社会(ユネスコ)が世界遺産条約の採択を決定した理由を一覧表にまとめさせます。

(c) 生徒に世界遺産条約を読ませ、内容をまとめて討議させます。

世界遺産を世界中の教育プログラムに取り入れる必要性は世界遺産条約第27条6項に明確に述べられています。この条項は各締約国に対し「自国民が文化遺産および自然遺産の価値をより深く理解し、より深い敬意の念を抱くよう適切な方策、特に教育および情報プログラムを通じて努力すること」を呼びかけています。

私たちの誓い。文化遺産および自然遺産教育を通じて世界遺産条約の理解を助けること。遺産教育を全国的カリキュラムに取り入れる必要があります。また世界遺産についての授業だけでなく、見学活動も実施する必要があります。

ノルウェーのベルゲンで開かれた、
「第1回世界遺産ユースフォーラム」に参加した生徒

なぜ遺産保護が必要なのか、その理由を青少年の心に植え付けなければ、専門機関や国の法律を通じて遺産保護・保存活動を行なうことに何の価値があるだろうか？

クロアチア文化相ゴージ・ビスクビッチ

(ドブロヴニクで開かれた第1回世界遺産ヨーロッパ地域ユースフォーラムの開会式において)



ノルウェー、ベルゲンの
世界遺産ユースフォーラムに
参加している若者たち
©UNESCO



世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)



世界遺産条約

▲緊密に結びついた自然と文化

自然保護と文化保護を結びつけるという点で、世界遺産条約はこれまでにない独自性を持っています。文化遺産保護と自然遺産保護をこれほど包括的に統合する法律は、国家レベルでもほとんど存在しませんし、国際条約に至っては皆無です。自然と文化の相互補完性については言うまでもありません。多様な文化的個性は人々の生活環境の中でその独自性が強化されます。美しい記念碑、建築、遺跡なども周囲の自然環境があるからこそ美しさが際立つのです。雄大な自然遺跡には何世紀にもわたる人間の営みが刻印されていたり、そこに暮らす人々の精神的、文化的、芸術的価値観にとって重要だったりするのです。

世界遺産のシンボルマークは文化遺産と自然遺産、文化と自然の間に内在する関係を象徴しています。

▲文化遺産と自然遺産

世界遺産条約第1条は「文化遺産」、第2条は「自然遺産」を規定しています。



条約



バジュラヨギニ寺院
の階段を掃いている
ネパールの協同学校の
生徒たち
© UNESCO

都市とその住民のために文化遺産を守る人。それはどこに行けば見つかるのでしょうか？ 答は「どこにでも」。しかし確実に見つけれられる場所、一番先に探すべき場所は学校です。ここでもユネスコのネットワークを活用できます。協同学校プロジェクトのもとで数千校が国際協力に参加しています。

ノルウェー文化相オーサ・クレーヴェラン（1995年）



世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)

▲文化的景観

1992年、世界遺産委員会は文化と自然の明らかな相互作用を「文化的景観」として承認しました。

世界遺産リストに登録されている文化的景観には、ニュージーランドの「トンガリロ国立公園」、オーストラリアの「ウルルーカタ・ジッター国立公園」、フィリピンの「フィリピン・コルダイレラの棚田群」、ポルトガルの「シントラの文化的景観」、チェコ共和国の「レドニツェ＝ヴァルチツェの文化的景観」、オーストリアの「ハルシュタット・ダッハシュタイン、ザルツカンマーグートの文化的景観」、フランス/スペインの「ピレネー＝ベルデュ山」、イタリアの「アマルフィ海岸」、「ポルトヴェネーレ、チンクエ・チツレと小島群（パルマリア、ティーノとティネット島）」があります。世界遺産に登録されている文化的景観の詳しい情報はユネスコ世界遺産センターまたは同センターのウェブ・サイトまで。



連絡先



シントラの文化的景観
(ポルトガル)
© UNESCO

遺産保護の過程

世界遺産の保護過程はずっと続くものですが、いくつかの段階に分かれます。第一段階では国々が世界遺産条約の締約国となり、世界遺産リストに遺産地域を推薦することで世界遺産保護への関わりがでてきます。次の挿絵は**推薦**過程を示したものです。



1 ある国が世界遺産条約に調印して締約国となり、自国の文化遺産、自然遺産を保護することを約束します。

2 締約国は自国の領土内にあり、顕著な普遍的価値を有すると考えられる文化遺産および自然遺産の暫定リストを作成します。



3 締約国は暫定リストから世界遺産リストに推薦する遺産地域を選びます。



4 記入した推薦リストをユネスコ世界遺産センターに送付します。

5 ユネスコ世界遺産センターは記入漏れがないことを確認し、評価のため国際自然保護連合(IUCN)、国際記念物遺跡会議(ICOMOS)に送付します。



6 保護・管理状況を評価するため、専門家が地域を視察します。

7 ICOMOS、IUCNは文化遺産および自然遺産の評価基準を用いて、推薦物件を審査します。



74



8 ICOMOS、IUCNは評価報告書を作成します。

9 世界遺産委員会の役員になっている7か国が推薦文と評価報告書を検討し、世界遺産委員会に提出する勧告をまとめます。



10 21か国から成る世界遺産委員会が「登録」、「見送り」、「却下」の最終決定を下します。

▲世界遺産リストー顕著な普遍的価値を有する遺産地域

世界遺産条約に調印後その国は締約国となり、自国内の文化遺産および自然遺産を現在、将来にわたって保護する責任が生じます。

世界遺産条約に調印すると、その国は自国内の地域を世界遺産リスト候補に推す作業を始めることができます。登録候補としての最初の推薦人は地元の人々でも構いませんが、ユネスコへの推薦は公式の政府機関を経なければなりません。まず、締約国は推薦する地域を決定します。この選出作業を「特定」と呼びます。世界遺産条約は自国内に存在する文化遺産および自然遺産のうち顕著な普遍的価値を有すると思われるものの一覧表作成を締約国に求めています。世界遺産認定の可能性ありと締約国が特定した選り抜きの遺産は、次に「暫定リスト」としてユネスコ世界遺産センターに提出されます。

締約国が遺産を推薦する際は特別の推薦用紙を使用しなければなりません。締約国は世界遺産委員会の規定する登録基準を用い、当該遺産が世界遺産リスト登録に値すると思われる理由を述べ、同時に、当該遺産が適切に保護・管理されている事実を示すことを求められます。また当該遺産と他の同種の遺産との比較分析も必要です。ICOMOS、IUCNは推薦物件を評価した上で世界遺産委員会に勧告します。そして世界遺産委員会が世界遺産リストに登録する遺産を最終的に決定します。

1997年現在、世界遺産リストには112か国の552の遺産地域が登録されています。内訳は文化遺産418地域、自然遺産114地域、文化・自然複合遺産が20地域です。[2000年1月現在の遺産地域数は118か国の630地域。内訳は文化遺産480地域、自然遺産128地域、文化・自然複合遺産22地域。]

▲公平でバランスのとれた世界遺産リストのための世界戦略

世界遺産委員会はアフリカ、アラブ諸国、アジア・太平洋、ヨーロッパおよび北アメリカ、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国などの地域に、世界遺産が適切に配分されるよう努めています。1994年、世界遺産委員会は世界遺産リストの地域、文化、自然の多様性を保つため特別な配慮をすることを決定し、「公平でバランスのとれた世界遺産リストのための世界戦略」を採択しました。

私の今の思いを人に伝えます。アフリカの遺産についての情報が十分ではないと思います。

ザンビアとジンバブエの国境にあるゼクトリアの滝で開かれた世界遺産ニュースフォーラムに参加したモザンビークの生徒



生徒の活動用シート
文化遺産と
自然遺産の推薦



概説



世界遺産地図



■生徒の活動6

世界遺産地域の縮尺模型の作成

目的：創造力を高め、世界遺産地域について詳しく学ぶ



芸術



授業での活動・
課外活動



授業時間数：
数時間



数学・芸術・
歴史・地理



写真
OHPシート



ダンボール
紙・のり・
粘土

✓写真とOHPシートを生徒に見せ、ひとつあるいはいくつかの世界遺産地域を生徒に選ばせ、その縮小模型を作らせませす。数学の教師が模型の縮小方法を説明することもできます。美術教師あるいは地元の芸術家や建築家が模型の作り方についてアドバイスを与えることもできます。歴史の教師は、史実的な正確さについて助言できます。縮小模型が完成したら展示会を企画して、親や地域の人々に見てもらってください。

中国「万里の長城」の
縮小模型
© UNESCO





■生徒の活動7

自国の世界遺産地域の認識

目的：自分の国にある世界遺産地域を意識する



調査



教室での活動



授業時間数：
1または2時間



地理・歴史



生徒の活動用
シート：自国
の世界遺産地
域の認識、
世界遺産
地区

✓生徒たちに自分の国か近くの国にある世界遺産地域を10ヶ所あげさせます。

あなたの国は世界遺産条約の締約国ですか？

あなたの国では、どのような機関が世界遺産条約の実施責任を有していますか（文化遺産の場合、自然遺産の場合）？

あなたの国とユネスコとの間にどのようなつながりがありますか。たとえば、ユネスコの国内委員会があなたの国にありますか？



世界遺産地図

世界遺産地図には世界遺産条約の締約国のリストと、今までに世界遺産地域に登録された552地域が載っています。

あなたの国か近くの国にある世界遺産地域を見つけて、その名前と場所を下の箱の中に書いてください。その地域が文化遺産地域なのか、自然遺産地域なのかあるいは複合遺産地域なのかを書いてください。

結果をみんなで話し合ってください。



条約

| No | 世界遺産地域の 名称 | 世界遺産地域に 登録された年 | 締約国 | 地域の種類 (文化・自然・複合) |
|----|---------------|-------------------|-----|---------------------|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |

世界遺産の登録基準

世界遺産の登録基準について先生方にお知らせすること

この登録基準は世界遺産保護にとって極めて重要な要素であり、世界遺産教育のあらゆる局面で銘記すべき基準です。

世界遺産リスト作成は国際社会にとって大きな課題です。すなわち、他のものではなく、なぜ、ある地域や遺跡群、または記念物を世界遺産の一部とする決定が可能なのでしょうか？言い換えれば、ある文化遺産または自然遺産の顕著な普遍的価値、あるいは「世界遺産」としての価値を構成しているのは一体何でしょうか？

「世界遺産条約施行のための作業指針」は、世界遺産委員会の多年の努力により生み出されました。これはある遺産を世界遺産リスト登録のために推薦する方法と、そのために必要な登録基準を説明するものです。

▲世界文化遺産の登録基準

「作業指針」には世界遺産登録の可能性を有する文化遺産記念建造物、建築物群、遺跡の選定に適用される8つの基準が含まれています。

候補となる文化遺産は次の要件を満たす必要があります。



(i) 人間の創造的才能を表す傑作であること

マッシュワ・マジェール
(アルジェリア)
©UNESCO/ICOM

(ii) ある期間、あるいは世界のある文化圏において、建築物、技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に大きな影響を与えた人間的価値の交流を示していること



(iii) 現存する、あるいはすでに消滅してしまった文化的伝統や文明に関する独特な、あるいは稀な証拠を示していること

イェリシグ遺跡、ルーン
文字石碑と教会
(デンマーク)
©UNESCO

(iv) 人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、あるいは建築的または技術的な集合体、あるいは景観に関するすぐれた見本であること



参考資料一覧表



写真

大ジンバブエ国立遺跡、
ジンバブエ共和国



写真

ブラジリア、ブラジル



写真

チキトスの
イエズス会伝道施設、
ボリビア共和国

(v) ある文化（または複数の文化）を特徴づけるような人類の伝統的集落や土地利用の一例であること。特に抗しきれない歴史の流れによってその存続が危うくなっている場合



写真

メンフィスと
その墓地遺跡
ギーザからダハシュールま
でのピラミッド地帯、
エジプト・アラブ共和国

(vi) 顕著で普遍的な価値を持つ出来事、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連があること

同様に重要なのは文化遺産の真正性と、保護・管理に完全を期すことです。

▲世界自然遺産の登録基準

世界遺産に登録される価値のある自然遺産の選定について「作業指針」には4つの登録基準があります。



メッセル・ピットの化石遺跡
(ドイツ)
© UNESCO

(i) 生命進化の記録、地形形成における重要な進行しつつある地質学的過程、あるいは重要な地形学的、あるいは自然地理学的特徴を含む、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な例であること

ベリースのバリア・リーフ保護区
(ベリース)
© UNESCO

(ii) 陸上、淡水域、沿岸・海洋生態系、動・植物群集の進化や発展において、重要な進行しつつある生態学的・生物学的過程を代表する顕著な例であること



(iii) ひときわすぐれた自然美および美的要素をもった自然現象、あるいは地域を含むこと

(iv) 学術上、あるいは保全上の観点から見て、顕著で普遍的な価値をもつ、絶滅のおそれのある種を含む、野生状態における生物の多様性の保全にとって、最も重要な自然の生息・生育地を含むこと

同様に重要なのは保護・管理に完全を期して自然遺産を完全な形で保護することです。

▲世界複合遺産の登録基準

世界複合遺産は自然、文化両方において顕著な価値を有し、したがって文化遺産登録基準と自然遺産登録基準を組み合わせると世界遺産リストに登録されるものです。



写真

グレート・バリア・リーフ、
オーストラリア



写真

リオ・プラターノ
生物圏保護区、
ホンジュラス共和国

現在世界遺産リストには19地域の文化・自然複合遺産が登録されています。(例えば、ペルー、マチュピチュの歴史保護区やスウェーデンのラポニアン地区など)
(2000年1月現在の世界複合遺産は22地域)



▲基準の適用

世界遺産リストが膨大になるのを防ぎ、各国の登録希望を無制限に受け入れるのを防ぐため基準は厳正に適用されます。

すべての国々は地域や国の利害にかかわる遺産を有しており、それが国の誇りであることは理にかなっています。そして世界遺産条約は世界遺産への登録のいかんにかかわらず、自国の遺産を特定し保護するよう各国に求めています。





■生徒の活動8

世界遺産地域の所在地把握

目的：世界遺産地域の地理的な場所と遺産地域の種類を学ぶ



調査



教室での活動



授業時間数：
数時間



地理・社会



生徒の活動用
シート：世界
遺産地域の所
在地把握
概説、世界遺
産地図、写真

✓生徒の活動用シートを用います。可能ならば生徒ひとりひとりにコピーをとります。

✓生徒に別紙の地図（AからJ）に載っている世界遺産地域と下に書いてある地域（1から10）とを組み合わせ、それが文化遺産・自然遺産・複合遺産のどれに当たるかを示させます。

✓生徒に自分の答えを交換して結果を確認させて下さい。生徒のできばえはどうだったでしょうか。賞品を良くできた人にあげます。

授業の2、3週間後にさらに10ヶ所の地域を追加してこの実習を繰り返してください。この実習は何度か繰り返すことができます。

解 答

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1. チリ | ラバ・ヌイ国立公園（イースター島） |
| 2. キューバ | オールド・ハバナとその要塞化都市 |
| 3. メキシコ | エル・グイスカイノのクジラ保護区 |
| 4. ガーナ | 中・西部地域のヴォルタ・グレート・アクラの堡壘と城跡 |
| 5. 日本 | 古都京都の歴史建造物（京都市、宇治市、大津市） |
| 6. ヨルダン | ペトラ |
| 7. フランス | モン・サン・ミッシェルとその湾 |
| 8. 中国 | 泰山 |
| 9. タンザニア共和国 | セレンゲティ国立公園 |
| 10. ニジェール | アイルとテレネの自然保護区 |



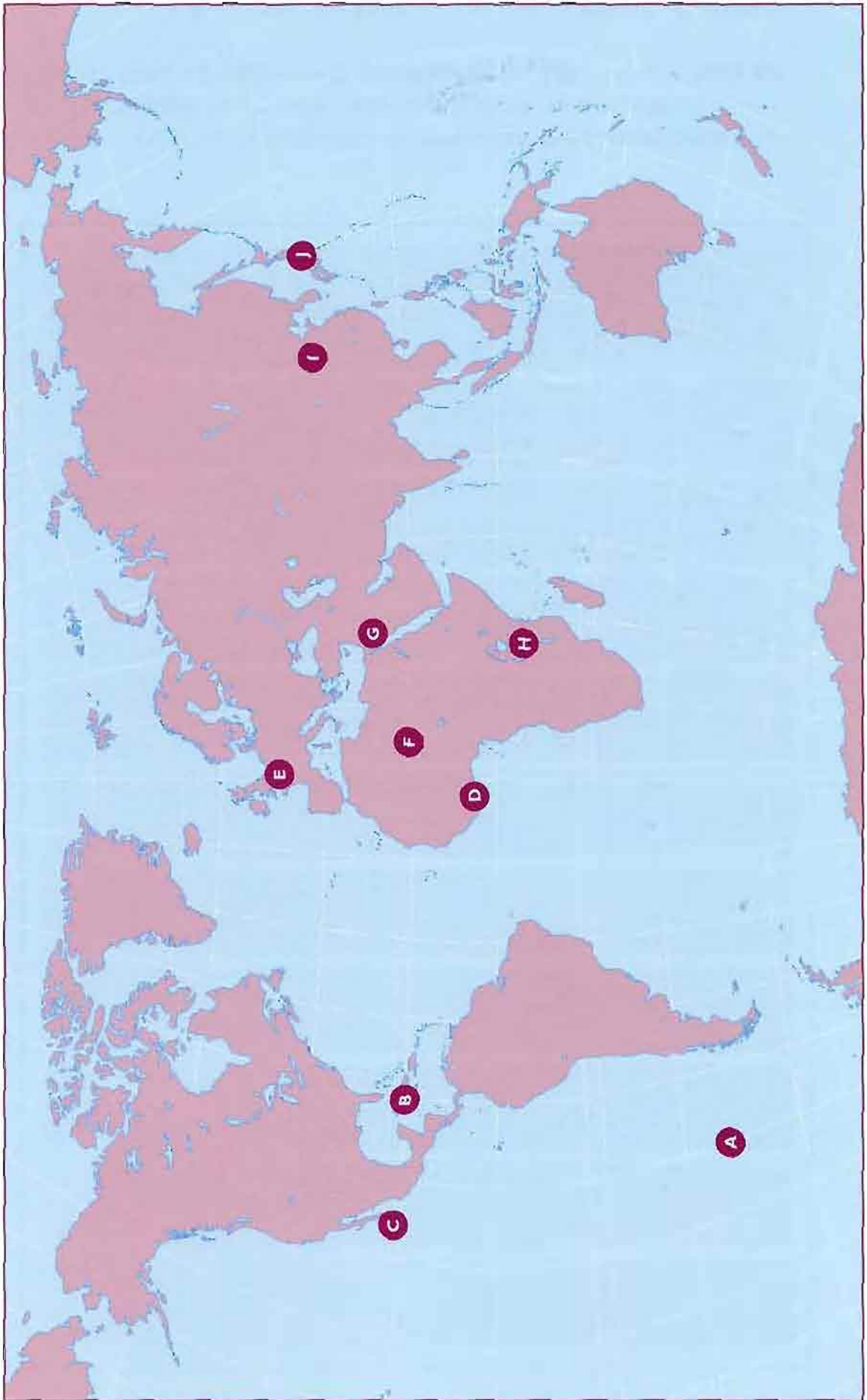
アイルとテレネの自然保護区
（ニジェール）
© IUCN/J. Thorsell

生徒の活動用シート

世界地図には、世界遺産のリストに入っている地域が10ヵ所入っています。

別紙の地図（AからJ）に載っている世界遺産地域と82ページに書いてある地域（1から10）とを結びつけます。その名称と場所を書き、その地域が文化遺産地域なのか、自然遺産地域なのかあるいは複合遺産地域なのかを書きます。がんばれ！

| アルファベット | 正しい番号と結びつける。 | 世界遺産地域の名称 | 締約国 | 地域の種類 (文化・自然・複合) |
|---------|--------------|-----------|-----|---------------------|
| A | | | | |
| B | | | | |
| C | | | | |
| D | | | | |
| E | | | | |
| F | | | | |
| G | | | | |
| H | | | | |
| I | | | | |
| J | | | | |





■生徒の活動9

世界遺産登録基準の理解

目的：
世界遺産リストにどの地域を登録するかを決定する際の登録基準をよりよく理解する



実 習



教室での活動



授業時間数：
2時間以上



地 理



生徒の活動用 世界遺産地図、
シート：世界 概説
遺産登録基準
の理解

地域を世界遺産のリストに加えるためには、世界遺産委員会がよりどころにしている基準を満たさなければなりません。

✓教室を小グループに分け、世界遺産地図と概説を生徒に調べさせ、それぞれの基準に従って、生徒の活動用シート中の空欄に地域区分ごとに1つの遺産地域を記入させます。(世界遺産リストのほとんどの地域は2つ以上の基準に基づいて登録されています。)

✓複合遺産については、地域区分ごとに1ヶ所か2ヶ所の遺産地域を書き、それぞれについて基準の名称を述べさせます。

✓生徒が見つけたことについて話し合います。



生徒の活動用シート

| 文化遺産 | 基準 (i) 人間の創造的 才能を表わす 傑作 | 基準 (ii) 重要な価値の 交流 | 基準 (iii) 現存する、あ るいはすでに 消滅してしま った文化的伝 統や文明に関 する独特な証 拠 | 基準 (iv) 建築様式、あ るいは建築的 または技術的 な集合体、あ るいは景観に 関するすぐれ た見本 | 基準 (v) 伝統的集落や 土地利用の顕 著な例 | 基準 (vi) 出来事、生き た伝統、思想 信仰、芸術的 作品あるいは 文学的作品と 関連があるこ と |
|-----------------|----------------------------------|-------------------------|---|--|---------------------------------------|--|
| アフリカ | | | | | | |
| ラテンアメリカ カリブ海 | | | | | | |
| アラブ諸国 | | | | | ガダーミス旧市 街 (社会主義人 民リビア・アラ ブ国) | |
| アジア 太平洋 | | | | | | |
| ヨーロッパ 北米 | | | | | | |

86

| 自然遺産 | 基準 (i) 地球の歴史の主 要な段階 | 基準 (ii) 進行しつつある 生態学的・生物 学的過程 | 基準 (iii) ひとときわすくれ た自然美および 美的要素をもっ た自然現象 | 基準 (iv) 生物の多様性の 保全にとって、 重要な自然生息 生育地 |
|-----------------|---------------------------|--|---|---|
| アフリカ | | マノボ・グンダ・サ ン・フローリス国立 公園 (中央アフリカ 共和国) | | |
| ラテンアメリカ カリブ海 | | | | |
| アラブ諸国 | | | | |
| アジア 太平洋 | | | | |
| ヨーロッパ 北米 | | | | |

世界遺産登録基準の理解

| 地 域 | 複合遺産地域名 | 自然遺産登録基準 (i) (ii) (iii) (iv) | 文化遺産登録基準 (v) (vi) (vii) (viii) (ix) (x) |
|-----------------|----------------------------------|---------------------------------|--|
| アフリカ | | | |
| ラテンアメリカ カリブ海 | | | |
| アラブ諸国 | | | |
| アジア 太平洋 | | | |
| ヨーロッパ 北米 | ギョレメ国立公園と カッパドキアの岩窟群 (トルコ) | iii | (vi), v |



ギョレメ国立公園と
カッパドキアの岩窟群 (トルコ)
© UNESCO/D. Roger



■生徒の活動10

文化遺産と自然遺産の推薦

目的：遺産保全リストに登録する地域を推薦する過程を理解する



実習 教室での活動 授業時間数： 国語・美術 生徒の活動用 産の推薦
1時間から 生徒への指針
数時間 遺産・自然遺産

- ✓生徒の活動用シートと指針を用いて、地元あるいは地方の遺産を国内遺産のリストあるいは登録簿に推薦するために準備します。
- ✓生徒を小グループに分けてください。各グループごとに地元の地域を1つ推薦します。
- ✓推薦された地域の説明用紙は壁用のポスターとしても用いられますし、一緒にまとめて小冊子を作っても良いです。小冊子を1部、地元あるいは地方の関係機関に生徒の手紙とともに送ってください。「国内の遺産委員会との会合」で得られた意見も含めてください。



生徒の活動 11

生徒のための指針

**あなたの国のある地域を
国内の遺産のリスト（目録または登録簿）に推薦して下さい。**

あなたの国は国内の文化遺産と自然遺産のリストを作成することを決定しました。あなたの教室は、このリストのために、地元の文化遺産と自然遺産またはそのどちらかを1つ以上推薦するように依頼されました。この活動は授業時間と課外時間の両方とも係わります（例：現地視察）。

推薦準備のための指針

別紙の書式を用いて推薦の準備をして、次のことを考慮して下さい。

説明部分には以下のことを含まなければなりません。

- 地域の説明と主な特徴（例：自然遺産の場合 - 鳥、木、動物の種類、文化遺産の場合 - 建物の種類、建築学的な特徴）
- 地域の歴史
- 地図
- 写真（添付のこと）
- 参考文献リスト：地域についての主な情報の出典を掲載

「国内遺産リスト（文化遺産・自然遺産）に当該地域を加えるための正当な理由」の欄には以下のことを含まなければなりません。

- 国のレベルでその地域が重要だと思われる理由。もしあなたの国に、当該地域が国のレベルで重要であるかどうかの登録基準があれば、それを用いて地域の評価をして下さい。

「地域の保全」の欄には以下のことを含まなければなりません。

- 地域の保全をする責任者の明記。地元の人々が自分達で地域を保全するのか、あるいは地元、地方、国の組織に係るのか。地域を見守る人々にはその地域を保全する能力があるのか。資金と専門知識は十分であるのか。地域を保護するための法律はあるのか。

「他の同様の地域との比較」の欄には以下のことを含まなければなりません。

- あなたの国とあなたの国が含まれる地域にある同様の種類の他の地域についての詳細な情報
- 国内の同様の地域と比較した上での、その地域の現在の保全状況の評価

その地域はとても荒廃していて守ることができなくなるほどの危機にさらされていますか。たとえば、自然遺産地域の場合、植物や動物の中に絶滅の危機に瀕している種があるかどうかを尋ねます。

地域のある国の名前.....

推薦の準備をしている人々の名前.....

日付.....

地域の名称

地域の地理的場所

地域の説明

国内遺産（文化遺産・自然遺産）のリストに当該地域を加えるための正当な理由

満たしている基準を：

地域の保全

他の同様の地域との比較

世界遺産委員会とユネスコ世界遺産センター



会議中の世界遺産委員会
© K. Miller

世界遺産リストにどの遺産を載せるか、登録するかの決定は世界遺産委員会が行います。

年1回会合を開く世界遺産委員会には4つの重要な任務があります。

・世界遺産リストに登録する文化遺産・自然遺産を選定することによって世界遺産という領域を明確にすること。この任務を遂行するにあたって委員会を補佐するのは国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) および国際自然保護連合 (IUCN) で、この2つの団体がさまざまな締約国から寄せられる推薦物件に注意深く目を通し、各推薦地域に関する評価書を作成します。文化財の保護及び修復の研究のための国際センター (ICCROM) も委員会の諮問機関です (例えば、文化遺産に関する修復や文化財保護技術などについて)。

・世界遺産の保護状況に関する報告書を検討し、遺産の管理・保護が適切でない場合には締約国に保護活動の実施を呼びかけること。

・関係締約国との協議の後、危機にさらされている遺産を「危機にさらされている世界遺産」に指定するかどうか決定すること。

・自国内の遺産保護のため援助を求める国々に対し、世界遺産基金を用いて技術的・財政的援助を提供するかどうか決定すること。

世界遺産条約実施のための事務局業務はユネスコが行います。この事務局の名称が「ユネスコ世界遺産センター」です。同センターは世界遺産条約の日常的な実施に関して締約国を支援するほか、世界遺産委員会の決定事項を提案し、それを実施します。



連絡先



連絡先



■生徒の活動11

国内遺産委員会との会合

目的：遺産地域を推薦する際意思決定の過程を学ぶ



ロールプレイ



教室



課外活動



授業時間数：
数時間



語学・地理・
社会

この活動において、生徒は国内遺産委員会のメンバーの役割を演じます。委員会では、あなたたちの教室で提案された地元と地方の地域を保全すべきかどうかを検討します。

✓議長を1名、副議長を2名、報告者を1名選出して下さい。男女比のバランスが良くなるようにして下さい。この3人の生徒が討論の準備をして議論をリードします。

✓残りの生徒のグループ分けをして下さい。各グループが1つの地域の検討をし、全体の委員会において推薦をします（地域を保全して国内遺産のリストか登録簿に加えるべきかどうか）。

✓推薦の書式を検討して、以下のことを分析します。

- 地域には地元としての、地方としての、国としての、または国際的な価値がありますか。
- 地域は十分に保全されてきていますか。
- 地域を適切に保護するための法律はありますか。
- 地域の管理と保全のための適切な計画がありますか。
- 地元の人々は地域の推薦に同意するかどうかの相談を受けていますか。

✓グループの評価を発表して、どの地域が国レベルでの価値があるかを決めてください。どの地域を国内遺産リストに追加すべきであるかを決定するために、生徒に投票させてください。そして、そのなかの1ヶ所か2ヶ所の地域を世界遺産リストに加えるべきであるかどうかを尋ねてください。



生徒の活動 10

■生徒の活動12



コロンビアのサンタ・クルーズ・デ・モンボスの歴史地区

目的：
世界遺産リストに指定されるまでの様々な過程を理解する



世界遺産
現地見学



教室での活動



授業時間数：
数時間



歴史、地理



写真、概説、
世界遺産地区

1994年に推薦、1995年にリストに登録されたコロンビアの例に注目して、生徒に、地域を世界遺産リストへ推薦し登録するための手順をより深く理解させます。

✓以下の情報を生徒に与えます。

世界遺産リストに加えるための正当な理由

スペインの南アメリカ植民地支配の間、いくつかの独特な芸術的な功績がありました。モンボスはその地域で他に見ることのできない都市の事例として独特なものです。

文化遺産の分類（条約の第1条参照）：建造物群

歴史

モンボスは1540年にカルタヘナの総督であるジャン・デ・サンタによって発見されました。この遺跡の名称は彼の名前にちなんでつけられています。その町はマグダレナ川に沿って発展し、立地上、また商業的にもとても重要でした。すなわち、カルタヘナ港と内陸部への交通はここから河川を利用し、陸上交通もこの町に集中していました。モンボスの発展によって入植者が支配する社会階級が生まれました。植民地の政権が入植者を雇う場合が多く、彼らは土地の所有権を与えられ、先住民を事実上奴隷としてその土地で働かせるという特権を得ていました。先住民達は土地を取り上げられて、強制的に居留地に住まわされました。この状況に加えて、厳しい気候と地理的な状態のため農作業は困難でした。その結果、しっかりとした社会経済的基盤が出来ず、町の成長に遅れを来しました。また、生活の利益を得るために密輸をするなど、住民の間に好ましくない状況が生じました。植民地時代にそのような発展が遂げられたのは、比較的少数の人々が農業と商業によって富を得ていたためです。何人かがカルタヘナからモンボスへ移り住んだとき、贅沢を満足させるために、名工や職人を連れてきました。また聖職者も別の支配階級となりました。

管理と保護

法律上の位置づけ：所有権は個人、団体、ローマ教会と地方自治体が持っています。歴史地区は国の記念物に指定されていて、町並みは1970年に市の建築条例によって規制されています。

管理：歴史地区のための管理計画はありません。しかし、厳しい建築条例と都市規定によりこの地区の管理が効果的になされています。

保存と真正性

保存：ここ数十年にわたって、かなりの量の修復と保存作業が行われています。歴史地区の保存状態は全体的には良好です。個人の所有者は、彼らの所有する財産にかなりのプライドを持っているので政府の介入なしで管理ができています。

真正性：モンボスが、ほかのラテンアメリカにある同じような町と違って、歴史地区に再開発の圧力がかけられなかった理由は、19世紀に経済的な重要性を失っていたという事実が挙げられます。元々の道路の模様や建物の素材が残っており、この歴史地区の真正性は、素材と形態の点からいうと高度なものです。

国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) による評価

ICOMOSは1995年の2月にモンボスを訪問し、世界遺産リストの登録基準ivとvに基づき、登録するよう世界遺産委員会に勧告しました。

またICOMOSは、コロンビアの当局に対してモンボスの将来の保存の対処方法について使つかの助言をしました。これらの助言は世界遺産委員会にも提出されました。助言の内容は、建物外壁の色の修復や近年できた市場と新しい建物の撤去、現存している市場の建物をボートターミナルと観光案内所として改造、川岸の清掃作業の継続、歴史地区の均一な道路舗装の選択、詳細を記した観光計画の策定、提案された世界遺産地域の北部の境界を再度明確化することでした。

ICOMOSは、世界遺産委員会役員会合の前の1995年7月に、モンボスの保存に際してこれらの助言を考慮する旨の確認をコロンビア政府より得ました。



1995年7月世界遺産委員会役員会合

ICOMOSはICOMOSの提案に従って推薦地域の境界を改める計画をコロンビア政府から受理したことを役員会合に報告しました。役員会合は、サンタクルーズ・デ・モンボス歴史地区を提案されている文化遺産登録基準に基づいて世界遺産リストに登録するように世界遺産委員会に勧告することを決定しました。

1995年12月世界遺産委員会

委員会が下した結論は、サンタクルーズ・デ・モンボス歴史地区はスペインの植民地時代の優れた事例であるということでした。すなわち、この町は大きな川沿いに発達しており立地上また商業的にも重要な役割を果たしており、現在に至るまでその歴史的な部分は驚くほど損なわれていないということです。世界遺産委員会は、文化遺産登録基準 (iv) と (v) に基づいて、サンタクルーズ・デ・モンボス歴史地区を世界遺産リストに登録することを決定しました。

コロンビア政府はこの地域へ観光が及ぼす影響について研究するために、世界遺産基金に3万ドルを要求し、世界遺産委員会はその要求を受け入れました。

年 表

| | |
|----------|---|
| 1994年 | コロンビア政府がユネスコ世界遺産センターにモンボスを推薦 |
| 1995年2月 | 世界記念物遺跡会議 (ICOMOS) の評価 |
| 1995年7月 | 世界遺産役員会合が推薦内容を審査 |
| 1995年12月 | 世界遺産委員会が、文化遺産登録基準 (iv) と (v) に基づいて、モンボスを世界遺産リストに登録。 |

世界遺産委員会が、遺産地域への観光の影響に関する研究のために、3万ドルを提供。

地域が世界遺産リストに推薦、登録される過程について生徒と話し合います。生徒と一緒に、顕著で普遍的な価値のある場所を地元、あるいは自分の国の中から選んで、世界遺産リストに登録されるまでの過程についての計画を考えさせます。

まとめ

暫定リスト作成後、締約国は記入済み推薦用紙をユネスコ世界遺産センターに送付します。これでその地域を世界遺産リスト登録の候補地として推薦したことになります。ICOMOSとIUCN、またはそのどちらかが推薦を審査し報告を行います。どの地域を世界遺産の登録地域とするかの最終決定は世界遺産委員会が下します。世界遺産リストにどの地域を登録するかについては厳正な登録基準が適用されます。遺産地域には適切な保護を必要とします。文化遺産の場合は真正であるか否かの審査、自然遺産の場合は完全性の審査に合格しなければなりません。

世界遺産地域の保護状況の監視

世界遺産の保護は継続的な過程です。世界遺産条約の締約国とIUCN、ICOMOSは、世界遺産の保存状況、保護のための取り組み、そして文化遺産・自然遺産の価値と保存についての意識啓発活動について、定期的な報告を世界遺産委員会に提出します。

現実には、締約国はその責任に真摯に取り組んでいます。世界遺産条約のもとでの責任を国が果たさず、世界遺産リストに登録された遺産が極めて危懼的な状況におかれた場合、その遺産は登録リストから抹消される可能性があります。このように世界遺産条約は明確な制裁規定を盛り込んでいます。しかしこれまでリストから抹消された遺産はありません。

遺産登録された地域が潜在的な危機に直面しているとユネスコに報告され、その報告通りに遺産が重大な危機に直面している場合、当該遺産地域は「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録されます。このリストは、その当該世界遺産の登録理由である特徴を危険な状態にしている自然条件や人的要因に世界の目を向けさせようとするものです。このリストに登録された「危機にさらされている世界遺産」は特別な保全努力や緊急活動の対象となります。

(1991年のドゥブロヴニク旧市街のような) 戦争の勃発など特別で緊急を要する場合にのみ、世界遺産委員会は関係締約国からの正式要請なしに「危機にさらされている世界遺産」への登録を行います。

▲「危機にさらされている世界遺産リスト」

「危機にさらされている世界遺産リスト」への登録は、世界遺産リストの登録理由となった価値が危機に瀕した場合、世界の注目を集め緊急保全活動を発動するために行われます。

1997年12月の時点で「危機にさらされている世界遺産リスト」には25地域（文化遺産9地域、自然遺産16地域）が登録されています。（2000年1月現在、27地域（文化遺産9地域、自然遺産18地域））

アルバニア
ベニン
ブルガリア
カンボジア
中央アフリカ
コートジボワール・ギニア
コンゴ民主共和国 (旧ザイール)

エクアドル
エチオピア
ホンジュラス
インド

エルサレム (ヨルダン申請物件)
マリ
ニジェール
オマーン
ペルー
チュニジア
アメリカ合衆国

旧ユーゴ
ブラジル連邦共和国
ウガンダ共和国

ブトリント
アボメーの王宮
スレバルナ自然保護区
アンコール
マノボ＝グンダ・サンフローリス国立公園
ニンバ山麓正自然保護区
ヴィルンガ国立公園
ガランバ国立公園
オカビ動物保護区
カフジ＝ピエガ国立公園
サロンガ国立公園
サンガイ国立公園
シミエン国立公園
リオ・プラタノ生物圏保護区
マナス野生生物保護区
ハンピの建造物群
エルサレム旧市街とその城壁
トンブクトゥ
アイルとテネレの自然保護区群
バフラ城塞
チャン・チャン遺跡地帯
イシュケウル国立公園
エバーグレース国立公園
イエローストーン国立公園
コトルの自然・文化＝歴史地区
イグアス国立公園
ルウェンゾリ山地国立公園



ヴィルンガ国立公園
(コンゴ民主共和国)
©UNESCO/ANCAFO/Grand

アメリカ合衆国のイエローストーン国立公園は（例えば、観光や近接地域での鉱業開発計画により）危機的状況が現実になった時、緊急保護活動の必要性にアメリカだけでなく世界中の耳目を集めるために「危機にさらされている世界遺産」への登録が設立したことを示すよい例です。



生徒の活動 13



■生徒の活動13

イエローストーン国立公園（アメリカ合衆国）

目的：なぜ、どのようにして、世界遺産が「危機にさらされている世界遺産リスト」に含まれるのかを理解する



世界遺産地域
現地見学



教室での活動



授業時間数：
数時間



語学、地理、
理科



写真、解説、
世界遺産地図

下記の情報を生徒に提供します。

年 表

- 1973年 アメリカ合衆国が世界遺産条約の最初の締約国となりました。
- 1978年 イエローストーン国立公園 - 世界初の国立公園 - は世界遺産リストに最初に登録された12ヶ所の遺産地域のひとつです。
- 1996年 世界遺産委員会はこの遺産地域を「危機にさらされている世界遺産」として登録することを決めました。

イエローストーンの世界遺産としての価値

イエローストーン国立公園は、ワイオミング州北西部とそこに隣接しているモンタナ州とアイダホ州にわたる広大な地域を含んでいます。この公園は主に火山台地から成り立ち、若干の堆積岩の地帯もあります。頻りに起こる火山活動のため、10,000ヶ所で間欠泉や温泉が湧き出ており、また、豊かな水によって動植物の高い多様性が保たれています。公園の中心部には世界最大の噴火口があり、その大きさはインドネシアのクラカタアの百倍もあります。最古の岩は27億年前のもので一番新しいものは現在もまだ作られています。噴火口の内部には27の化石森林があります。

絶滅の危機に瀕している種

イエローストーン国立公園には、ハイイログマ、アメリカライオン、ハゲタカ、1隻目しか残っていないオオカミなど、絶滅の危機にある種が生存するために最適な環境となる生態系があります。



イエローストーン
(アメリカ合衆国)
© UNESCO

イエローストーンへの 脅威

1995年2月、ユネスコ世界遺産センターに対して、この公園が抱えている様々な脅威、特に、探鉱活動の計画や森林伐採、観光による影響、野生動物に関する政策について報告がありました。

世界遺産委員会役員会 第19回会合、1995年7月

締約国（アメリカ合衆国）は1995年7月にユネスコ本部で行われた世界遺産委員会役員会に書簡を提出しました。そこにはイエローストーンに対する潜在的な脅威に関する懸念が述べられており、世界遺産委員会とIUCNの代表に両国立公園の監視をするための調査団を派遣するよう

に要請がなされました。さらに、アメリカ合衆国は、この国立公園を「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録することを検討するように世界遺産委員会に要請しました。

イエローストーン近隣での探鉱計画への反対の声

探鉱計画は「アメリカの国立公園の王者」を危険にさらしてしまう「災難」である。
ニューヨークタイムズ

いくら探鉱によって利益を得たとしても、イエローストーンを永久に保護することは出来ない。

アメリカ合衆国大統領、ビル・クリントン

アメリカ人は、この特別な地域の管理者として、我々アメリカ国民だけでなく世界中の国々の国民のために、そして現在の世代だけでなく次の世代のためにもこの地域を保護する義務がある。

国立公園自然保護協会、1995年9月

共同監視調査、1995年9月

共同監視調査は、1995年9月に行われました。この調査の期間中に公開討論が行われ、産業界・政府・環境保護団体からいくつかの報告がなされました。

第19回世界遺産委員会の開催、1995年12月

1995年12月の世界遺産委員会において、締約国とIUCN（国際自然保護連合）が報告を行いました。大規模な採掘計画、パイプラインからの原油漏れと廃棄物の投棄による水質汚染、道路建設と観光による悪影響、マズ川の希少種を含むいくつかの生物種の個体数の減少、ブルセラ病に感染したバッファローの個体数の減少、これらすべてが遺産地域への脅威の深刻さを表していました。

長時間にわたる論議の末、現実の危険性と潜在的な危険性から、世界遺産委員会はイエローストーン国立公園を「危機にさらされている世界遺産リスト」に加えました。

アメリカ合衆国大統領の声明、1996年9月

アメリカ合衆国大統領は、鉱業問題について満足すべき解決に達したとの声明を公式に発表しました。

第20回世界遺産委員会の開催、1996年12月

アメリカ合衆国代表は、イエローストーンの保護について実質的な進歩がみられたと報告しました。

今後は？

この世界遺産地域の保護を確かなものとするため、世界遺産委員会は環境に対する影響についての調査結果と保護のための施策を頻繁に提出するよう求めています。このようにして世界遺産委員会は遺産地域の状況を詳細に把握していきます。将来的には、イエローストーンの保護の改善が満足すべき状態になれば、委員会はここを「危機にさらされている世界遺産リスト」から外すことでしょう。



イエローストーンが「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録されたことによって、この傑出した国立公園を保護するために、アメリカ国民、大統領個人、そして国際社会による努力が結集したのです。

危機にさらされている
イエローストーン
（アメリカ合衆国）
© UNESCO/M. Soper-Danar

■生徒の活動14

世界遺産をテーマにしたラジオ番組の制作

目的：世界遺産保護のため情報伝達能力を養う



実習



教室での活動
または
課外活動



授業時間数：語学、音楽
複数(数時間)



概説、
世界遺産地図



書籍、CD、
オーディオテ
ープなど

✓生徒をふたつのグループに分け、世界遺産に関するラジオ番組を企画させます。
番組の内容は、

- ・ある地域を世界遺産リストに登録することについて、賛成派と反対派の生徒による対話。
- ・世界遺産リストに登録されている遺産の大切さ、所在地、その美しさの説明。
- ・世界遺産についての詩を朗読。
- ・世界遺産を連想させる音楽や音響効果（自然、動物、鐘の音、儀式での問答、聖歌など）



✓教室での発表に基づいて、番組のアイデアの中から最も相応しいものを選び出しさらに発展させます。いくつかの仕事をグループで分担します。完成した番組を地元、地方、全国放送のラジオ局に送ります。

▲世界遺産基金

世界遺産条約の成果のうち最も重要なもののひとつは、世界遺産基金から国際支援のために世界遺産保護プロジェクトの資金を提供することです。

世界遺産基金は様々な援助や技術協力に使われています。例えば、遺産劣化の原因究明や対応策についての専門的な研究、保護施策の立案のための研究、地元専門家を対象とする保護・修復技術の訓練、国立公園保護や記念建造物修復のための機材の提供などです。また世界遺産基金は文化遺産・自然遺産の暫定リストを作成し、世界遺産リスト登録候補地域の推薦を行うための各国政府の作業を支援しています。世界遺産委員会または委員会議長は要請を受けた後、どのような支援がどのく



条約

らい必要かに応じて締約国に対する支援金を拠出します。

緊急保存対策の資金調達や「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録されている遺産の保存が最優先されます。

世界遺産基金への拠出金には次のものがあります。

・世界遺産条約締約国からの義務的拠出金。金額は締約国のユネスコ分担金の1%と定められています。

・締約国からの自主的拠出金、各種機関・民間からの寄付金、国内や国際的な推進運動からの寄付金。

このようにして毎年総額約300万ドルが寄せられます。

世界遺産委員会への要請すべてに応えるには世界遺産基金の資金調達額は十分とは言えません。それでも世界遺産基金はアフリカ、アジア・太平洋地域、アラブ諸国、ラテンアメリカ・カリブ海諸国、ヨーロッパの文化遺産・自然遺産を保存する重要なプロジェクトに対し、これまで数百万ドルの資金を調達してきました。

先生方や生徒の皆さんが世界遺産基金への寄付を通じて世界遺産保護に参加をご希望であれば、次の口座に国際為替または銀行振替でお願いいたします。

UNESCO

口座番号No.949-1-191558

Chase Manhattan Bank

International Money Transfer Division

4 Metrotech Center

Brooklyn

New York NY 11245

United States of America

貴校名・住所をご記入の上、世界遺産基金への寄付と明記してください。





■生徒の活動15

意識の向上

目的：

連帯感を高め、生徒の世界遺産保護への積極的な取組みをすすめる



討 議



教室での活動
と課外活動、
またはそのい
ずれか



授業時間数：



語 学



世界遺産地図、
概説

✓地域社会がその地方や国にある世界遺産に対する意識を高めるために、生徒に何ができるか話し合い、提案をリストにしましょう。この提案は1つ以上実行できそうですか？

✓世界遺産基金の目的について話し合いましょう。

✓世界遺産条約を支援するため、基金をつくる活動ができそうですか？話し合いましょう。





カリキュラムを通じて： 世界遺産条約

美術

美術史の授業に世界遺産の写真および情報を使います。
世界遺産の模型を作ります。
世界遺産と遺産保護に対する意識啓発のため広報活動を行います。
世界遺産を見学し、スケッチ、絵画制作、写真撮影をします。
世界遺産を教材として建築様式の授業をします。

外国語

外国の文化遺産および自然遺産に関するパンフレットを読みます。
諸外国の過去と現在についての情報源として世界遺産を学習します。
世界遺産を保護する必要性について文章を書きます。

歴史

歴史の時代に関連づけて世界遺産や地域の遺跡を見学します。
特定の時代について学習し、その時代と関連のある世界遺産を学びます。

国語／文学

世界遺産条約または特定の世界遺産に関する文章を書き、教室で発表したり新聞に寄稿したりします。
遺産地域近くの住民に話を聞き、彼らにとってその遺産がどのような意味を持つかを知ります。
遺産についての情報パンフレットを作成します。
歴史劇を創作します。
遺産をテーマにした中編／短編小説を読みます。

数学

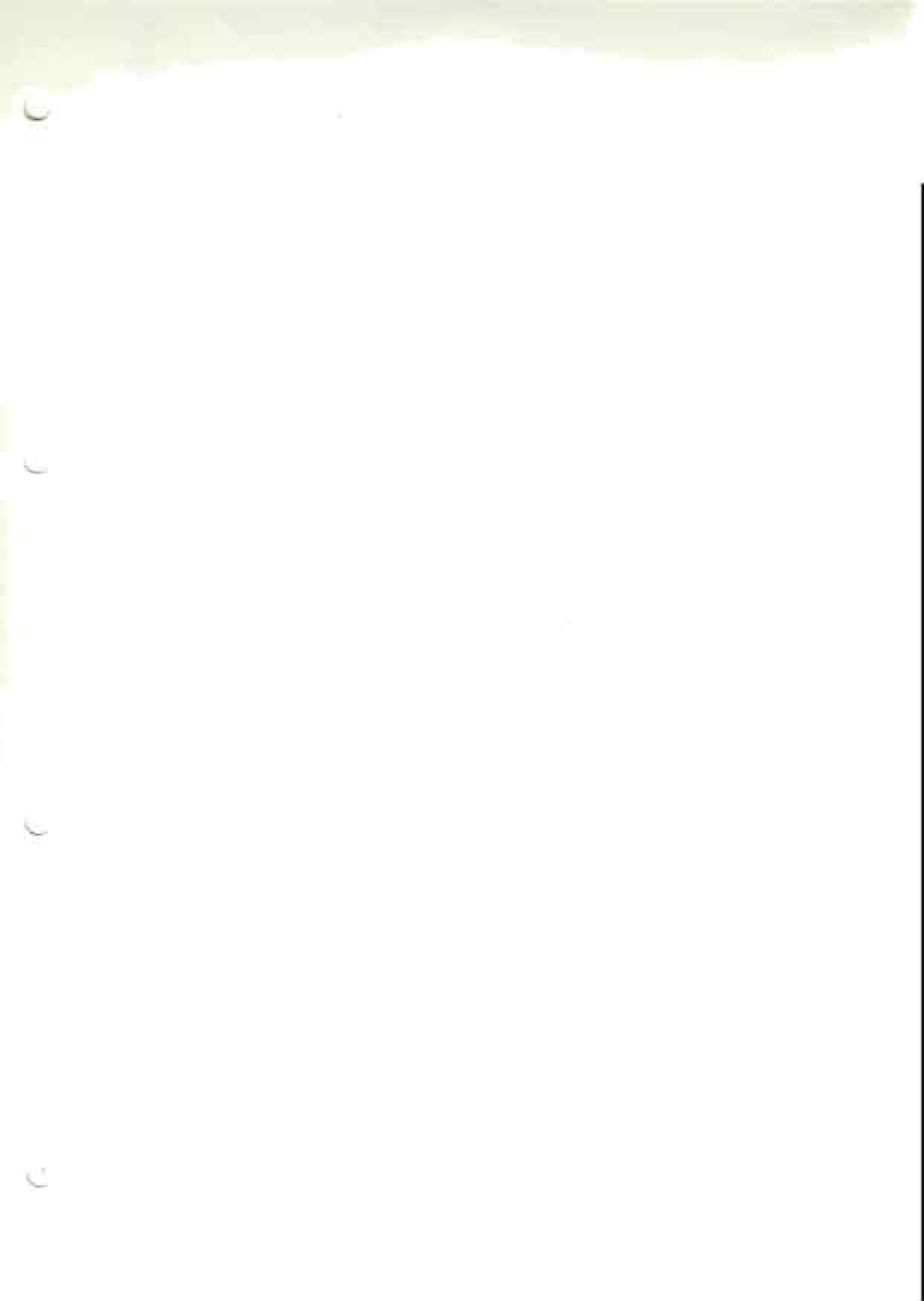
世界遺産の数値的特徴（生物種の数や建築物の寸法）について調査し、グラフ、円グラフ、数字を使って発表します。
記念物や建築物の寸法を調べて模型を作ります。

宗教学習

さまざまな宗教や信仰体系に関連した世界遺産の写真を展示します。（教材には遺産の写真が数多く含まれています。）

インターネット

ユネスコ世界遺産センターのウェブサイト (<http://www.unesco.org/whc>) や協同学校プロジェクトのサイト (<http://www.education.unesco.org/educprog/asp>) を調べます。

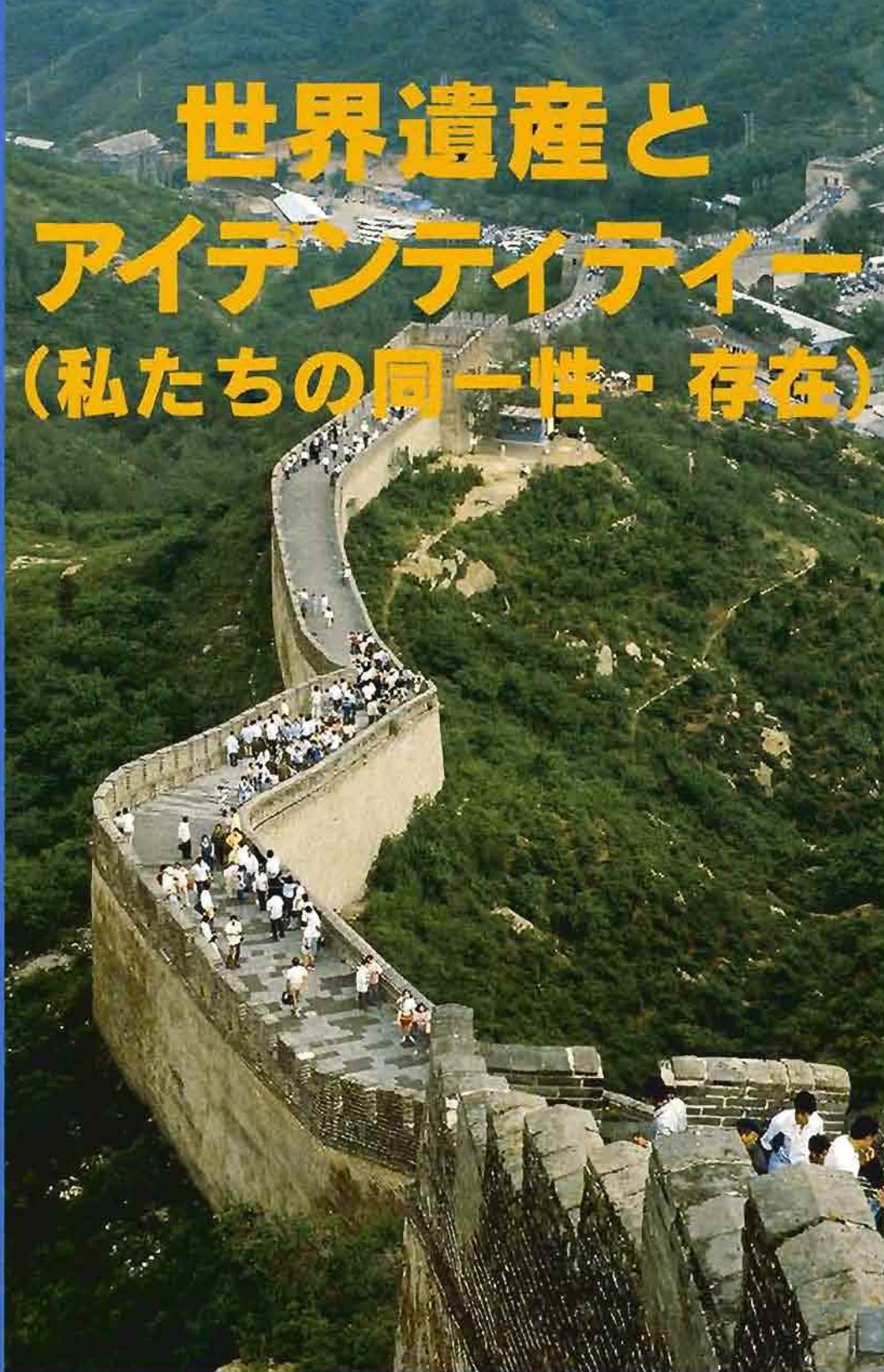


世界遺產條約



世界遺産と アイデンティティー (私たちの同一性・存在)

万里の長城 (中国) © UNESCO/Varantsoff



私は、自分の家をぐるりと壁で囲まれ、
窓をふさがれてしまいたくない。
私は世界中すべての文化が私の家の中をできる限り
自由に吹きぬけてほしいと思う。
けれども、私の足元をすくうようなことは
してほしくない。

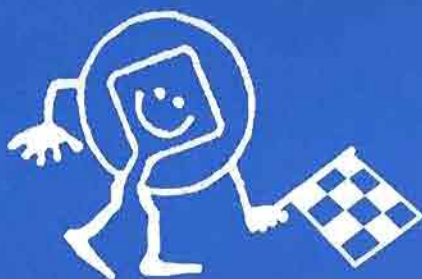
マハトマ・ガンディー

世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)

世界遺産と アイデンティティー (私たちの同一性・存在)

| | |
|--|-------|
| 目 的 | P.105 |
| 知 識 | P.105 |
| 心がまえ | P.105 |
| 能 力 | P.105 |
| | |
| 世界遺産：アイデンティティーの基盤 | P.106 |
| アイデンティティー：私は何者か、私たちは何者か？ | P.106 |
| 生徒の活動16：アイデンティティーの担い手としての名前 | P.107 |
| 目まぐるしく変化する世界におけるアイデンティティー | P.107 |
| | |
| 世界遺産地域とアイデンティティー | P.108 |
| 生徒の活動17：世界遺産地域とアイデンティティー | P.109 |
| | |
| アイデンティティーの表現としての特長を備えた建築様式 | P.110 |
| 生徒の活動18：アイデンティティーの表現としての特長を備えた建築様式 | P.111 |
| 生徒の活動19：町の歴史的街区の将来について評議会が決定を下す | P.112 |
| 生徒の活動20：異文化間学習 | P.113 |
| | |
| アイデンティティーと先住民 | P.113 |
| 生徒の活動21：ジンバブエの大ジンバブエ遺跡 | P.114 |
| 生徒の活動22：オーストラリアのウルルーカタ・ジュター国立公園 | P.116 |
| | |
| カリキュラムを通じて： 世界遺産とアイデンティティー (私たちの同一性・存在) | P.119 |
| | |
| OHPシート：世界遺産とアイデンティティー (私たちの同一性・存在) | |

目的



知識

生徒の知識と理解を育てる：

- 多様な文化を反映し、急速に変化する世界の中で「変わらぬもの」を象徴する世界遺産（文化遺産および自然遺産）について
- 各文化の特異性、すべての文化は文明の構成要素であるという考え方について
- 自然と文化の間、異文化間の相互作用と相互依存について

目的

生徒の心に響きかける：

- 自分が一員である文化、自国の歴史と自然環境を深く理解するように
- 自分が一員である社会で、支配的な価値観とその価値観の基礎を見極めるように
- あらゆる人々、その文化を尊重する心を育て、国の垣根を越えた理解と尊敬の念を育むように
- 世界の文化遺産、自然遺産への責任感を共有するように

能力

生徒の能力を育てる：

- 自分の出自（家族、祖国）をさらに詳しく調べる能力
- 開かれた民主的な方法で問題を話し合う能力
- 世界遺産保護活動においてリーダーシップをとる能力

世界遺産：アイデンティティーの基礎

世界遺産を理解することで私たちは自分の出自、さらに文化的・社会的アイデンティティーをより強く意識することができます。世界遺産リストにある遺産のどれでも詳しく調べてみると、その遺産（文化遺産）を生んだ人々や文明の、あるいはその遺産（自然、複合遺産および文化的景観）とかかわりのあった人々や文明の考え方、価値観、知識を理解しやすくなります。さらに、有形および無形の遺産について学習するきっかけにもなります。

人類は心理的、宗教的、教育的、経済的に文化遺産や自然遺産に依存しています。そのような遺産が破壊された場合はもちろんのこと、荒廃の道をたどるだけでも私たちのアイデンティティー、祖国、そして地球の存続に悪影響が及びます。私たちは未来の世代のために、これらの遺産を保存する責任を負っているのです。

ノルウェーのベルゲンで開催された「世界遺産ユース・フォーラム」、世界遺産の誓いより

▲アイデンティティー：私は何者か、私たちは何者か？

アイデンティティー

1. 同じであること、絶対的または本質的な同一性、単一性という特性あるいは状態
2. 個性、人格個人としての存在
3. 感情、関心などが同一であると認められる状態

(オックスフォード小辞典)

この世に生まれ落ちた瞬間から、私たちは一人ひとり個人的な特長によって他の人と区別されます。個人的な特長とは、つまり両親や先祖から受け継いだ遺伝子や肉体的特徴です。例えば、指紋は決して変えることのできない個人のアイデンティティーの一部です。代々受け継ぐ「姓」と両親につけてもらった「名」は、人生の途中で変わることがあっても、やはり私たちの個人としてのアイデンティティーと切り離すことはできません。

しかし、個人としてのアイデンティティーがアイデンティティーの全てではありません。「私とは一体何者なのか？」という問いは「私たちは一体何者なのか？」という問いかけと深く結びついています。ここにいう「私たち」とは、例えば自分が属する人種集団、民族または信仰を指します。ある集団の一員として、私たちは主として言語、信条、儀式、道徳基準、慣習、食習慣、服装などによって他の構成員とつながっています。

民族的アイデンティティーは、通常、言語、民族衣装、旗、紋章あるいは国歌などの象徴で表現されます。

民族衣装に身を包んだ若者、ノルウェーのベルゲンで開催された世界遺産ユースフォーラム
© UNESCO



■生徒の活動16

アイデンティティーの担い手としての名前

目的:

私たち個人と家族のアイデンティティーについて深く考えること



調 査



教室での
活動



課外活動



授業時間数:
2時間プラス
学外時間



語 学

✓両親や親戚の力を借りて自分の「姓」の源をたどるよう生徒に指示します。さらに、自分の「名」(ファーストネーム、ミドルネーム)が選ばれた時のいきさつを説明するようにいいます。生徒一人一人は自分の名前についてどう感じていますか?その名前はその地域に多く見られる名前ですか?その名前は地域にある重要な文化遺産または自然遺産と何らかのつながりがありますか?それは珍しい名前ですか?その名前は祖父父母その他親戚、歴史上の人物、映画の登場人物など、ある特定の人物にちなんでつけられたものですか?その名前は自分個人のアイデンティティーに影響を及ぼしていますか?もしそうであれば、その影響はどのような形で現れていますか?

▲目まぐるしく変化する世界におけるアイデンティティー

世の中の動きはとて速く、ほとんどの人々は自分の先祖など忘れて21世紀へと急いでいます。しかし、本当はその逆でなければならないのです。私たちは自らの先祖、自らの文化を深く理解し、それを土台として守っていかねばなりません。その土台のうえに未来を築くのです。

中国の北京で開催された世界遺産コースフォーラム生徒からの提案

個人の場合と同じように、自然環境や他の共同体または文化との接触の結果、私たちが属する共同体(人種集団、民族)も時と共に変化します。これは歴史を通じて変わらぬ事実でしたが、20世紀に入ると変化のリズムと程度は大きく加速されました。その背景には、科学・技術の革新の影響、特に現代の輸送、遠距離通信、マスコミュニケーション(情報通信、電話、ファクシミリ、テレビ、通信衛星など)やいわゆる「グローバル化」の進行があります。

グローバル化は主として経済の領域で起こっている現象ですが、社会や文化にも影響を与えています。その影響の一つとしてあげられるのは、世界中の人々、特に若い世代が、ポピュラーミュージック、映画、テレビ番組、ファッション、ファーストフードなど世界中で広告される、ある特定の大量消費製品を好む傾向です。

文化のグローバル化は、近年発表されたユネスコの二つの文書でも言及されています。

文化のグローバル化は着実に進行しているものの、未だ部分的なものでしかない。我々はグローバル化の恩恵、危険性ともに無視することはできない。その危険性の中でも重要なのは、一人ひとりのかけがえのない個性が失われるという危険性である。大切に培われてきた伝統と文化の中で自らの未来を選び、自分の可能性を最大限に引き出すのは個人である。そして、もし我々が十分な注意を払わなければ、伝統と文化は現代の発展によって危機にさらされる可能性がある。

学習：内なる宝、21世紀に向けてのユネスコ国際教育委員会報告書、p.17、パリ、ユネスコ本部、1996年。

目まぐるしく移り変わる現代に生きる人々や共同体にとって重要なことは、伝統の中にある貴重な要素を否定することなく、公正な変化に適応することです。

例えば、アフリカの伝統的な宗教に込められた精神的価値観は、人間と自然、有形と無形、合理性と直感の関係、また過去と現在の世代の関係がいかに大切かを訴える。このような知識と価値の宝庫は、環境保護、立場の違いや紛争の仲裁といった現代の諸問題の解決に有効であろう。

創造的多様性、世界文化・開発委員会報告書、p.166、パリ、ユネスコ本部、1996年。

世界遺産とアイデンティティー

108

多くの人々は、世界遺産リストにある遺産と自分自身を結びつけています。大ジンバブエの遺跡は、植民地支配に先立つジンバブエのアフリカ的ルーツを私たちに思い起こさせます。オーストラリアのウルルーカタ・ジュター国立公園は、アボリジニーの人々が、太古から長きにわたって広大なオーストラリア大陸に居住してきたことを証明します。ロシア連邦は往々にしてモスクワにあるクレムリン、赤の広場と同一視されます。他にも若干の例をあげると、イタリアの場合は、ヴェネツィアとその潟、ピサの斜塔、そしてフィレンツェ市街、レバノンにはバールベックやビブロス、インドはアグラにあるタージ・マハル、グアテマラはアンティグア・グアテマラ、ウズベキスタンはブハラ歴史地区と同一視されます。



アメリカ合衆国のエヴァグレース国立公園、グランド・キャニオン国立公園、タンザニア連合共和国のセレンゲティ国立公園、ネパールのサガルマータ国立公園（エベレスト山）、アルゼンチンのロス・グラシアレスなどある種の自然遺産もまた集団あるいは民族のアイデンティティーを反映しています。

マテーラの洞窟住居（イタリア）
© UNESCO/M. Moldoveanu



■生徒の活動17

世界遺産とアイデンティティー

目的：世界遺産の価値を理解する



討議



教室での活動



授業時間数：
教室での活動
1時間と課外
活動



歴史・社会



世界遺産地区、
観光

✓教材の中のOHPシートと写真。さらに利用できる他の教材も用いて、人類の歴史と自然保護に重要な役割を果たした世界遺産に生徒を親しませます。例えば、

- ・人々にアイデンティティーをもたらす遺産（文化遺産および自然遺産）
- ・世界の政治史における出来事を記録する遺産
- ・世界の宗教および信仰体系と結びつけられる遺産
- ・独自の生活様式の例となる遺産

下の表は討議のヒントになります。

| | 人類の起源 | 狩猟採集社会 | 伝統的社会 | 農耕社会 | 商業社会 | 工業社会 | 後工業社会 |
|---------|----------------|------------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| アジア・太平洋 | 北京猿人遺跡 (中国) | | | コルディレウ の梯田 (フィリピン) | | | |
| アラブ諸国 | | タドラット・ アカラスの岩 窟群 (リビア) | | | | | |
| アフリカ | | | | | モザンビーク島 (モザンビーク) | | |
| 欧州・北美 | | | マテーラの 洞窟住居群 (イタリア) | | リューベック のハンザ同盟 都市 (ドイツ) | アイアンブリ ッジ峡谷 (英国) | バウハウスと その敷地 (ドイツ) |
| 中東東 | | | | | | 古都オウロ・ プレット (ブラジル) | ブラジリア (ブラジル) |

アイデンティティーの表現としての 特長を備えた建築様式

いくつかの世界遺産に見られる建築様式は、人間と人間を取りまく自然環境の相互作用を説明する格好の例を提供します。そのような例のひとつとしてノルウェーのベルゲンにあるブリッゲン地区の世界遺産があげられます。この遺産はノルウェー産の木材がノルウェーの文化的アイデンティティーを決定づける要素となっている

理由を明らかにします。

ノルウェーの木材が ノルウェー文化に与えた影響

ノルウェーの建築材料とノルウェーの文化は相互に関係しているのでしょうか？かつてノルウェーの文化遺産局で局長を務めたステファン・チューディー・マッセンは次のように書いています。

まず、木について考えてみましょう。その制限要素の最たるものは高さです。V字形の切り込みを入れた丸太を水平に積み上げて建てる、典型的

な頑丈なログハウスに使えるほど長くて真っすぐな、また耐久性のある木材は広葉樹の中には見当たりません。

かつて建築に使われた材木のうち最長のものをあげれば、その大きさが少しわかるかもしれません。（その木はノルウェーで一般的な建築材料、松です。）1861年にホーフ教会取り壊しの際に測ったところ、その木材は全長15メートルありました。これは木材としては考えられる限り最も長いものです。普通の家を建てる場合には、この半分ぐらいの長さが一般的です。

王侯貴族でも、この長さ以上の材木をつくることはできません。結局それを決めるのは木自身です。家の場合も同じで、丸太の太さや豪華な装飾を変えることはできますが、誰もがひとつの法則に従わざるを得ないのです。

そのような条件は、社会を民主的にする効果があるのではないのでしょうか。このぐらいの大きさの部屋には、社会と人間の調和をもたらす、何か変わらぬ人間的特長があります。壁を構成する丸太の水平の線は心を静め、落ち着かせ、心安らぐ親しみを感じさせます。木に施した細工でさえ大切な役割を果たしています。断熱材としてだけでなく、心地よい手触りを与えてくれるのです。

木造建築の伝統は今日まで引き継がれ、ノルウェーでは現在でも新築家屋の80%は木造建築です。ノルウェーの文化遺産の特質を論ずる時、文化の他の側面ではなく、木をよりどころにするのがおそらく最も確かな方法です。木はその制約と特質でノルウェー文化の発展に影響を与えてきたのです。

ノルウェーの文化遺産、歴史的建築物と遺跡、ユニヴェーシテーツ出版社

ブリッゲン（ノルウェー）
© UNESCO/D. Roger



■生徒の活動18

アイデンティティーの表現としての特長を備えた建築様式

目的：

ものとして存在する遺産（例：周辺にある建築物、記念碑、国立公園）の学習を通じてアイデンティティーを深く考察すること



調査



教室での活動



授業時間数：2時間



読字、地理



写真

✓ 自国または地域の建築物、記念碑、および国立公園

の特色についての作文を生徒に書かせます。テ

ーマは、例えば「それらの中に世界遺産と

して登録されているものがあるかどうか」

「自国の文化と建築材料、建築

物の配置（町や村落の中で建物が

どのように配置されているか）、

天然資源（例：地元の石切り

場から切り出された石）、自

然の中での配置（例：湖を取

り囲むようにできた町）と

の間に関係があるかどうか」

「自分の家に用いられた建築

法や建築材料には自分の文化

的アイデンティティーが反映

されているかどうか」などがあ

ります。



トンプストゥ
（マリ）
© UNESCO Rome



■生徒の活動19

町の歴史的街区の将来について評議会が決定を下す

目的：開発が遺産保護に与える影響について理解を深める



ロール
プレイ



教室での
活動



国際活動



授業時間数：
数時間



社会、数学



写真



世界遺産の
教育手法

✓次の状況を仮定して教室でロールプレイをおこなひましょう。

あなたが住む町の中心部を開発する計画を地域当局がまとめました。町の中心部は長い歴史を持ち、あなたの地域の伝統的な家屋が今も残っています。伝統的な家屋はあなたの地域のアイデンティティを反映する重要なもので



です。しかし、町の中心部では家の建築基準は昔のままです。水道やトイレなど近代設備は使えません。開発計画が実施されれば、町の最も古い部分は取り壊されて近代的アパートが建設されます。地域当局の一部には開発計画を支持する動きがあります。地域の他の政治家は反対にまわりました。今日、計画の実施について決定するため、関係者が集まって話し合いました。

✓生徒を5つのグループに分けましょう。

1. 地域当局の計画賛成派
2. 地域当局の計画反対派
3. 町の伝統地区の住民
4. 専門家（建築家、都市計画立案者）
5. マスコミ関係

✓討論の進行役として議長1名、副議長2名、報告書を作成する者2名を選びましょう。

✓世界遺産都市や「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録された遺産にとって、同じような脅威があるかどうか深く考え、話し合ひましょう。



トップのユニークな近代生活のひとこま。マリア・ペレーズ、アソシエイト・エキスパート
© UNESCO 2008



■生徒の活動20

異文化間学習

目的：
世界遺産地域とアイデンティティーの関係について理解を深める



調査



教室での
活動および
課外活動



授業時間
数：
数時間



語学、社会



世界遺産地
域



インター
ネット

✓生徒をグループに分け、次のうちからテーマをひとつ選んで短い発表ができるよう準備します。

- ・自分の学校
- ・自分の教室
- ・自分の国にある世界遺産地域

✓外国の学校（例えば協同学校プログラム参加校）1校または2校以上と発表を交換します。相手は何を送ってきましたか。どのくらい時間がかかったでしょうか。比べてどうでしょう。

✓両親が子どもの頃には考えられなかったインターネットが、世界中の人々を結んでいることをテーマに話し合います。

アイデンティティーと先住民

さまざまな先住民が、まわりの自然遺産や文化遺産と自分たちを関連づけている方法を学習することで、個人、集団、国のアイデンティティーの重要性について理解を深めることができます。さらに世界遺産保護活動はアイデンティティーの確認と維持に役立つことを理解します。生徒の活動の発表例は説明を必要としません。自分の地域、あるいはその他の地域から別の例を探し、同じような活動を生み出すヒントになる可能性があります。

ユネスコ世界遺産ユースフォーラムを通じて、
異文化を分かち合う若者たち
ビクトリアの湖での世界遺産ユースフォーラムにて
©UNESCO



■生徒の活動21



ジンバブエの大ジンバブエ遺跡

目的：遺跡の歴史的起源について理解を深める



世界遺産
現地見学



教室での活動



授業時間数：
複数



歴史、地理、
社会、公民



世界
遺産地図、
写真、解説



インター
ネット

✓重要性が高く、深い感銘を与える大ジンバブエ遺跡の歴史的起源をめぐる論争の例を示します。大ジンバブエを考古学的に調査した結果、この遺跡はアフリカ起源であると判明しました。

大ジンバブエは極めて重要な遺跡なので、現在は国の象徴として広く用いられています。因みに、「ジンバブエ」という国名は、この名高い、感動的な石造遺跡に由来します。（「ジンバブエ」という言葉は「石でできた家」を意味する。）

大ジンバブエ遺跡は樹木のある平地に作られており、サハラ以南のアフリカで最大規模を誇る古代建造物です。遺跡はふたつの部分から成っており、大きな方は、丘の上にある巨大要塞です。石組みの壁に花崗岩の丸石づくりの構築物、まさに城と呼ぶにふさわしい威容を誇っています。大ジンバブエ遺跡の歴代の主は、丸石使いの石壁を組み合わせて、内部に小さな空間や細い通路を数多く作り出しました。ふもとにある遺跡、巨大なグレートエンクロージャーは感動的な遺構です。これを取り囲む壁の長さは250メートル以上あり、丹念に形をそろえた15,000トンの割り石が用いられています。（単独の古代遺構としては最大規模。）



かつてのローデシアに入植していた白人たちは、この遺跡がアフリカ起源の文化の名残であると証明する努力を快く思わなかったのです。政治家や宣伝活動家は、歴史を書き替えるためにフェニキア、アラブ、インド、ヘブライ文化の影響さえ主張しました。議会で白熱した討論が繰り返された結果、大ジンバブエはアフリカ起源ではないという声明が出されました。

しかし、考古学者ランドール・マカイバーとガートルード・ケイトン＝トンプソンは、それぞれ大ジンバブエの発掘を行い、遺跡がまぎれもなくアフリカ起源であるという結論をだしました。発掘された遺物のほとんどは地元ショーナに由来し、どの地層を発掘してもアフリカの生活様式が刻印されていました。

この発掘調査と、他の考古学者、言語学者、人類学者により引き継がれた粘り強い調査により、大ジンバブエの歴史が少なくとも3つの時代に分かれることが判明しました。

ジンバブエの国旗：
ジンバブエの象徴である鳥は、
硬貨やメダルにも使用されている
© UNESCO

定住が最も盛んだったのは11世紀頃で、丘の上に木の柱と泥の小屋が建てられました。2世紀後、より堅固な構造をもつ泥の家と最初の石造家屋が取って代わりました。その後1世紀間、イスラム商人などアフリカ大陸東岸との交易のおかげで彼らは繁栄を謳歌しましたが、15世紀頃には繁栄のときを過ぎ、大ジンバブエとその都市は没落しました。

建築様式と石造構築物に伴う、活発な交易の遺物が大ジンバブエ遺跡のアフリカ起源をめぐる論争を招きました。

初期ジンバブエの歴史とアイデンティティー探求を試みる時代は終わりを告げました。今日、大ジンバブエ遺跡はジンバブエの魂を象徴し、アフリカ文明遺産の精華となっています。

✓この話について短い感想文を生徒に書かせ、教室内で発表して話し合います。

大ジンバブエ国家記念物
(ジンバブエ)
© Patrimonio 2001/ICL 149994



■生徒の活動22



オーストラリアのウルルーカタ・ジュター国立公園

目的：文化的景観という考え方、
世界遺産に先住民が果たす役割について理解を深める



世界遺産
現地見学



教室での
活動



授業時間数：
2時間



地理、歴史、
社会



世界遺産地図、
解説

次に、オーストラリアのウルルーカタ・ジュター国立公園を取り上げ、世界遺産リストへの登録が、先住民のアイデンティティー、生活様式を理解し、保護するのに役立つことを確認します。

ウルルーカタ・ジュター国立公園は、先住民と政府保護機関が協力関係を有てながら遺産地域を上手に管理している例です。

この遺産は初め自然遺産として1987年に登録された後、1994年に「文化的景観」として再登録されました。「文化的景観」とは、人間と自然の営みが組み合わされたもので、人間と自然環境の間の相互関係を表わします。ウルルーカタ・ジュター国立公園は世界遺産リストに登録された初の「文化的景観」となりました。

ウルルーカタ・ジュター国立公園は、現在もアボリジニーが居住し、アボリジニーの言語が第一言語として広く使われている伝統的アボリジニー地域にあります。1966年、オーストラリア政府はオーストラリアの西部砂漠地帯に住む先住民、アナングに土地所有権を返還しました。この「返還」の後、アナングは国立公園をオーストラリア自然保護庁（ANCA）に貸与しました。現在、アナングとANCAが共同で国立公園の保護・管理にあたっています。土地所有権の「返還」と国立公園の共同管理は、アボリジニーの土地の権利運動の歴史、さらにオーストラリアにおける遺産保護の歴史において画期的な出来事です。

アナングの知識・生活、アイデンティティー・社会構造、倫理信仰体系、そして居住区域の景観でさえジュカルバによって形づくられ、説明されます。「ドリームタイム」と訳されるジュカルバは、アナングが社会を形成し、お互いや自分たちの土地に対峙する方法を定めます。すべての行動はジュカルバによって決まります。ウルルとカタジュタのある土地を横切って旅する時、アナングは地球の表面がまだのっぺらぼうだった頃、同じ土地を横切って行った彼らの先祖の旅路に思いを馳せ、先祖を理解するのです。人の姿、あるいは植物や動物の形で現れる彼らの先祖は、ある土地から別の土地へ旅を続けながら、土地に影響されたり、また逆に影響を与えたりしながら風景を形づくりました。今日も昔と同じように、この知識は儀式、歌、踊り、芸術、工芸を通じて維持され、語り伝えられています。このように、アナング以外の人にとっては、単なる自然の風景に過ぎないものが、実は文化を通じて獲得された「意味」に満ちているのです。

世界遺産ニュースレター、No.10、1996年3月



ウルルーカー・ジュター
国立公園
（オーストラリア）
© S. Tichen

ジュカルバがあるから土地が我々にとって重要な意味を持つのだと、我々はずっと訴えてきた。外国の人々も先住民以外の人も、今はジュカルバの文化的重要性を認識している。ついに認められたことは喜ばしいことだ。かつては笑い飛ばし、夢でも見ているのだろうという人もいたが、ジュカルバはまぎれもない現実なのだ。ジュカルバは我々にとって法律であり、言語であり、我が国土であり、ひとつの家族なのだ。

ヤミ・レスター、ウルルーカー・ジュター、議員

条約に調印するだけで、私たちのアイデンティティーや文化的ルーツが世界と結びついているという理解が生まれる訳ではありません。国や民族の遺産を守ることがなぜ大切なのか理解することはできても、私たちが実際に他の人々とつながっていることを肌で感じるのはおそらく困難でしょう。このつながりを感じる方法のひとつは、世界を文化という島々を浮かべた海、サンゴ礁の海として眺めることです。

トッパタハ岩礁海洋公園
© IUCN/J. Thorsell



サンゴ礁は数多くのサンゴ虫でできているが、生きているのは一番上の層だけである。サンゴ虫は2、3年で死んでしまい、その上を生きたサンゴ虫の新しい層が覆う。生きたサンゴ虫の新しい層ができるたびにサンゴ礁はほんの少しずつ変化する。つまり、少し背丈が伸び、少し大きくなる。サンゴ虫のどの一匹も自由に動いているように見えるが、実は前の世代のサンゴにくっついていて、離れることはできないのだ。生きているサンゴ虫ひとつひとつは他の生きているサンゴ虫とは無関係に見える。しかし、海面下にある二、三世代前のサンゴを見れば同じサンゴ礁の一部を成していることが分かる。心無い人、または海洋汚染で昔の層がいくつか破壊されたとすると、サンゴ礁全体がどうなるかは言うまでもない。私たちの社会はサンゴ礁に似ている。私たちの前に生きていた何千世代もの人々が、彼らの思想、行動、業績によって作り出したのだ。私たちを構成しているのはそういうものだ。それは私たちの一部なのだ。私たちのアイデンティティー、私たちの遺産なのだ。

トーマス・フュラー・エーリクソン、ノルウェー、オスロ大学、人類学教授



カリキュラムを通じて： 世界遺産とアイデンティティー (私たちの同一性・存在)

美術

人類の創造的天才を余すところなく示す世界遺産の絵を描き、それをつくったさまざまな人々、あるいは文化的景観の場合はその守り手のアイデンティティーについて深く考察します。

外国語

外国語で書かれた教科書を読み、自国語にも共通の言葉を拾い出します。なぜ似たような言葉があるのか、二つの国の文化が接触した可能性について話し合います。

自国の世界遺産についての情報パンフレットを他言語に翻訳します。元のテキストでは当たり前のことでも、翻訳した場合には説明が必要になる言葉や考えを見つけ、人々のアイデンティティーについて何か示唆するところはないか話し合います。

地理/科学

世界遺産リストを調べて、人間と地理的条件の相関関係を描き出します。例えばノルウェーにおいて木が果たしている役割のように、生活の実践的な側面でも人々のアイデンティティーが形づくられる過程に自然が果たす役割の大きさを強調します。

歴史

できれば世界遺産またはその他の文化遺産、自然遺産を見学し、ロールプレイをしながら遺産をつくった人々、あるいは現在そこに住んでいる人々の気持ちを体験します。

国語/文学

自分の文化的アイデンティティーを守ることの大切さについて作文を書き、その中から着想して短劇をつくります。

特定の自然遺産、文化遺産の保護を訴える5分間のスピーチコンテストを催し、生徒に参加させます。

アイデンティティーと世界遺産に関連する中編または短編小説を読んで話し合います。次に自分でも文章を書かせます。

地域の自然遺産または文化遺産に関連づけてアイデンティティーをテーマにする劇の中に良いものがあるかどうか探します。

哲学/宗教学習

宗教的建築物、建築物の見取り図や写真を追加教材とし、信仰体系について説明します。

宗教遺跡(教会、モスク、寺院または景観)を見学する時は、そこに用いられている象徴を観察します。



世界遺産とアイデンティティー (私たちの同一性・存在)







世界遺産と観光



ピサのドゥOMO広場 (イタリア) © J.A. Taylor

1998年には5億人の観光客が
552の世界遺産地域を訪れました

世界遺産と
観光

世界遺産と観光

| | |
|---------------------------------|-------|
| 目 的 | P.121 |
| 知 識 | P.121 |
| 心がまえ | P.121 |
| 能 力 | P.121 |
| 観光：世界規模の現象となった大事業 | P.122 |
| 生徒の活動23：観光旅行者の動向の算定 | P.123 |
| 生徒の活動用シート：世界観光統計表 1 | P.124 |
| 生徒の活動用シート：世界観光統計表 2 | P.125 |
| 生徒の活動用シート：世界観光統計表 3 | P.126 |
| 世界遺産保護に対し、観光が与える利点と潜在的な脅威 | P.127 |
| 生徒の活動24：観光が世界遺産に与える利点と予測される脅威 | P.128 |
| 新しいタイプの観光の必要性 | P.128 |
| 世界遺産、観光、生態系を損なわない開発 | P.129 |
| 生徒の活動25：世界遺産と観光ゲーム | P.130 |
| 生徒の活動用シート：世界遺産と観光ゲーム | P.131 |
| 生徒の活動26：マナーの悪い観光客と尊敬すべき観光客 | P.132 |
| 観光客の行動指針 | P.132 |
| 世界遺産への訪問の促進 | P.133 |
| 生徒の活動27：遺産地域の観光施設の評価 | P.134 |
| 生徒の活動用シート：遺産地域の観光施設の評価 | P.135 |
| バーチャル観光と世界遺産 | P.136 |
| 世界遺産での観光管理 | P.137 |
| 生徒の活動28：世界遺産（自然遺産）を横切る高速道路の建設 | P.138 |
| 生徒の活動用シート：世界遺産（自然遺産）を横切る高速道路の建設 | P.139 |
| カリキュラムを通じて：世界遺産と観光 | P.140 |
| OHPシート：世界遺産と観光 | |

目的



知識

生徒の知識と理解を**高める**：

- 世界中の観光の動向と、それが世界遺産に及ぼす影響
- 私たちが遺産、異文化、価値観、伝統について学ぶために、観光はどのように役立つか
- 観光客の管理も行う遺産地域の管理の必要性

心がまえ

生徒の心に**熱きかけ**る：

- 遺産の正しい認識とその保護を伝えられるような、新たな形の観光を導く必要性を理解する
- 世界遺産地域を集団的な観光から保護する方策を考え、尊重する

121

能力

生徒の能力を**磨く**：

- 観光の動向と、世界遺産保護の相関関係をより深く理解するために統計的なデータを解釈・分析する方法を学ぶ
- 世界遺産地域でのガイドを務めるための基本的な技術を習得する
- 文化遺産や自然遺産を敬意をもって責任ある方法で訪れる
- 世界遺産地域を確実に保護しながら、観光客のためになるように世界遺産地域の見せ方を向上させることを創造的に考える

観光：世界規模の現象となった大事業

人々の理解を深めるのに、人類共有の自然遺産や文化遺産を賞賛する手法として観光以上に有効な手段があるでしょうか？遺産地域はいつでも旅行の大きな魅力となってきました。人や自然が創り出した傑作は、私たちの中に驚嘆するような感覚を甦り立てます。その感覚こそ旅の最高の形です。しかし、無軌道な観光や誤った方向での開発を進めると、遺産地域だけでなくそれを取り巻く社会にも、取り返しのつかない物理的および社会的損害を与えることになりかねません。

フエデリコ・マヨール事務局長、世界遺産—永遠にわたしたちのものか？—
パリ、ユネスコ、1995年

この40年来、世界規模で最大の現象となったものの一つに、団体による観光の増加が挙げられます。この現象は世界遺産を訪れる人の数にかなりの影響を与えています。

輸送技術の急速な発達、生活水準の向上、有給休暇や余暇の増大により、今日、かつてないほど多くの人々が、遠くに出かけています。例えばWTO（世界観光機構）は、1995年の5億2800万人から比較すると、1950年の世界中の観光客数は約2500万人だったと推定しています。この数字は45年の間に観光客数が20倍以上になったことを意味しています。WTOの予想では観光客数が2000年には6億人、2010年には9億4000万人になると推定しています。

多くの人々が興味をそそる場所を新しく発見するのに熱心ですが、世界遺産リストに登録されている地域は顕著で普遍的な価値を有しているため、多くの人々が訪問先を選びます。大都市に住む人の増加により、人々は自然の美しさで有名な土地や世界遺産（自然遺産）を訪れたがる傾向にあります。文化遺産への観光が「文化的観光」と呼ばれるのに対して、このような旅行は「エコ・ツーリズム」と呼ばれることがあります。

観光客

観光旅行する人。特に娯楽として旅行する人。楽しみや教養のため、関心、景観などの対象である場所を旅行する人。

(オックスフォード小辞典)

観光

観光旅行の理論と実際。楽しみのための旅行。

(オックスフォード小辞典)

モンサンミッシェルとその入り江を
訪れる観光客（フランス）
© Artsworld 2001; D. Christ



観光は職を創り出し、必要な外貨を大量にもたらすため、開発と連関しています。例えば、1950年に観光客が費やしたのは約2,100万米ドルであったのに対し、1993年には（160倍以上の）推定額3億2100万米ドルを使ったとされています。

観光は、文化なくしては存在しません。文化こそ人が行動を起こす主要な動機の一つなのです。

文化、観光、開発についての円卓会議議事録—21世紀への重要な論点、p.7。
1996年6月26～27日、パリ、ユネスコ

■生徒の活動23

観光旅行者の動向の算定

目的：世界中の観光旅行者の傾向や
世界遺産保護と訪問者数との係わり合いについて学ぶ



調査



教室での活動



授業時間数：
1時間もしくは
は2～3時間



数学・社会



生徒の活動用
シート
「世界中の観
光統計」

世界遺産地
図、写真

✓生徒に生徒の活動用シートのチャート1を見せましょう（各生徒にコピーを配布するのが望ましい）。データについて説明し、統計値の集め方、解釈のしかた、用い方について情報を与えます。訪問者の多い順25ヶ国について世界遺産地図を用いて、いくつの世界遺産が存在するか調べさせます。生徒が相関関係（例えば、世界遺産の数で観光客の多さが説明できるなど）を推測するようにさせ、各地域（アフリカ、南北アメリカ・カリブ海地域、アジア太平洋地域、アラブ諸国、ヨーロッパ）ごとに、観光客が多数訪れる10ヶ所を書きこませます。

✓生徒たちにチャート2を示し、先進国と開発途上国の2つのリストに10ヶ国を記入させます。先進国であることと世界遺産からの観光収入の高さとの間に相関関係はありますか？発見したことを話し合しましょう。最も多くの観光収入を得ている地域の中にはいくつの世界遺産があるのでしょうか？

✓生徒にチャート3を示し「増加率」がどのような意味を持っているのかについて話し合い、他の年代に比べ、成長率に変化がみられる原因を話し合います。

✓自国の世界遺産の観光や、訪れた観光客の統計値を出してみ、生徒たちにそのデータを示します。

世界の観光地ベスト10 海外旅行者入込み数

チャート1

| 順位 | 国名 | 観光客入込み数 の割合(%) | 順位 (千) | 年平均増加率 | 世界全体に占める (%) | 入込み数 |
|----|---------|-------------------|-----------|--------|-----------------|-------|
| 1 | フランス | 60,100 | 1 | 5.46 | 11.73 | 10.59 |
| 2 | アメリカ合衆国 | 45,779 | 3 | 5.62 | 8.93 | 7.91 |
| 3 | スペイン | 40,085 | 2 | 4.23 | 7.82 | 8.23 |
| 4 | イタリア | 26,379 | 4 | 1.38 | 5.15 | 7.77 |
| 5 | ハンガリー | 22,804 | 10 | 7.04 | 4.45 | 3.31 |
| 6 | イギリス | 19,488 | 7 | 3.53 | 3.80 | 4.37 |
| 7 | 中国 | 18,982 | 15 | 13.89 | 3.70 | 1.23 |
| 8 | オーストリア | 18,257 | 5 | 2.13 | 3.56 | 4.88 |
| 9 | ポーランド | 17,000 | 12 | 8.82 | 3.32 | 1.99 |
| 10 | メキシコ | 16,534 | 8 | 2.53 | 3.23 | 4.20 |

資料提供：世界観光機構

世界の観光収入ベスト10
海外旅行者からの観光収入

チャート2

| 順位 | 国名 | 観光客入込み数 | 順位 (千) | 年平均増加率 | 世界全体に占める (%) | 入込み数 |
|----|---------|---------|-----------|--------|-----------------|------|
| 1 | アメリカ合衆国 | 57,621 | 1 | 14.37 | 18.75 | 9.76 |
| 2 | フランス | 23,410 | 2 | 8.37 | 7.62 | 7.99 |
| 3 | イタリア | 20,521 | 3 | 7.30 | 6.68 | 7.97 |
| 4 | スペイン | 19,425 | 4 | 8.21 | 6.32 | 6.76 |
| 5 | オーストリア | 13,566 | 7 | 5.90 | 4.41 | 6.25 |
| 6 | イギリス | 13,451 | 5 | 5.28 | 4.38 | 6.69 |
| 7 | ドイツ | 10,509 | 6 | 3.68 | 3.42 | 6.37 |
| 8 | 香港 | 7,562 | 18 | 14.39 | 2.46 | 1.28 |
| 9 | スイス | 7,001 | 9 | 6.34 | 2.28 | 3.06 |
| 10 | メキシコ | 6,167 | 8 | - | 2.01 | 5.23 |

資料提供：世界観光機構

世界の観光客入込み数

チャート3

年代別増加率1950-1994

| | 増加率 (%) | 年平均増加率 (%) |
|-----------|------------|---------------|
| 1950-1960 | 174.2 | 10.6 |
| 1960-1970 | 139.2 | 9.1 |
| 1965-1970 | 46.9 | 8.0 |
| 1970-1980 | 71.5 | 5.5 |
| 1975-1980 | 27.9 | 5.0 |
| 1980-1990 | 60.3 | 4.8 |
| 1985-1990 | 39.1 | 6.8 |
| 1990-1994 | 16.6 | 3.9 |

資料提供：世界観光機構

▲世界遺産保護に対し、観光が与える利点と潜在的な脅威

観光には、多くの明白な利点があります。観光によって受入国、町、遺産地域に仕事が増え、外貨がもたらされ、現地の設備（道路、通信設備、医療など）の改善につながることもあるでしょう。旅行者は世界の不思議に感嘆し、他国の環境、文化、価値や生活のしかたについてより深く学び、ゆえに国際的理解と連帯が促進されることでしょう。他の国の人々について学ぶことで、自分の国についてもっと深く学ぶこともしばしばです。



世界遺産と
アイデンティティー
(私たちの同一性・存在)

しかし、観光は悪影響も及ぼします。例えば、世界遺産であるインドネシアのボロブドゥール寺院遺跡群には何百万人も観光客が訪れます。このボロブドゥール寺院遺跡群というのは非常に暑く、多湿の地域にあります。観光客の快適さを保つため、ツアーのバス運転手が、観光客が遺産地域を見て回り帰って来るまでエンジンをかけっぱなしにしてエアコンをつけていることもあります。一酸化炭素を含む排気ガスが石造りの寺院に損害を与えているようです。



ボロブドゥール寺院遺跡群
(インドネシア)
© UNESCO/A. Voronozh

自動車交通は他の多くの世界遺産にとっても、大きな脅威になりつつあります。イギリスのストーンヘンジに近接した道路は、この遺産地域の完全な状態を脅かしています。エジプトのギザからダークシュールにかけてのピラミッド地帯に隣接した高速道路を建設しようという計画はユネスコの要請によりエジプト当局の手で中断されています。

世界遺産条約では、危機にさらされている世界遺産のリストに関して、「急速な都市開発あるいは観光開発プロジェクト」のもたらす深刻な脅威について言及しています。(第11条・第4項)

ストーンヘンジ、
エイヴバリーと隣接した
地域 (イギリス)
© UNESCO/A. Lacouture

観光は、遺産地域にとって良い影響、悪い影響の両方を与えます。前者を促進し、後者を排除する必要があります。

ノルウェーのベルゲンで開かれた世界遺産コースフォーラムでの生徒の話し





■生徒の活動24

観光が世界遺産に与える利点と予測される脅威

目的：観光が世界遺産に与える利点と
予測される脅威について理解を深める



討議



教室での活動



授業時間数：
1時間



国語、社会



大きな声で
2回

✓生徒を2つのグループに分けます。第1グループには地元もしくは世界遺産に観光が与える利点をあげさせ、リストを作らせます。第2グループには観光が世界遺産に及ぼす脅威を列挙させリストを作らせます。各グループから生徒を一人ずつ選び、グループのリストを発表させ、観光が引き起こす世界遺産への脅威をどのようにしたら軽減できるかを話し合います。

▲新しいタイプの観光の必要性

観光は人々が文化、生活様式、自然環境の多様性を直接認識することを可能にします。また、観光は若者に有益な異文化交流を提供します。

観光は一途の包容力を提供できます。そこでは全ての人が唯一無二かつ多様な世界に遭遇します。

文化、観光、観光についての円卓会議第1回—21世紀への展望を論議。p7。
1995年7月26—27日、パリ、ユネスコ

しかし、観光は、もし観光客のための設備（ホテル、水泳用プール、レストランなど）の建設が優先され、地元住民のための学校や病院が犠牲になるようなことがあれば、経済的かつ社会的な不均衡を引き起こしかねません。

生態系を損なわない開発を支援し、受入国がその文化的アイデンティティー（独自性）を再確認し、訪問者にもその文化と環境についてより知識を深めさせ、注意を払わせ、評価させることを促すような、そんな新しいタイプの観光が求められています。同時に、現実的な異文化間の対話と相互の尊重、連帯感を確立することも求められています。例えばもし水不足に悩んでいる国があれば、観光客は、タオルやシャツを毎日洗うことを要求しないなどの方法で水を節約し、連帯感を示すことができるでしょう。

世界遺産、観光、生態系を損なわない開発

観光は、構想や実施に関わりをもつべき地元住民の意志と参加に基づいたものであれば、そしてまた、観光の基盤をなす自然的・文化的資源が長期的に保存されるのであれば、質の高い持続可能な開発に寄与できます。

文化、観光、開発についての円卓会議議事録—21世紀への重要な遺産、p.7。
1996年6月25〜27日、パリ、ユネスコ



世界遺産と環境

団体による観光は、文化遺産や自然遺産の保全と保護に深刻な影響を与えかねません（文化遺産の場合は膨大な数の訪問客による劣化、自然遺産の場合は観光客による外来種の移入や脆弱な海岸への観光客のためのリゾート施設の設置、観光客の廃棄物による汚染など）。遺産地域、特に世界遺産は、それぞれ適切に管理されなければなりません。若者たちにとっては、将来の政策決定者として遺産地域の管理に対して彼らができることについてよく考えることが大切です。

私たちの父祖が守ってくれたから、私たちはこのような地域を全て鑑賞し、見学することができるのです。そのかわりに、私たちの子孫がこれを鑑賞し創造を与えられるように守っていくのが、私たちの義務なのです。

世界遺産ユースフォーラムでの生徒の意見（中国・北京）

世界遺産は効果的な管理と保護のモデルとなるべきです。残念ながら現在の状況下では、これらのかげがえのない地域に望まれる水準に常に達しているわけではありません。しかし、これらの地域が厳しく管理され、この地域への訪問や観光が環境に責任を持って行われるのであれば、これらの地域で多くの人が必要としている多額の資金の調達に寄与し、長期にわたる保護ができるようになるでしょう。

観光、エコ・ツーリズムと保護地域、H. サハイオス・ラッシュクラニー編、IUCN、1996年



■生徒の活動25

世界遺産と観光ゲーム

目的：遺産地域の管理と観光にかかわる重要な問題について、楽しみながら理解を深める



実習



教室での活動



授業時間数：
3時間



社会、地理



世界遺産地図、
概観



サイコロと
研究

ルール：

- ✓生徒を2～4人の小グループに分けます。
- ✓授業の1時間目に各グループに1つずつの世界遺産についての情報（データ、写真、場所、特質など）を与えます。ゲーム全体を通して、各チームは担当の世界遺産を代表することとします。それぞれのグループは、教師の力を借りながら、自分たちのグループの世界遺産の「観光管理計画」を作ります。
- ✓2時間目からすごろくゲームをします。それぞれのグループがサイコロを振り、指定されたマスに移動します。全てのチームが1回ずつ移動したら、そのマスでの指示について準備する時間（10～30分）を与えます。この指示された課題を完了するまで、そのチームは前へ進めません。「ポスター」が指示されたマスでは、自分たちのグループの世界遺産を紹介するポスターを制作します。指示された課題をすべて終え「あがり」のコマまで先に到達した最初のチームが勝ちとなります。3時間目には、生徒たちは自分たちの成績について話し合い、ポスターの発表を行います。





| | | | | | |
|---|--|---|--|------------------------------|--|
| <p>スタート</p> <p>あなたの地域の遺産は世界遺産リストに登録されています。他のチームに観光管理計画を提示しましょう。</p> <p>1</p> | <p>ポスター</p> <p>2</p> | <p>ポスター</p> <p>3</p> | <p>遺産地域が自然の災害にみまわれました。何が起ったのか（あなたの地域の遺産の特徴や受けた被害を考慮に入れて）説明してください。</p> <p>ふりだしに戻る。4</p> | <p>ポスター</p> <p>5</p> | <p>あなたの地域の遺産にたくさんゴミが散らかっています。この問題を解決する5つの方を考えてください。</p> <p>4マ又戻る。6</p> |
| <p>ポスター</p> <p>7</p> | <p>ポスター</p> <p>8</p> | <p>ポスター</p> <p>9</p> | <p>あなたの地域の遺産にある案内センターの設備が少ないという批判を受けました。見学者に、センターの改築を図るための寄付を呼びかける手紙を書きましょう。</p> <p>5マ又戻る。10</p> | <p>ポスター</p> <p>11</p> | <p>あなたの地域の遺産への訪問者数が増加しました。修復事業を開始するための資金が足りません。何を優先的に行いますか、またそれは何故ですか？文字を使わず、絵でそれを説明しましょう。</p> <p>5マ又進む。12</p> |
| <p>保護が不十分だったため、遺産の一部が壊れてしまいました。問題点（5つ以上）と解決法を挙げ、表を作りましょう。</p> <p>ふりだしに戻る。13</p> | <p>保護のための資金提供の要請が成功しました。あなたがその資金を受け取る理由を7つ挙げた要請文を作成しましょう。</p> <p>5マ又進む。14</p> | <p>観光客のためのホテルが新しく建てられました。このホテルの経営者は世界遺産保護の重要性に理解を示しています。雑誌に掲載するこのホテルの広告を作りましょう。</p> <p>4マ又進む。15</p> | <p>国際記念物遺跡会議（IUCN）が5年毎に行う調査であなたの保護の取り組みが批判されました。</p> <p>9マ又戻る。16</p> | <p>ポスター</p> <p>17</p> | <p>国営テレビであなたの地域の遺産についての特別番組が放送されました。</p> <p>3マ又進む。18</p> |
| <p>ポスター</p> <p>19</p> | <p>訪問者があまりにも多く、混雑がひどく進みました。あなたの地域にある遺産に観光客がもたらした利点と欠点を5つずつ挙げましょう。</p> <p>11マ又戻る。20</p> | <p>ポスター</p> <p>21</p> | <p>雨漏りのためホテル閉鎖。</p> <p>5マ又戻る。22</p> | <p>ポスター</p> <p>23</p> | <p>あがり</p> <p>すばらしい管理計画のおかげで遺産地域の保存がうまくいきました。あなたの管理計画、直面した問題、実行した解決法についての報告書を書きましょう。</p> <p>24</p> |



■生徒の活動26

マナーの悪い観光客と尊敬すべき観光客

目的：尊敬すべき観光客になる



ロール
プレイ



教室での活動
もしくは
校外活動



授業時間数：
5～6時間



国語、社会



世界
遺産地図、
写真、動画



観光地の
日本

✓遺産地域を大切にせず、ゴミを散らかしたり、落書きなどで遺産を傷めたり、地域の伝統や慣習をばかにしたりして、主に自分の楽しみのことしか考えていないようなマナーの悪い観光客について、生徒に劇の脚本を書かせ、演じさせます。尊敬すべき観光客とは、地域の伝統や慣習（遺産地域の歴史、伝統工芸や美術品、音楽、食べ物、衣服など）を熱心に学ぶ人です。生徒が脚本を書き上演したら、そのような観光客が、地元や世界遺産を訪問することに関心をもち、遺産を尊重するようになるにはどうしたらよいかを、下記の行動指針に基づいて話し合います。

✓生徒たちに、地元、国内あるいは世界の遺産地域を選ばせ、遺産地域の新しい訪問方法を観光客に対して提案するためのリストを作らせます。その提案について話し合い、地域の観光連盟もしくは遺産協会に配布します。

観光客の行動指針

旅行の計画をたてる際に観光客がとるべき態度

1. 目的地についてできるだけ多くのことを学ぶ
2. 現地に配慮した実践活動を行う意志を示している事業者（例：航空会社、旅行業者、旅行代理店、ホテル）を利用する
3. できればシーズンオフに休暇をとったり訪問を計画する
4. 比較的知られていない目的地を訪問する

目的地到着後、観光客のとるべき態度

1. 現地の文化や伝統を尊重する
2. 訪問先の地域社会のプライバシー、文化、慣習、伝統を重んずる
3. 現地の品物を買ったり現地の業者を利用したりして、地域経済に貢献する
4. 現地の保護への取り組みに貢献する
5. 自然環境、生態系や野生生物を保護・保全する
6. 文化遺産や記念物の美観を損ねない
7. エネルギーや水を有効に利用し、ゴミの処分も効果的にする
8. 火の取り扱いには十分注意する
9. 不必要な騒音をたてない
10. 規定された道路や歩道のみを通行する

観光客の行動全般に関する指針、観光のための環境的行動規範、国連環境プログラム

世界遺産への訪問の促進

1978年、世界遺産リストに最初の12ヶ所の地域が登録されました。1987年までには既に289ヶ所が登録され、10年後の1997年には552ヶ所へと倍増しています。年々、世界遺産委員会は新たな登録地をリストに加えています。ユネスコ世界遺産ユースフォーラムに参加する若者たちは、できるだけ多くの世界遺産を見学することに強い関心を抱いているようです。しかしながら、多くの学校は世界遺産から遠く離れており、旅行には多額の費用がかかります。そこで生徒たちは、世界遺産の学校見学を可能にするため、学校の団体には入場料無料あるいは割引引きを認め、現地の会社が交通費を後援してはどうかと提言しています。学校によっては、世界遺産に出かける資金をまかなうために、資金調達のための活動（お菓子を売る、車を洗う、コンサートを企画する、入場料を徴収する、など）を行ないます。

文化遺産や自然遺産を生徒にとって興味深いものにするためには、細心の熟慮を重ねた準備が必要です。遺産地域への訪問は明らかに遺産地域の劣化の一因となりますが、もし適切に準備されるならば、長期的な保護と保全に関わる責任感を生徒たちに生じさせるものとなるでしょう。



条約

タイのワット・プラシット
（タイ）
© Patrimonio 2021/9. Anantaporn





■生徒の活動27

遺産地域の観光施設の評価

目的：遺産地域にある観光施設を向上させるための観察力を養う



調査



教室での活動



課外活動



授業時間数：
2時間および
校外活動



語学、地理、
社会



生徒の活動用
シート
「遺産地域に
ある観光施設
の評価」

- ✓観光客に人気の高い、近くの遺産地域への遠足を計画します。
- ✓生徒の活動用シートをコピーし、生徒に一枚ずつ配ります。
- ✓生徒たちに、これから見学しようとする遺産地域についての情報を与え、用紙に記入し、レポートを書くことの重要性を説明します。
- ✓生徒からレポートを受け取ったら、生徒たちの発見を要約して提示し、観光施設がどのように改善されるべきか話し合います。

世界遺産としてすべきこと

- ・脆弱な地域への悪影響を防ぐため、観光客数を監視する
- ・お年寄りや幼児、身体障害者のための通路を設ける
- ・主要地区の外部に商業施設を設置しない

世界遺産ユネスフォーラムにおける生徒たちの提言（中国・北京）

■該当する欄に印をつけて、
設備が適切かどうかを評価してください。

| 設 備 | 不適切 | まあまあ | よ い | 非常によい |
|-----------|-----|------|-----|-------|
| 遺産地域への案内板 | | | | |
| 駐車場 | | | | |
| お手洗 | | | | |
| 案内所 | | | | |
| 標 示 | | | | |
| おみやげ | | | | |
| ゴミ箱 | | | | |
| 清潔さ | | | | |
| ガイド | | | | |
| 軽 食 | | | | |
| その他 | | | | |
| | | | | |

遺産地域の管理者への報告

私は先日、あなたが管理する遺産地域を訪問し、次のように思いました。

- 遺産地域の設備は適切です。
- 遺産地域の設備は不適切で、下記のような改善を望みます。

.....

.....

.....

.....

この報告が、あなたが管理する遺産地域のさらなる発展のために
役立つことを希望します。

氏名： _____

サイン： _____

日付： _____

生徒はこのレポートに
記入し、教員に提出す
ること

バーチャル観光と世界遺産

新しい技術を利用すれば、世界遺産やその他の遺産地域を、実際にその場へ行かなくても見るできるようになりました。例えば、一つの町や都市の一角をそのまま再現した遊園地や博物館がある国もあります。イギリスのヨークでは、観光客はバイキングの村「ヨヴィック」を見学できます。この村は地下にあり、観光客は小さな自動運転の列車に乗ります。3次元スクリーンや特殊効果を利用した、現在の遊園地の最大の呼び物のひとつとなっている「乗り物シミュレーション」では、可動式の特別な椅子に腰掛ければ、別世界、宇宙にさえ行けるのです！この体験自体、観光の新しい形態です！この新しいタイプの観光について、特にこれが将来的に及ぼす利点と欠点について、教師と生徒が話し合うこともよいでしょう。

私は旅行者。あなたは訪問者。彼らは観光客。

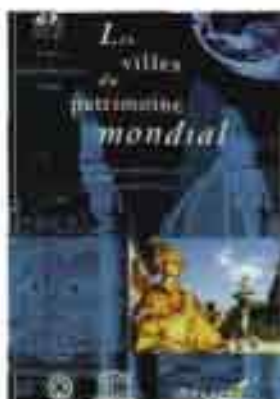
この短文には逆説が表されています。私たちは自然の美しい場所へ旅するのが好きですが、同じ様に行動する人があまりに多いことに衝撃を受けます。各個人がそれぞれの余暇を使ってする行動はほとんど無害ですが、集団になると、私たちが賞賛しているまさにその場所を脅かしてしまうのです。私たちは、世界中の国立公園や保護地域を破壊の危機にさらそうとしているのです。

エイドリアン・フィリップ、LON, 1986年

世界遺産について、CD-ROMが数々と作られています。例えばユネスコのCD-ROM「世界遺産の都市」ではカンボジアのアンコールのような遺産にいたるまで、世界中の100以上の世界遺産を見ることができます。良く企画された展示やウェブサイトでも、生徒が世界遺産を「訪問」することが可能です。インターネットにアクセスできれば、ユネスコの世界遺産センターのウェブサイトを訪ね、世界遺産リストに登録されているSS2の地域（2000年1月現在630地域）について情報を得ることが可能です。



参考資料一覧表



ザンベジ川クルーズで
動物を観察する。
モザンビークの世界遺産
ユネスフォーラムに参加した
生徒たち
© UNESCO

世界遺産での観光管理

世界遺産保護への主要な取り組みは、人々が遺産地域に悪影響を生ずることなく訪問できるようにすることです。交通の不便な地域であるがゆえに美観と良好な保存状態を保っていた場所が、いまや旅行者の格好の標的となっています。したがって、世界遺産にはそれぞれ、適切な管理が必要とされているのです。

中国の万里の長城は1987年に世界遺産リストに登録されました。国内外から何百万人もの観光客が訪れるのは万里の長城の一部であり、それは北京近郊にあるレンガ・石造りのもので明の時代に建造されたものです。約2000年前の壮麗な遺跡は、甘粛省ゴビ砂漠で見られます。砂漠の乾燥した気候のおかげで、もろい材料を保存することができたのです。この遺跡には、泥でできた城壁や北方民族の襲来を知らせ、注意を促すためののろし用に積み重ねられたアシまで残っています。万里の長城のこの部分を見学する観光客は、ほとんどいないといっただけよかったのですが、見学者の増加に伴い、この遺産地域の脆弱な遺物が脅かされるおそれがあります。

危機にさらされている世界遺産（自然遺産）の一つに、南西ニュージーランドのテ・ワヒポウナムがあります。この自然の美は、良好な保存状態にありました。ニュージーランドが他の国々から遠く離れているため、豊かで特異な生物の多様性が保てたという事実があります。しかし、観光ブームと交通手段の発達の結果、多くの

観光客がニュージーランドを訪れるようになりました。観光客の交通の便をよくするために、遺産地域の中にハーストとミルフォードを結ぶ高速道路を建設することの是非をめぐって近年論議が交わされています。このことは、多くの利点と欠点を明らかに示しており、これについては生徒の活動28でさらに考察します。



テ・ワヒポウナム
(ニュージーランド)
©(UNESCO)/ Dandav



世界遺産地図



世界遺産と環境



■生徒の活動28

世界遺産（自然遺産）を横切る高速道路の建設

目的：開発、観光、世界遺産について、
その関心や考え方の多様性を理解する



ロールプレイ、教室での活動



課外活動



授業時間数：
1時間
1時間および
1時間以上の
校外活動



地理、算数、
理科、語学



生徒の活動用
シート「世界
遺産（自然遺
産）を横切る
高速道路の建
設」、世界遺
産地図、解説

✓生徒を5つのグループに分け、各グループに生徒の活動用シートのコピーを配ります。それぞれの意見とその役割を決めるのにふさわしい人を生徒に選ばせます。役割と各グループに番号（1～5）をつけます。グループごとに自分の担当する意見をさらに展開させます。

✓意見をかためる時間を十分にとった後、各グループから教室で行われる公開討論の代表者を指名し、その役割の人物の見解を擁護する討論を行います。また、各グループから、討論の後に高速道路を建設するか否かの評決に加わるメンバーを1人選びます。そこでなされた決定について話し合います。



1. ニュージーランドでは、これ以上原生地域に道路を作る必要はないと思います。道路建設は原生地域に深刻な影響を与えるだろうし、経済的に不利益だと思えます。ニュージーランドを訪れる観光客への魅力になるというより、その訪れる方法を変えるに過ぎませんし、いずれにせよ私たちにはその必要はありません。決してそんなことは起こりません。

森林・野鳥保護協会理事

2. 私たちは、これを本質的には海岸地域への観光客増加への対応策だと考えています。この道路は、私たちが失ったものすべてを補うものです。ミルフォード行きのバスの10%だけでもウェストコーストへ来るようになれば、私たちの観光産業の規模は倍増するでしょう。

ウェストランド郡議会、議長



3. 谷底に沿った道路の建設は、デリケートな湿地の生態系を著しく乱し、山麓の丘陵地帯に沿った道路は、景観を著しく損なうでしょう。

森林局管理官

4. この景色と景観は、本当に傑出したものです。この道路は、国際的な観光にも、そしてニュージーランドにも新しい局面を開くものとなるでしょう。ハーストからミルフォードへ向かう車にひとりで乗っているだけでも良い経験でしょう。

運輸大臣



5. 全てを考慮すると、この提案には害悪はないと思います。実現可能性調査によれば、国の払う犠牲が大きすぎるといったようなことはありません。観光収入の比率が高い南ウェストランドやフィヨルドランドの地域社会や観光業界に利益をもたらすものだと思います。

オタゴデイリータイムズ紙、論説委員

(出典：ニュージーランドグレイモンズ高校)



カリキュラムを通じて： 世界遺産と観光

美術

訪問者に遺産地域に来てもらうためのポスターなど、観光キャンペーンのためにデザインをします。

遺産地域観光客のための案内リーフレットをデザインし、可能ならば作成まで行います。

遺産地域のスケッチや絵を描いたり、地域を訪問します。遺産地域でスケッチしたイメージを、たとえば抽象美術や服飾デザインへと発展させます。

地元/国/地域の世界遺産保護の必要性を説いたポスターをデザインします。遺産地域についての過去のイメージやその成り立ちの理由を探り、観光客の状況が変化したかどうかを調べます。

地理/歴史

遺産地域が長年にわたって観光客の訪問先となった（ならなかった）理由を話し合います。

地元・国・地域・世界の観光事情に遺産地域の歴史が関連したかどうかを話し合います。

遺産地域の歴史を観光客に生き生きと説明する方法を提案します。

訪問者が遺産地域内で侵した部分を研究し、他のルートをとるなどの解決方法について議論します。

インターネット

「世界遺産」、「観光」などのキーワードを用いて特定の国や地域の世界遺産や観光に関してのさらに詳しい情報を入手します。

語学/文学

観光客用（一般向け、身体障害者向け、外国人向けなど）の案内リーフレットを書きます。

遺産地域のツアーを記録したりテープに録音したりします。

遺産地域の価値や、観光が遺産地域に与える脅威について討論やロールプレイを行います。

遺産地域案内を他の言語に翻訳します。

地元/国/地域の世界遺産に関する各種広告リーフレットを研究します。

小説や物語で遺産地域について言及した箇所を探し、観光客向けのパンフレットや資料にどう引用できるか検討します。

数学

グラフ、円グラフ、統計表を用いて観光客の傾向とそれが世界遺産地域に及ぼす可能性がある影響について検討し、アンケートや調査結果を計算・記録します。

社会科学

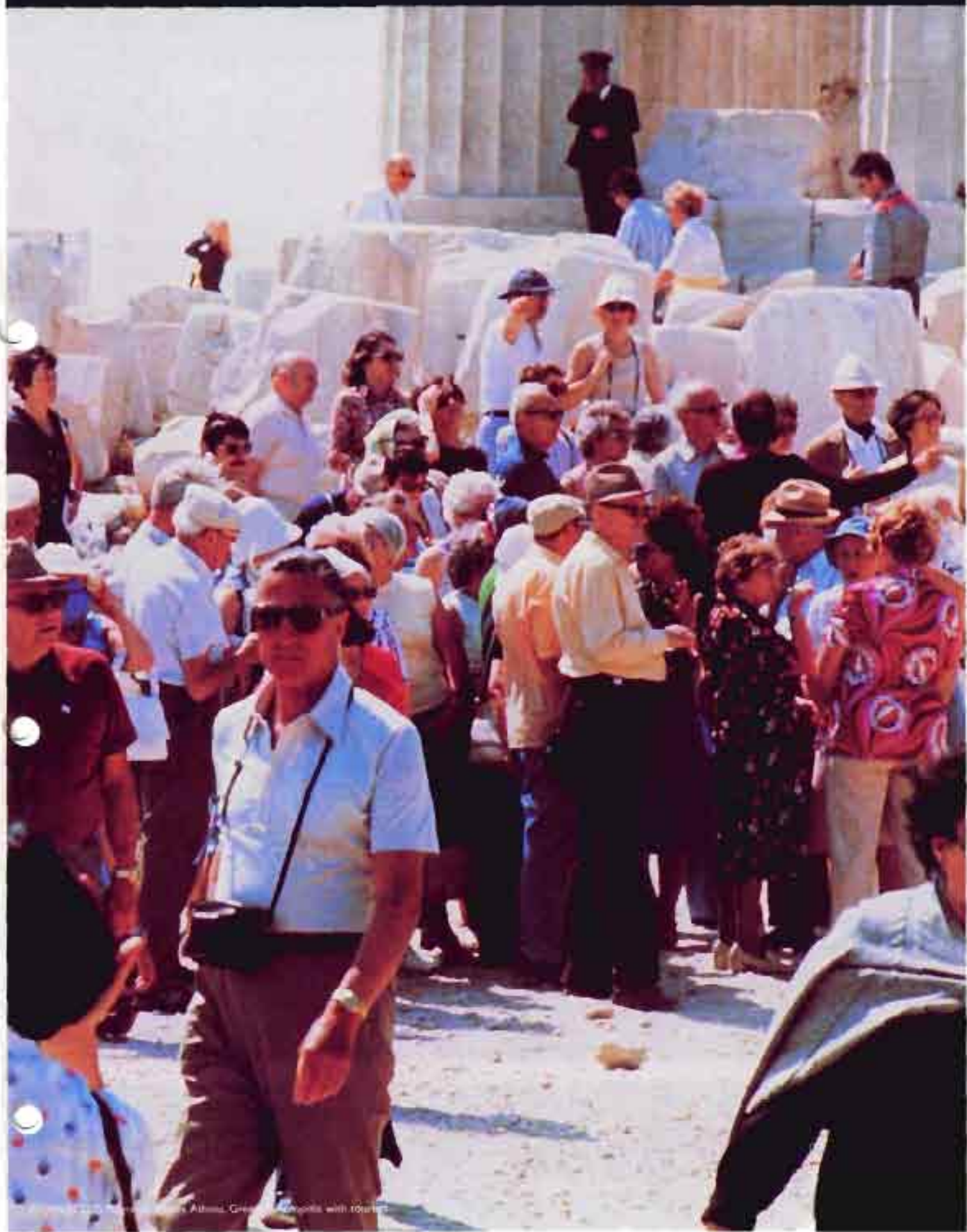
遺産地域を訪れた訪問者からアンケートをとり、調査を行います。

遺産地域の管理者にインタビューを行い、観光が遺産地域に与える良い影響と悪影響について学びます。





世界遺産と観光



世界遺産と環境

キリマンジャロ国立公園 (タンザニア) © UNESCO/M. Batisse



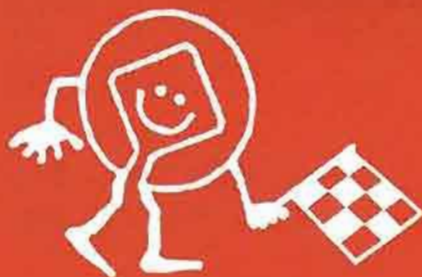
自然はさまざまに解釈できる—
科学関連事業の取組みの対象として、
資源として、見て体験し楽しむものとして、
芸術的な着想の源として。

ネルソン・マンデラ
南アフリカ大統領1994年10月

世界遺産と環境

| | |
|----------------------------|-------|
| 目 的 | P.141 |
| 知 識 | P.141 |
| 心がまえ | P.141 |
| 能 力 | P.141 |
| 若者と世界遺産の保護 | P.142 |
| 生徒の活動29：生態系と地形 | P.143 |
| 世界的な環境保護 | P.143 |
| 生徒の活動30：環境の悪化 | P.146 |
| 世界遺産保護による生物多様性の保全 | P.147 |
| 生徒の活動31：生物多様性に対する圧力 | P.148 |
| 文化の多様性と生物多様性 | P.148 |
| 種の進化と絶滅 | P.149 |
| メイ渓谷自然保護区（セイシェル） | P.150 |
| マナス野生生物保護区（インド） | P.151 |
| テ・ワヒボウナム（ニュージーランド） | P.151 |
| 生徒の活動32：ゴンドワナ大陸のジクソーパズル | P.152 |
| 生徒の活動用シート：ゴンドワナ大陸のジクソーパズル | P.153 |
| 生徒の活動33：世界遺産（自然遺産）と登録基準の対応 | P.155 |
| 生態学的に、文化的に持続可能な開発 | P.155 |
| アルガン礁国立公園（モーリタニア） | P.156 |
| 生徒の活動34：環境保護 | P.157 |
| 生徒の活動35：生態学的に持続可能な開発のための行動 | P.157 |
| 持続可能性に対する地域の支援 | P.158 |
| 生徒の活動36：遺産地域周遊ルート | P.159 |
| 地球の将来 | P.159 |
| カリキュラムを通じて：世界遺産と環境 | P.160 |
| OHPシート：世界遺産と環境 | |

目的



知識

生徒の知識と理解を育める：

- 自然環境と文化的環境、そして人間と環境との相互作用について
- 生物多様性の保全と絶滅の危機に瀕している動植物種の保護にとって不可欠な保護地域としての世界遺産について
- 環境保護のための国際的な共同活動に大きく貢献している世界遺産条約について

心がまえ

生徒の心に働きかける：

- 環境に対するしっかりとした保護倫理と責任感をもつように
- 種と生態系の多様性（生物多様性）が保護され、未来の世代の利用可能性が失われないような、持続可能な方法での生活に取り組むように

能力

生徒の能力を育める：

- 環境保護、とりわけ世界遺産保護への参加
- 地球と人類の将来における健康のための生態学的に持続可能な開発への参加
- 世界遺産保護における統率力の発揮

若者と世界遺産の保護

世界遺産の保護は、環境の保護、文化と自然の多様性の保護、そして、人間と環境との相互作用の保護に大きく貢献します。

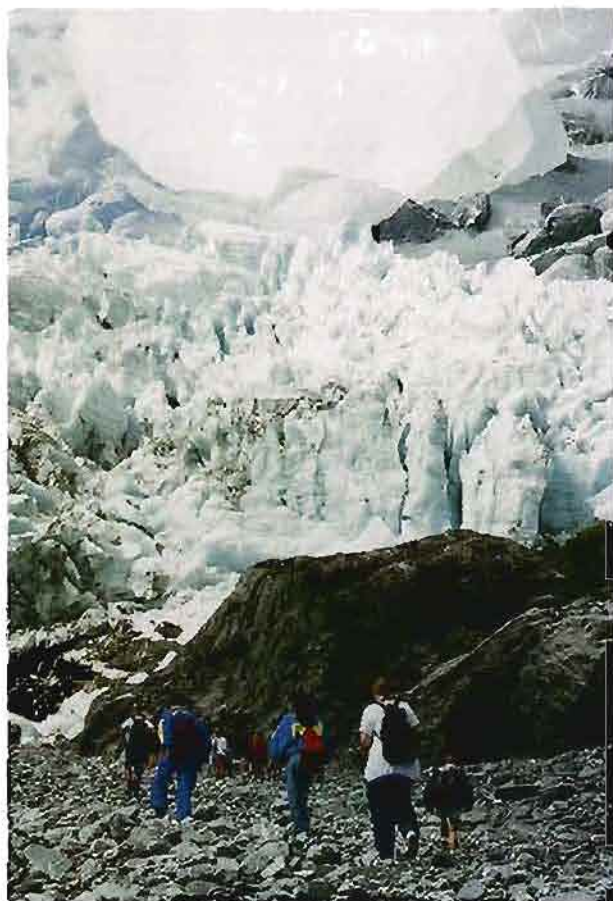
世界遺産の保護は、今日の主要な環境問題、つまり絶滅のおそれのある動植物種や絶滅した動植物種の著しい増加、その結果として生じる生物多様性の減少に対する対策に役立っています。同じく重要なことは、世界遺産の保護が生態学的に持続可能な開発という世界的な取組みの中で行われていることです。たとえば、世界遺産の保護の程度は資源利用や経済的存続を求める地域社会との間でバランスが保たれた状況にあります。また、世界遺産条約は**文化遺産**と**自然遺産**、そしてこれらの2つを兼ね備えた複合遺産を認めています。

これらの理由から、この条約の取組みは、地域の自然的・文化的価値の多様性の保護を包含する環境保護への包括的な取り組みとして他に類をみないものです。

1997年の世界遺産リストに登録されている114の自然遺産は（2000年現在、128地域）、ひときわすぐれた自然美と美的重要性をもった地域や動植物の種、生態系、地質学的に特徴ある地域、生態学的・生物学的過程及び、自然環境を保護しています。これらの地域は現在その存続が懸念され、保護地域として管理されている地球上の地域（陸海）の約10パーセントにあたります。



世界遺産条約



若者が環境保護に効果的に参加をするためには、問題や課題を認識し、それに応じて行動する手段をもつ必要があります。このためには環境保護を目的とした世界遺産条約の重要な役割を知ることが大切です。環境保護における主要な課題のいくつか、そして世界遺産保護におけるそれらの重要性は、この教材で紹介します。

南西ニュージーランドの
テ・フヒボウナムで氷河を探索する
グレイマウスハイスクールの生徒たち
© UNESCO



■生徒の活動29

生態系と地形

目的：様々な生態系と世界遺産（自然遺産）についての認識をより深める



実習



教室での活動



授業時間数：
2時間



地理、科学



世界遺産概説、
概説

✓周辺地域の生態系または地形の主な特質や特徴（湿地帯の沼や湖など）は何ですか。この地域にはどんな種類の動植物が生息・自生していますか（湿地帯の水鳥など）。

✓生徒に概説を調べ、20の世界の自然遺産を選び、次の項目に分類するよう求めます。

- ・森林
- ・海岸
- ・山

✓生徒が見つけたものについて話し合い、この3項目にあてはまる自分達の国にある地域を確認するよう求めます。

✓生徒に世界遺産リストから以下の自然遺産を確認させ、その結果について話し合うよう求めます。

- ・サンゴ礁
- ・森林
- ・島
- ・砂漠
- ・湿地帯

世界的な環境保護

大気・水・土壌の汚染、地球温暖化、オゾンホール、天然資源や非再生資源の減少、種の絶滅、生物多様性の減少といった総合的な環境の悪化に直面し、私たちはすでに生じた損害を修復するため、世界の自然や文化の多様性を保護するため、現在そして未来の世代のために持続可能な開発を確実にを行うため、早急な対策を講じる必要があります。



連絡先

世界遺産、とりわけ自然遺産の保護は私たちの環境の改善と保護に大きく貢献しています。世界遺産条約の他にも、環境保護に関する国際条約が多数存在します。これらの条約に関する詳細な情報、またそれぞれの条約事務局についての情報は、ユネスコ世界遺産センターのウェブサイトから入手できます。

世界遺産条約は1972年9月にスウェーデンのストックホルムで開催された初の国連環境会議から2ヶ月後に署名されました。ストックホルム会議から20年後の1992年6月には各国の指導者がリオデジャネイロ（ブラジル）で開かれた国連環境開発会議で一同に会しました。リオ地球サミットと呼ばれるこの会議は、心配されている自然環境悪化の状況を評価し、その改善対策を講じるために開催されました。ここで地球救済に役立つ一連の提案であるアジェンダ21の採択が決定されました。その第36章には教育と若者の大切な役割が強調されています。

さらに、157カ国と欧州共同体が生物多様性条約に署名しました。これは生物多様性の保全を目的とした具体的な対策を求めるものです。他に2つの国際条約と森林保護に関する声明がリオ地球サミットから生まれました。

気候変動に関する国際連合枠組条約は1994年3月21日に発効し、これまでのところ165カ国が締結しています。これは大気中の温室効果ガスの濃度を安定させ、地球温暖化に対抗することを目的としています。

「深刻な干ばつ又は砂漠化に直面する国（特にアフリカの国）において砂漠化に対処するための国際連合条約」は1996年12月26日に発効しました。この条約は、干ばつや砂漠化により生じる人々の辛苦や生態系への被害の脅威をなくすことを目的としています。

「すべての種類の森林の経営、保全及び持続可能な開発に関する世界的合意のための法的拘束力のない権威ある原則声明」もリオ地球サミットで採択されました。このねらいは、特に森林再生と天然資源の保護による世界の再緑化に向けた努力をすべての国々に奨励することです。

また、1975年には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」が採択されました。ワシントン条約は絶滅のおそれのある動植物の種の国際取引に関する世界的な規制を確立しています。絶滅の危機にさらされている種の場合、ワシントン条約によって野生個体等の商業取引が全面禁止されています。

1971年の「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（ラムサール条約）は、湿地とその資源の保護と賢明な利用のための国際協力の枠組みを規定する政府間条約です。



イシュケウル国立公園
(チュニジア)
©INCAFO

「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に登録指定されている湿地は現在881ヶ所、総面積は16270万ヘクタール以上です。(2000年2月現在1018ヶ所、7301万ヘクタール以上)

以下に示す「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に記載されている15の地域は、世界遺産地域でもあります。

| | |
|---------|------------------------|
| オーストラリア | カカドゥ国立公園 |
| ブルガリア | スレバルナ自然保護区 |
| カナダ | ピースアサバスカ・デルタ |
| | アメリカシロヅル夏期飛来地 |
| | (同地域はワッドバフファロー国立公園の一部) |
| コンゴ共和国 | ヴィルンガ国立公園 |
| フランス | サン・ミシュル山と湾 |
| インド | ケオラデオ国立公園 |
| モーリタニア | アルガン樹国立公園 |
| ニジェール | ニジェールのW国立公園 |
| ルーマニア | ドナウ・デルタ |
| ロシア | セレンガ・デルタ (バイカル湖の一部) |
| セネガル | ジュッジ国立鳥類保護区 |
| スペイン | ドニャーナ国立公園 |
| チュニジア | イシュケウ国立公園 |
| アメリカ合衆国 | エヴァグレース国立公園 |



エジュー・A・OVEDO 写真 © UNESCO



バイカル湖 (ロシア) © UNESCO

さらに、ユネスコの「人間と生物圏計画 (MAB)」は天然資源に係わる開発と環境の対立の問題に取り組んでおり、環境に対する人間の活動の影響、そして結果として生じる変化に対する社会の反応を研究しています。生物圏保護は生物多様性の保全、健全な生態系の保全に役立ち、私たちが伝統的な土地の活用法について学び、持続可能な天然資源管理についての情報を広め、天然資源問題の解決に協力することを支援します。



連絡先



■生徒の活動30

環境の悪化

目的：国内で生じている、あるいは生じる可能性がある環境問題、それらの問題を明かにし、世界の自然遺産との関係を見極める



調査



教室での活動



授業時間数：
3時間



地理、科学



世界遺産地図、
概説



科学書、新聞
の切り抜き
(新聞記事)

✓生徒に自分たちの国または地域における主な環境問題、あるいは生じる可能性がある問題を挙げるように求めます（たとえば、侵食、気候の変化、平均海面の上昇、砂漠化、森林伐採）。彼らにこれらの問題によって脅かされている世界遺産が地元、国に、または地域にあるかどうかをたずねます。

✓自分たちの国または地域では環境問題への取り組み、改善が行われていますか。どのようにですか。地元の活動、または国際的活動によってですか。

✓生徒に1週間分の環境問題に関する新聞記事を収集し、収集結果を教室で分析するよう求めます。

地球環境への悪影響の兆候

▶ 世界中の鳥類の2/3以上の種が
個体数の減少や絶滅の危機に直面しています。



▶ この200年間で、世界中の鳥類の1/4にあたる種、特に海洋島の鳥が絶滅しています。



▶ 理由ははっきりしませんが
カエルの数が減少している
ようです。

▶ サンゴ礁の面積が
減少しているようです。

世界遺産保護による生物多様性の保全

生物多様性、つまり生物学上の多様性とは、ありとあらゆるすべての生物形態を表すために使用される用語であり、多種多様な植物、動物、微生物、それらの遺伝子、そしてそれらが一部となっている生態系が含まれます。

地球における生物多様性の保全は、地球上のあらゆる生命の保護に係わるために膨大な業務です。これには水中、海中、温帯の環境保護と微生物の保護が含まれます。

世界遺産の保護は、地球の生物多様性保全を目的とした地球規模の取組みの中で重要な構成要素であり、国際的な共同活動に大きく依存しています。

コンゴ民主共和国のオカピ野生動物保護区は世界遺産リストに登録されました。これは生物学上の観点から見て、顕著で普遍的な価値をもつ、絶滅のおそれのある種を含む、野生状態における生物多様性の保全にとって、最も重要な自然の生息・生育地を含む（自然遺産の登録基準iv）ためです。この保護区には絶滅の危機に直面している霊長類および鳥類の種と、世界中で3万頭が生息していると推定されているオカピ約5000頭が生息しています。

オカピ野生動物保護区
(コンゴ共和国)
© IUCN/J. Thorseff



生態系の保護は、世界遺産保護の重要な構成要素でもあります。たとえば、1996年

の世界遺産リストに記載されているベリーズ・バリア・リーフ保護区は、総面積が93,400ヘクタールで、沖合いの環礁、砂洲、マングローブの林、潟、そして入り江から成るすぐれた自然の生態系が保護されています。その他にも広大な世界遺産では、森林生態系（スリランカのシンハラジャ森林保護区など）や湿地（スペインのドニャーナ国立公園など）が保護されています。

生物多様性、とりわけ存続の危機にさらされている生態系（島や湿地）の損失は通常取り返しがつかないため、生物多様性への

の影響と種の減少を心配する声は十分に根拠のあるものといえます。一般的には生態系、野生の植物群落や動物群集、そして景観全体を長期的に確実に保護することがより有効です。



■生徒の活動31

生物多様性に対する圧力

目的：考えられる生物多様性に対する脅威を確認する



調査



教室での活動



課外活動



授業時間数：科学、
4時間および生物学
野外調査旅行



メモ帳、
鉛筆、
双眼鏡、
カメラ

✓生徒に以下のような生物学多様性に対する圧力が自分達の周囲で見られるかをたずねます。

- ・生息環境の改変（農業のための自生（在来）植物の刈取りなど）
- ・移入種（自生（在来）種の動植物を捕食し、生息地をめぐって自生種（在来種）と競合する）
- ・公害：大気、水、土壌、騒音
- ・採鉱
- ・その他

✓生徒に自分達の地域で自生（在来）の鳥、動物、植物の数が減少しているかどうかをたずねます。

✓生物多様性の減少を抑えるために行われている保全措置とはなんでしょう？

✓地元の生物多様性を調査するために、地元の公園、森林、または鳥類保護区への野外調査旅行を計画、指導します（動植物種数の一斉調査）。生徒がそれぞれの調査結果を発表できる機会を持たせるために授業参観を行います。親には、若い頃と比較して地元の生物多様性に変化が見られるかをたずねます。

▲文化の多様性と生物多様性

世界遺産（文化遺産と自然遺産）は、文化の多様性と生物多様性の両方を現していることが少なくありません。

文化の多様性と生物多様性は、たとえ一方が豊かな場合であっても、ともに保護する必要がある。つまり、自分達の資源について、そしてその資源をどのように管理すべきかについて地元の人々が持つ知識は、全人類にとって欠くことのできない資源となるものだ。

ジェフリー・A・マクニリー、IUCN、自然と資源、Vol.28、No.3、1992年

▲種の進化と絶滅

種の進化とは、絶え間ない自然の過程です。新しい種は遺伝子の変化によって生み出され、生物多様性へとつながります。

世界遺産保護の目的の一つは、種の進化の記録がみられる自然地域を保護することです。世界遺産リストに登録する自然遺産の選択基準となっている4つの基準の一つである自然遺産の登録基準 (i) は以下のとおりです。

「生命進化の記録、地形形成における重要な進行しつつある地質学的過程、あるいは重要な地形学的、あるいは自然地理学的特徴を含む、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な例であること。」

自然遺産の登録基準 (i) に基づき世界遺産リストに登録されている地域例としては、ドイツのメッセル・ピットの化石遺跡が挙げられます。このメッセル・ピットには特に紀元前5700万年から3500万年前の始新世時代の化石が豊富です。哺乳動物の進化の初期段階に関する類まれな情報を提供しています。

オーストラリアの哺乳類化石地帯（リバスレー／ナラコーアト）では、オーストラリア固有の動物相（たとえばフクロモグラ、ニセフクロモンガ、ならびにフクロライオンのように今では絶滅した多くのオーストラリア固有の哺乳類）の進化の各段階が徹底的に保護されています。この地域は自然遺産の登録基準 (i) と登録基準 (ii) に基づいて世界遺産リストに登録されています。



149

新種の発見： ウォレミ松、恐竜の時代の名残（遺存種）

1994年12月、オーストラリアのシドニー付近で新種の樹木が発見された。ウォレミ松は高さ36メートルまで成長している。この幹の部分は、直径が約1メートルある。新種の樹木の発見は、特にこのように印象的な高さまで成長している樹木に関してはきわめて珍しい。ウォレミ松の生息地である、片側が急な坂になっている峡谷はシドニーの北西部周辺の高涼を頻りに焼き尽くす火事からこの松を守り、その存続に貢献してきた。この新種の発見は、我々の生物学的遺産はまだ未確認のままであることを実証している。

オーストラリアの環境状況（1996年版経歴）、オーストラリア

オーストラリアの
哺乳類化石地帯
（リバスレー／ナラコーアト）
© UNESCO

新しい環境条件（雨量や気温の変化など）への適応力が劣る特定の動植物の種が生殖・生存競争に敗れる傾向があり、生物多様性が失われます。そしてこれらの種は絶滅していきます。化石の記録はほとんどの動植物の種がいつかは絶滅することを示しています。しかし、今日、種の絶滅は新種の出現よりも急速に進んでいると一般的に考えられています。これは、回復できない地球全体の変化を表しています。

現在

鳥類の11%
哺乳類の11%が
魚類の5%
植物の8%

絶滅の危機に
直面しています。

- ・膨大な数の哺乳類が狩猟によって減少しています。
- ・漁獲と捕鯨を原因とする海洋生物の減少が深刻です。

絶滅の危機に直面している動植物の種を絶滅から確実に保護するために多くの世界遺産地域が登録されています。

▲メイ渓谷自然保護区（セイシェル）



セイシエルのブララン島の中心部にあるメイ渓谷自然保護区は1983年に世界遺産リストに登録されました。この渓谷にはほとんど原生の姿のままであるヤシの森林が残されています。ここには重さが20キログラムにもなる世界最大の実をつけるヤシが生育しています。昔、この島全体が様々な種類の実をつける各種のヤシで覆われていましたが、過度の開発のために、豊かな生物多様性がみられたヤシの森林地帯が小さな谷にまで縮小されてしまいました。この渓谷とその貴重なヤシの森林は、外部から持ち込まれた外来種によって、ヤシの実の乱伐によって、そして火災によって絶滅の危機に直面しています。

メイ渓谷自然保護区
（セイシェル）
© National Geographic
Society/TK Cartinger

▲マナス野生生物保護区（インド）

マナス野生生物保護区は、森林に覆われた丘陵が沖積草原と熱帯森林に変わるヒマラヤ山脈の丘陵地帯に位置し、絶滅のおそれのある動物種が多く生息しています。1985年に世界遺産リストに登録され、1992年に危機にさらされている世界遺産リストにも登録されたマナスには絶滅のおそれのあるトラ、ピグミー豚、インドサイ、ゾウが生息しています。これらの動物の生存を脅かすのは主に密猟です。1997年の報告によると、近年22頭のサイが殺され、サイの全個体数は今やわずか10頭から15頭ということです。



世界遺産地図

テ・ワヒボウナム（ニュージーランド）

テ・ワヒボウナムはニュージーランドの南島に位置します。テ・ワヒボウナム（約260万ヘクタール、ニュージーランドの国土面積の10%）は主に湿地、巨大な高くそびえる山々、または海岸の険しい絶壁からなります。この地域は、谷、峡谷、フィヨルドを造り出した巨大な氷河の明確な痕跡、そして氷河期の広大な景観を物語っています。ニュージーランドの遠隔性がその大半の動植物や鳥の種を特殊なものにしています。多くの鳥が飛べなくなり、樹木と植物は驚くべき方法で降雨に適応しています。たとえば、巨大なカヒカテア（ストローブマツ）の木は最大30メートルの高さまで成長しています。このような森林は約8500万年前の恐竜時代と全く同じ姿であるために「恐竜の森」として知られています。

しかしながら、ヨーロッパからの開拓移民の功績とともに、多くの肉食動物や有害生物が持ち込まれ地域の動植物相が危機にさらされるようになり、いくつかのケースでは絶滅に至っています。



孤立化と地質学的・気候的変化の結果、ニュージーランドの動植物の種は他のどこでもみられない進化を遂げました。しかしながら不幸なことに、ニュージーランドの環境や、動植物を特殊なものにしたのと同じ力がそれらに影響を受けやすい脆弱なものにしました。1000年ほど前にニュージーランドへ最初に渡ったポリネシア人は、生物の種とその生息地の大規模な破壊を開始しました。ヨーロッパ人がニュージーランドに渡り、植民地化した時には、ニュージーランドは森林の23%、そして鳥類の30%を失っていました。特にモア（巨大な飛べない鳥）の絶滅は有名です。移民と肉食動物が増えたことによって、絶滅したと推定される44種の他に、現在、503種のニュージーランドの動植物が絶滅の危機に直面しています。

資料提供：グレイマクス高校（ニュージーランド）

■生徒の活動32



ゴンドワナ大陸のジグソーパズル

目的：大陸の形成について、そして自然遺産の保護に
孤立化がどのように役立つのかについて学ぶ



実習



教室での活動



授業時間外：
2時間



地理、歴史、
科学



世界遺産地区
生徒の活動用
シート
「ゴンドワナ
大陸のジグソ
ーパズル」



はさみ、のり、
世界地図

✓生徒に昔のゴンドワナ大陸について話します。

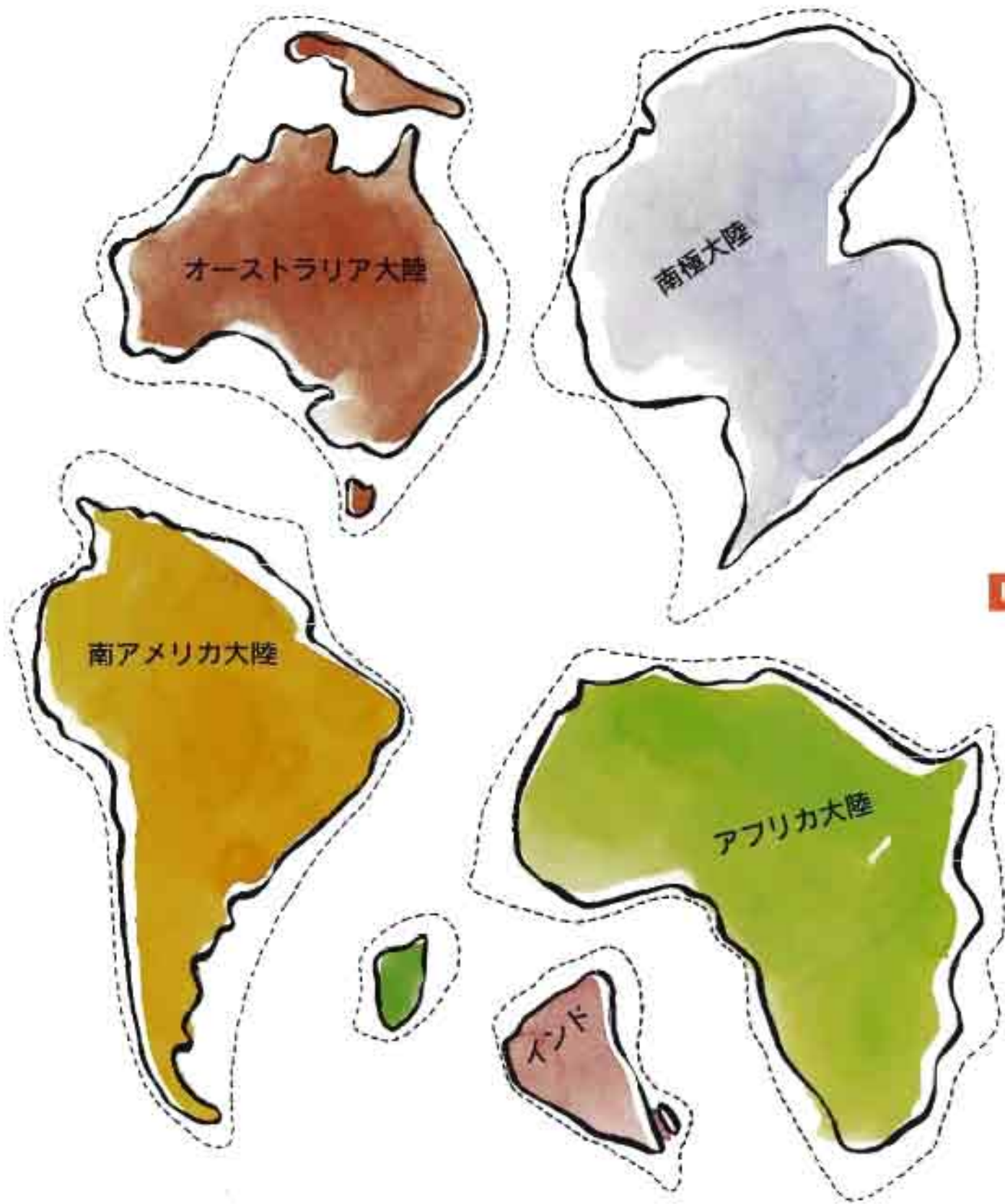
岩の種類と化石の物理的な痕跡から判断して、科学者達はニュージーランドがかつてのゴンドワナ超大陸の一部であったと信じています。この大陸にはオーストラリア、アフリカ、南アメリカ、インド、南極大陸なども含まれていました。ニュージーランドは、およそ8000万年前の南極大陸とオーストラリアからの分裂以降ずっと孤立しているため、ゴンドワナ大陸についての世界で最も重要な手がかりといえるでしょう。この国は1600キロメートルの海岸線で囲まれ、ここに人がはじめて渡ったのはたった1000年前です。ニュージーランド固有の植物相は、何百万年もの間、手つかずのままです。現在でもニュージーランドは地球上で最も孤立した場所の一つです。

✓生徒をグループに分けます。各グループに生徒の活動用シートのコピーを渡します。生徒に破線に沿って切り取り、これをゴンドワナ大陸上に載せ、貼り付けるように求めます。ニュージーランドはゴンドワナ大陸の分裂によってどのように他から孤立し、動植物相が保護されたのかを話し合います。

✓ゴンドワナ大陸を現在の大陸と比較します。

資料提供 グレイマウス高校 (ニュージーランド)







154



■生徒の活動33

世界遺産（自然遺産）と登録基準との対応

目的：世界遺産（自然遺産）を選定するための登録基準に対する理解を深める



調査



教室での活動



授業時間数：3時間



自然科学、美術



写真、地図、世界遺産地図

✓概観を使って世界各地の25の自然遺産を選択します（記述された登録基準を省いて関連ページのコピーを作成する、または手書きで複写する）。

✓生徒を5つのグループに分け、各グループに選択した5つの地域の説明を渡します。これに対して、生徒はこの地域が世界遺産地図のどこに位置し、この地域が世界遺産リストに登録された基準となったものを示さなければなりません。各グループに生徒を1人選ばせ、グループの判断を教室で発表させます。彼らの回答を、概観に記載されている、実際に使用された基準と比較します。

✓世界遺産リストへ追加する世界遺産（自然遺産）を選定するために使用された4つの登録基準を覚えておいて、生徒に各登録基準を満たす地元、国、または地域の遺産をリストにして提出するよう求めます。リストの遺産のいずれかが世界遺産地図にあるかどうかを生徒に確認するように求め、それによって話し合います。生徒がリストにした遺産の保護を求める標語を載せたポスターを作成するよう求めます。

生態学的に、文化的に持続可能な開発

開発は、将来の世代の可能性を損なうことなく、

現在の世代の要求（ニーズ）を満たすための持続可能なものでなければならない。

開発と持続可能な開発、パリ、ユネスコ、1987年

人類と環境との調のバランスを保つ必要性は、世界遺産条約に示されています。文化遺産と自然遺産の両方を考慮した世界遺産の定義は、国際社会に人間と自然環境との相互作用を思い起こさせます。これは生態学的に持続可能な開発における基本です。

開発の過程において自然のための余地を必ず残しておかなければならない。それは精神的な豊かさであり、極めて現実的な意味では我々の生存基盤でもあるのだ
ジェフリー・A・マクニーリー、IUCN、自然と資源、Vol. 28, No.3, 1992年

現在行われている開発と人口増加が及ぼす環境への脅威（農業のための森林伐採、漁業における乱獲、公害など）は、世界の生物や文化の多様性を保全するために管理されなければなりません。保護と資源利用（農業、採鉱、林業など）は、共存できないものとして考えがちです。このため、資源利用は世界遺産などの保護区において禁止されていることが少なくありません。しかしながら、注意深く管理される場合には、文化遺産や自然遺産の保護と利用の制限とのバランスを保つ方法がより有効です。持続可能な利用や他の経済活動の機会を与えることによって、地域住民は保護活動に興味を持つからです。

▲アルガン礁国立公園（モーリタニア）

西アフリカのこの国立公園は何百万羽もの鳥の生息地です。大西洋の海岸をふちどるこの国立公園は、砂丘、海岸湿地、小島および浅瀬から成り、陸と海の景観の特異な対比と高い生物多様性が特徴です。この国立公園は数多くの種類の渡り鳥と数種のウミガメやイルカの生息地となっています。

アルガン礁国立公園は地域経済にとって極めて重要な地域です。7つの漁村がこの豊富な天然資源に頼っているほか、生態系に配慮した観光事業の基盤を提供しています。地元の人々が用いている伝統的な漁法とは、国立公園内の天然資源への影響の少ない方法です。しかしながら、モーターボートが導入されるならば、そして漁獲量が増加するならば、この地域の鳥類の生存に重大な悪影響が生じることでしょう。

アルガン礁国立公園
（モーリタニア）
© UNESCO/IUCN/J. Thorsell



■生徒の活動34

環境保護

目的：世界遺産（自然遺産）における十分な管理が重要であることを理解する



ロールプレイ



環境保護



授業時間数：
数時間



歴史、科学、
地理学、
生物学



世界遺産地図、
解説

✓生徒にモーリタニアのアルガン礁国立公園の状況を説明し、架空の世界遺産における以下のシナリオでのロールプレイを計画します。様々な利害関係を代表するグループに生徒を分けます。

✓実業家は漁業の開発を望み、彼らは自分たちのプロジェクトに投資する海外投資家を見つけました。しかしながら、国立公園の管理者と地域の環境保護論者は漁業拡大が野鳥の生息に悪影響を及ぼすのではないかと心配しています。行政当局は地域住民の総収入を増やすことを熱望していますが、バランスが保たれている現状の生態系を乱したくありません。だれもが満足するにはどのような結論を下すことができるでしょうか。

■生徒の活動35

生態学的に持続可能な開発のための行動

目的：生徒にゴミについての意識を持たせる



実習



教室での活動
または
課外活動



授業時間数：
2、3時間と学
校時間外の数
週間



美術、科学



ビン、紙、アルミ缶やスチール缶、紙、プラスチックなどのリサイクル可能なものを保
ール缶、牛乳パックなどの資源

✓公害には浪費と廃棄が係わることがよくあります。再生と共に資源の節度ある持続可能な利用がこの解決策となります。だれもが資源の再生と最適利用に十分貢献できる方法を至急考えなければなりません。環境保護論者に教室で資源について話すよう依頼します。生徒に学校と社会（生徒の親を含む）のためにリサイクルキャンペーン（紙、アルミ缶／スチール缶、ビンなど）を準備するよう求めます。リサイクルとして集めるべきものは何かを決定します。美術の授業でキャンペーン用のポスターを作成させます。生徒とリサイクルキャンペーンの結果を評価します。

✓世界遺産保護と持続可能性について話し合います。資源を再生・再利用し、ゴミにしないことがなぜ重要なのでしょうか？

✓ゴミを拾い、それを処分するかまたは賢明に再生することによって、自分達の周辺地域や遺産地域の清掃に従事するよう生徒に勧めます。

▲持続可能性に対する地域の支援

世界遺産地域のような保護地域を人々が持続可能な方法で利用することができれば、保護に対する地域の支援を増やすことができるはずです。保護区内やその周辺地域では、保護事業と開発事業がますます組み合わされるようになり、それが支持されてきています。

保護事業の企画や実施に対する地域の参加は、これらの事業が実際に持続可能な利用の機会を与える場台には、極めて重要です。

都市であろうが、自然公園であろうが、地域の「保護者」である地域住民の意思と積極的な参加がなければ、いかなる努力も長期的な保護にはつながらないであろう。よって、保護のための政策と活動は、国や地域の社会経済活動に統合されるものであり、かつ、それらと調和するものでなければならない。

ヘルムト・フォン・ドロステ、ユネスコ世界遺産センター所長、
世界遺産、No.3、1993年11月



■生徒の活動36

遺産地域周遊ルート

目的：大胆かつ創造的で、環境をより意識するようになる機会を生徒に与える。



実習



教室での活動



課外活動



授業時間数：
数時間と
校外時間



社会、科学、
生物学



地理

✓生徒は冒険と探検が好きなので、彼らに特別な遺産地域周遊ルートをつくることを勧めます。自然遺産周遊ルート、文化遺産周遊ルート、都市遺産周遊ルート、花鑑賞ルート、写真撮影ルート、ビデオ撮影ルートなど、どんな種類のルートにすべきか生徒と考えます。遺産地域周遊ルートのテーマを決定したら、教室に地図を持ち込み、これらを生徒と一緒に確認します。生徒に自分の周遊ルートを計画させ、自由時間中にその作成状況を調べます。周遊ルートができたなら、ルートの特徴がわかるような小冊子を準備するように生徒に求めます。

ヘッドスマッシュトイン・
バッファロー・ジャンプの
遺産地域周遊ルート
(カナダ)
© S. Tizher



✓周遊ルートハイキングを計画します（学校行事と重ならないようおそらく週末）。周遊ルートを利用して、知覚能力を高めます（嗅覚、聴覚、視覚など）

✓できあがった周遊ルートと生徒が受けた影響を踏まえて、生徒が他の人に参加を勧めるであろうそのほかの周遊ルートハイキングを想定します（学校の他のクラスの生徒、地元の他の学校の生徒、親、地域の人々）。

地球の将来

リオ地球サミットから5年後、私たちの惑星の保全状況に関する国際社会の総合的な展望は、1992年当時のものよりさほど好転していません。

先進諸国では、天然資源の利用にはっきりとした違い（エネルギー、水、陸の利用改善）がみられ、大気、水、土壌の汚染も改善された。ただし、開発途上国では、いまだにかなりの公害が確認される。開発途上国は自分達の問題が深刻であること、そして経済的・社会的発展を環境保護と切り離す方法がないことを認識していることが好ましい成果といえる。

モスタファ・トルバ、持続可能な開発委員会議長、
ユネスコ資料、No.02、1997年7月

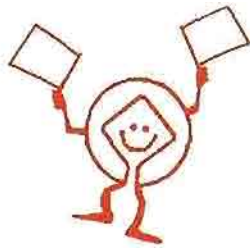
1992年のリオ地球サミット以来、合わせて149の自然遺産と文化遺産が世界遺産リストに追加され、このうち自然遺産は28を数えます（2000年1月現在、世界遺産は630地域、うち自然遺産は128地域）。これは、地域地球と環境の保全に大きく貢献していることを表しています。

世界遺産リストに登録された遺産



世界遺産地域は国際的に“顕著で普遍的な価値を持つ”として
認識されているため、効果的な管理の手本となるべきである。

ベルント・フォン・ドロステ（ユネスコ世界遺産センター）及び
ジェフリー・A・マクニーリー（国際自然保護連合（IUCN）、20年間の世界遺産、IUCN、1992年）



カリキュラムを通じて： 世界遺産と環境

美術

生徒の人気の高い世界遺産（自然遺産）を選び、生徒たちにスケッチをさせたり、絵を描かせます。

生物学

自国にある世界遺産（自然遺産）を選び、その植物、樹木、動物などのリストを作成させます。

地元の植物、樹木、動物のリストと比較します。

現地で生徒と一緒に植物、動物、地質学的特徴の調査を行います。

外国語

海外の学校との連携関係を確立し、（協同学校プロジェクトネットワークを通すのが望ましい）一般に懸念される環境問題とその世界遺産保護への影響に関する意見を交換し合います。

歴史

自然遺産を選び、生徒にその過去と現在の地形や、保護に対する将来の脅威を検討するように求めます。

地理

氷河を含む地域など、世界遺産（自然遺産）（「概説」ロス・グラシアレス（アルゼンチン）を参照のこと）を選び、地球温暖化の影響を話し合います。

検討対象とする地理学的特徴を有する地域、または化石地域を選びます。

語学

公害によって悪影響を受けているか、受ける可能性があるかと生徒が感じる世界遺産地域を選び、公害をなくしたり、減らすための広報活動や保護対策を開始したり、強化するための広報活動を計画します。

数学

地元において数が減少したり、絶滅のおそれがある種（植物、樹木、鳥、哺乳動物、魚）の調査を行い、その割合を計算します。

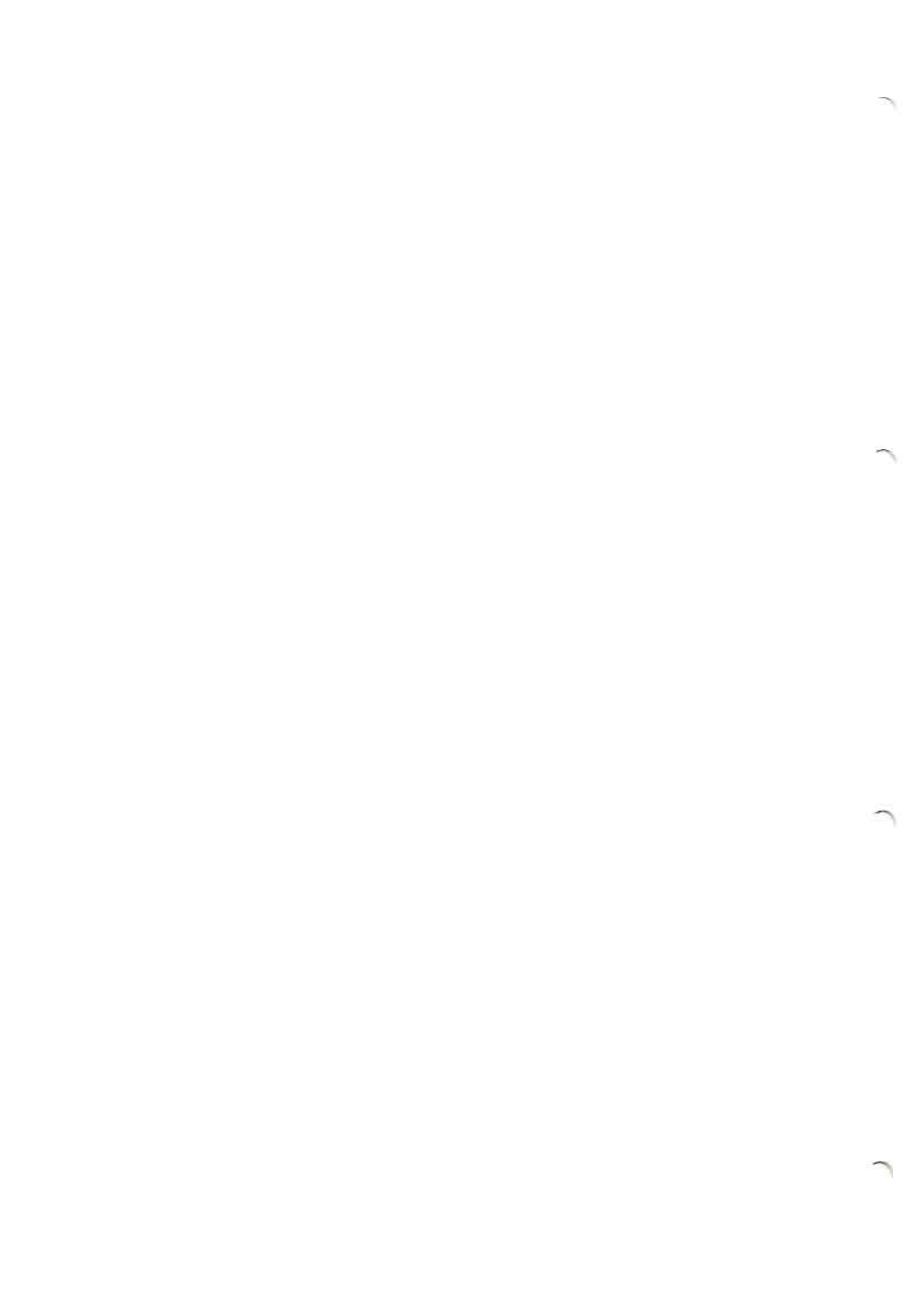
科学

地元の湖または川から水を採取し、公害の兆候があるかチェックします。

大気汚染について建物の外壁を調べます。

遺産地域を保護するために人間の行動をどのように変えることができるかを話し合います。







世界遺產之環境

世界遺産と 平和の文化



ワウシュワ遺跡地区 (01-2521) © UNESCO

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを
築かなければならない。

ユネスコ憲章前文

世界遺産と
平和の文化

世界遺産と平和の文化

| | |
|--------------------------------|-------|
| 目 的 | P.161 |
| 知 識 | P.161 |
| 心がまえ | P.161 |
| 能 力 | P.161 |
| 世界遺産と平和の文化 | P.162 |
| 生徒の活動37：平和と世界遺産を定義する | P.163 |
| 平和を象徴する遺産 | P.163 |
| 生徒の活動38：世界遺産と自分たちの地域における平和 | P.166 |
| 世界遺産を戦争から守る | P.166 |
| 生徒の活動39：戦争の被害を受けた遺産の修復 | P.167 |
| ハーグ条約による文化遺産の保護 | P.167 |
| 生徒の活動40：戦時における文化遺産・自然遺産の保護 | P.169 |
| 戦時における自然遺産の保護 | P.169 |
| 世界遺産と人権 | P.170 |
| 生徒の活動41：偏見—平和を脅かすもの | P.171 |
| 生徒の活動42：世界遺産と平和のクロスワードパズルを作る | P.172 |
| 生徒の活動用シート：世界遺産と平和のクロスワードパズルを作る | P.173 |
| カリキュラムを通じて：世界遺産と平和の文化 | P.174 |
| OHPシート：世界遺産と平和の文化 | |

目的



知識

生徒の知識と理解を育てる：

- 平和、人権、民主主義の証人としての世界遺産
- ユネスコと世界遺産条約が伝える倫理観
- 人種差別撲滅、寛容、すべての国の人々とその文化への敬意

心がまえ

生徒の心に働きかける：

- 人とその文化を尊重するように、
生きていく上で紛争を平和的に解決するように動機づける
- 世界遺産保護のために、団結の精神で協力する

能力

生徒の能力を育てる：

- グループとして協力する（チームワーク）能力
- 自分たちの紛争を平和的に解決し、
他の人も同じようにできるよう手助けする能力
- 政治や市民生活に民主的に参加する能力
- ユネスコ世界遺産保護活動に協力する能力

世界遺産と平和の文化

平和を維持するためには、国と国の間だけでなく個人と個人の間、社会集団の間、国と国民の間、人間と環境の関係が非暴力的でなければなりません。世界遺産リストに登録された文化遺産および自然遺産について学習することは、私たちが平和のさまざまな側面を理解する手助けとなります。それは世界遺産が、自然と人間が作り上げた創造物の偉大さに私たちの心に向けてくれるからです。世界遺産の多くは、自由、正義、相互の理解と尊敬、愛と友情など人類永遠の願いを表わしています。これらの願いは、基本的人権を構成するものであり、個人、社会、世界全体の平和と発展に欠かせない要素です。

平和

1. (a) 戦争または敵対状態からの解放または停止
国家または共同体が戦争をしていない状態
- (b) かつて戦争をしていた国家間の平和条約の締結
2. 騒乱および無秩序からの解放、公共の秩序と安全
3. 動乱または混乱状況からの解放

(オックスフォード小辞典)

世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約と世界遺産基金は、世界中の極めて重要な場所を守るため、国際社会が団結することを基礎にしています。

162



世界遺産条約

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終りを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならない神聖な義務である。

よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

ユネスコ憲章前文

平和の文化を推進する運動は、多くの流れが集まって一本の川になるように、あらゆる伝統、文化、言語、宗教、政治的信条が力の源泉となる。平和の文化が目指すものは、文化間の理解、寛容、団結という環境の中で多くの文化が共存する世界である。

フィリピンユネスコ国内委員会、国内協同学校プロジェクトコーディネーター、
レネ・C.ロメロ

■生徒の活動37

平和と世界遺産を定義する

目的：平和と世界遺産の間の関係への理解を深める



討 議



教室での活動



授業時間数：
1時間



歴史、公民、
国語



世界遺産条約、
世界遺産地図、
地図



辞 典

✓黒板に「平和」という言葉を書き（あるいは口頭で言い）、生徒に「平和」という言葉から連想される言葉をできるだけたくさん挙げさせます。それから各生徒に自分の書いたリストを読み上げさせます。読み上げる時に、黒板に新しく出た言葉を書き、既出のものには印をつけます。最後には、「平和」という言葉から最もよく連想される言葉が何か分かります。

✓まず生徒たちに世界遺産地図を見て、平和・調和・安定などの言葉を連想させる地域あるいは国防・戦争を連想させる言葉と結びついた地域（たとえば平和記念・城塞・要塞など）を選び、同じ実習を、「世界遺産」についても行います。この意に記述のある平和に関連する遺産地域のうち、一カ所又は数カ所の遺産を選び、その遺産地域についての情報や平和に関する歴史の中で果たした役割を（たとえば図書館の百科事典やインターネットを利用して）付け加えます。

平和を象徴する遺産

平和・人権という基本的価値を表現する世界遺産の多くは、国際協力によって保存されてきました。そのいくつかは特にこの特質を色濃く反映しています。カナダとアメリカ合衆国の国境近くにあるウオータートン＝グレンシア国際平和公園は、名称の中に「平和」をはっきりうたっています。1995年に世界遺産に登録されたこの平和公園には、カナダのアルバータ州にあるウオータートン＝レイク国立公園とアメリカ合衆国モンタナ州のグレンシア国立公園が含まれます。このふたつの国立公園は、多種多様な動植物と様々な特徴のある高山・氷河地形を有し、訪れる人を雄大な景観で迎えます。

ウオータートン＝グレンシア
国際平和公園
カナダ・アメリカ合衆国
UNESCO



一方1996年に遺産登録された広島平和記念公園（原爆ドーム）は、人類がつくり出した最も破壊的な兵器が実際に使われた後、50年以上にわたって世界平和が達成されてきたという事実の厳正にして力強い象徴です。

原爆ドームの重要性はその存在自体にあります。静かにたたずむその姿は、一方で人類の破壊行為の究極を象徴し、同時に1945年8月の原爆投下によってもたらされた世界平和が永遠に続くようにとの希望を表わします。1945年8月6日、広島に最初の原爆が投下され、14万人の命を奪った時、この建物は骨組みを残すだけでしたが、それでも爆心地近くで完全な破壊を免れた唯一の建物として立っていたのでした。広島市の再建開始後もその姿のまま残され、やがて「原爆ドーム」の名で知られることになりました。1966年、広島市議会は原爆ドームの永久保存を決議しました。原爆ドームがある平和記念公園は、1950年から1964年にかけて建設されました。1952年以後、平和記念公園は毎年8月6日に行われる広島平和祈念式典の会場となってきました。

国際記念物遺跡会議 (ICOMOS)

広島平和記念「原爆ドーム」
(日本)：
平和のための力強い象徴
© UNESCO



旧ユーゴスラビアの分裂にともなう戦争は、クロアチアのドゥブロヴニク旧市街が自由と平和の象徴であることを再認識させました。ダルマティア海岸沿いの美しい古都ドゥブロヴニクは、古くから「アドリア海の真珠」と呼ばれ、何百年も市の旗には、リベルタス（自由）の文字が掲げられてきました。ドゥブロヴニクは13世紀には地中海の重要な海洋国家となり、強力な海軍とヨーロッパ全土に張り巡らせた外交と通商のネットワークを誇っていました。1667年の地震で大きな被害を受けたものの、ドゥブロヴニクは、ゴシック、ルネッサンス、バロック様式の美しい教会、僧院、王宮、噴水、さらに旧市街をほぼ完全に取り囲む長い城壁を何とか守り抜きました。海からの攻撃を防ぎ何世紀にもわたってドゥブロヴニクを守ってきたこの城壁も、二、三年前にこの都市を襲った近代兵器による砲撃には無力でした。1991年ユネスコの「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録されたドゥブロヴニクは、ユネスコの支援により、破壊された建物を修復して国際協力の象徴となり、さらに自由・平和の永遠の象徴となりました。



世界遺産条約

ドゥブロヴニク旧市街
(クロアチア)
© UNESCO/NICN/Thornell



1991年の
ドゥブロヴニクの破壊
© UNESCO/D. Lefevre



■生徒の活動38

世界遺産と自分たちの地域における平和

目的：平和を象徴する遺産について考察する



調査



教室での活動
および課外
活動



授業時間数：
1時間



歴史、地理、
美術



世界遺産地図、
概説



自国の歴史書

✓平和条約の締結が行われ、あるいは歴史上の大きな出来事（主要な戦いや重要な宣言など）に関連して象徴的な価値を有している文化遺産や自然遺産（なるべく世界遺産地域）を生徒に確認させます。

✓これらの遺産について生徒が発見した情報を教室に持って来させ、これらの遺産からのメッセージであると思うことを、創造的な方法（作文、デッサン、スケッチ）で表現させます。

世界遺産を戦争から守る

166



世界遺産と
アイデンティティー
（私たちの同一性・存在）

大きな戦争が起こると、文化遺産や自然遺産が被害を受けます。民族の存在の象徴であるがゆえに特定の文化遺産が集中攻撃の対象となることもあります。自然遺産（特に動植物）も爆撃、国立公園内の保護区を通過する軍用車、火災、密猟、住民の大規模強制移住など、さまざまな形で危機にさらされます。大切な観光収入源となっている文化遺産、自然遺産が、戦時には意図的に集中攻撃を受ける事例も多くなりました。



世界遺産と観光

戦火のただ中で文化遺産や自然遺産を保護するのは賢沢と思えるかもしれませんが、確かに一見するとそういう面もありますが、これまでの経験から人類の文化遺産や自然遺産を救うのは極めて重要なことなのです。攻撃対象となる遺産の全体または一部が国立図書館、教会、博物館・美術館、大学、何世紀も前の建築群などの場合は特にそうです。

ここで思い浮かぶ例は、18世紀に建設されたポーランド、ワルシャワ歴史地区の再建です。この遺産は1980年に世界遺産リストに登録されました。1944年8月、第二次世界大戦のさなかに市街地の85%以上がナチスドイツ占領軍により破壊されました。戦後、ワルシャワ市民の再建5か年計画により丹念な修復活動が行われ、教会、王宮、市場などが今日の姿に再現されました。この活動は、13世紀から20世紀という歴史の流れを完全に修復した願い希な実例であり、人々の誇りと独自性の現れです。



世界遺産と
アイデンティティー
（私たちの同一性・存在）

ドゥブロヴニク青少年アピール：

戦争は私たちの遺産を破壊する。
問題の平和的解決にさらなる努力と行動を。



■生徒の活動39

戦争の被害を受けた遺産の修復

目的：世界遺産の修復について学ぶ



調査



教室での活動



課外活動



授業時間数：
1～2時間



歴史



郷土史の本、
郷土文学、
個人の
インタビュー

✓生徒たちに、祖父母や親戚や近所のお年寄りに、次のようなインタビューをさせます。

- ・人生でこれまで経験したり、知っていたりする戦争や紛争があったとしたら、自国で著しい被害を受けた大切な文化施設や建築物、自然遺産を覚えていませんか？
- ・それは復元されましたか？復元についてどう思いますか？
- ・復元されたものの中に、世界遺産もありますか？

✓生徒にインタビューをまとめさせ、教室でそのまとめに基づいて話し合います。

▲ハーグ条約による文化遺産の保護

第二次世界大戦中、人類の文化遺産の大規模破壊を目の当たりにした国際社会は、1954年オランダのハーグで「武力紛争の際の文化財の保護のための条約」を採択しました。ハーグ条約には、文化財の起源や所有者にかかわらず、諸国民の文化遺産にとって重要な意味を持つ可動・非可動の重要な文化財を保護することが規定されています。



世界遺産条約

1954年ハーグ条約前文

締約国は、

文化財が最近の武力紛争の間に重大な被害を被っていること及び交戦技術の発達のため文化財の破壊の危険が増大していることを認識し、

各国民が世界の文化に貢献しているのであるから、いかなる国民に属する文化財に対する損害も全人類の文化的遺産に対する損害を意味するものであることを確信し、

文化的遺産の保存が世界のすべての国民にとって多大の重要性を有すること及びこの遺産に国際的保護を与えることが重要であることを考慮し、

このような保護が、平和時にその組織化のための国内的及び国際的措置が執られていない限り、効果的でありえないと認め、

文化財を保護するため可能なすべての措置を執ることを決意し、

次の条項を決定した。

ハーグ条約の締約国になると、自国内にある該当する文化財を保護するため、必要な保護手段をすべて実施する責任が生じます。簡単にいうと次のことを実行します。

- ・ 武力紛争が文化遺産に及ぼす影響を軽減し、戦時だけでなく平時においても予防的保護措置を講じる。
- ・ 遺産保護の制度を創設し、保護対象文化財である事実を示す特別な標識を重要な建築物および記念物に取り付ける。
- ・ 軍隊機構の内部に特別班を設置して、文化遺産保護の任にあたらせる。

これまでハーグ条約は、1967年の中東紛争の際に適用されたのをはじめ、近年ではボスニア・ヘルツェゴビナ、カンボジア、クロアチア（特にドゥブロヴニク旧市街）、イラクなどの戦場で被害を受けた文化遺産に適用されました。



■生徒の活動40

戦時における文化遺産・自然遺産の保護

目的：ハーグ条約と、戦争中に自然環境を保護する必要性を学ぶ



調査



教室での活動



授業時間数：1時間



歴史、公民



1954年
ハーグ条約

✓生徒たちと1954年のハーグ条約の前文について話し合い、国内のユネスコ関係機関もしくはユネスコ本部から条約全文のコピーを入手してみましょう。以下のことについて、生徒たちと話し合みましょう。

- ・ハーグ条約が起草された歴史的状況（第2次世界大戦直後）について
- ・戦争中における、ハーグ条約の目的あるいは遺産保護一般の目的について
- ・ハーグ条約と世界遺産条約はどのような点で異なっているのか、または相互補完的であるのか？
- ・ハーグ条約が適用された近年の戦争や紛争の例について
- ・戦争はどのようにして自然環境を損なうか

✓戦争はいかに私たちの自然環境を損なうか、話し合みましょう。



連絡先

▲戦時における自然遺産の保護

近年の戦争により地球上で最も重要な生態系のいくつかが破壊されたことは（例：軍用車の通過、故意に地上を焼き払うこと、多数の人間を強制移住させることによる影響）、戦時下で自然遺産を保護するのがいかに困難であることを示しました。旧ザイール（現在はコンゴ民主共和国）の世界遺産、カブジュービエガ国立公園はまさにこの例です。近年ルワンダで起こった戦争の結果、国立公園隣接地帯に50,000人の難民を収容するキャンプが設置されましたが、この国立公園には希少かつ危機に瀕する（ほとんど絶滅しかかっている）マウンテンゴリラが生息しています。このマウンテンゴリラは、かつてジョージ・シヤラー、故人となったグリジニック教授、ダイアン・フォッセイなどの科学者が研究対象としました。ユネスコ、国連難民高等弁務官、各国政府、ドイツの支援団体GTZなどの努力と世界遺産基金の財政援助により、難民キャンプは適切な場所に移設されました。

壊されたマウンテンゴリラ、
フクンディ国立公園
（ルワンダ）
© UNESCO



世界遺産と人権

人権を認め尊重する人類の戦いは、平和、自由、発展のための行動をしばしば伴いました。また、この戦いは昔から民主主義と人民の政治参加という原理とも関連づけられてきました。

その現れ方はさまざま、時として理解に若干の努力を要するとは言え、世界遺産の多くはこの理想を体現しています。次の例がそれを物語っています。

セネガル沖合に首都ダカールと向き合うように浮かぶゴレ島は、15世紀から19世紀にかけて、アフリカ海岸最大の奴隷貿易基地でした。ポルトガル、オランダ、英国、フランスに次々と支配されたゴレ島は、恐ろしい奴隷居住区と優美な家々の立ち並ぶ奴隷商人居住区の対比が特徴的です。現在でも、この遺跡は人類の搾取の歴史と和解の聖地として、人々の心に訴えかけます。

徹底した人権無視、さらに結果として何百万人もの罪なき人々の身に降りかかった筆舌に尽くしがたい苦しみを思い起こさせるもうひとつの例は、1979年に世界遺産に登録されたポーランドのアウシュビッツ強制収容所です。その高く頑丈な壁、有刺鉄線、通路、粗末な建物、絞首台、そしてガス室と遺体焼却炉は、第二次世界大戦中にナチスドイツがそこで子供や老人を含む24カ国の、主としてユダヤ人400万人の命を奪ったことを伝える証人です。この遺産は、現在そして未来にわたって同じような残虐行為を再び引き起こさないために、私達の記憶に焼き付けておくべき人類史の一時代を示しているのです。同時に、この遺産は偏見がもたらす恐ろしい結果を物語っています。

現在、アウシュビッツ収容所には、獄舎、ガス室、焼却炉を備えたアウシュビッツ国立博物館が併設され、来館者は当時の収容所の有り様を知ることができます。ここでしか見ることのできない文書を収蔵するこの博物館は、歴史研究の機関としても重要です。毎年、学校全体での見学など世界中から何千人もの人々が訪れるアウシュビッツは、世界平和と安全のための果てしない戦いに大きく寄与しています。



アウシュビッツ
強制収容所
(ポーランド)
© UNESCO/A.Husarska



■生徒の活動41

偏見一平和を掲かすもの

目的：狭量さを除き、異文化についての学習を促し、地球環境を大切に思う心を育む



討議



教室での活動



課外活動



授業時間数：
数時間



歴史、公民、
語学、文学



歴史書、
百科事典

✓生徒達に、偏見や狭量、差別から生じた歴史上の大きな出来事（例えば第1次・第2次世界大戦、奴隷制度）に対する気持ちについて、また平和な未来を保障する必要性について、エッセイや詩を書いたり、絵やポスターを描いたり、歌や音楽を作ったりすることで表現させます。

✓生徒達に、上記のような表現を、世界遺産について学んだことと結びつけさせます。世界遺産について学ぶことで、異なる文化やライフスタイルを知り、他の人々のことや地球環境について正しく理解し、感謝し、大切に思うようになるのではないのでしょうか。

必要不可欠な価値観である自由は、例えばアメリカ合衆国の「自由の女神」と「独立記念館」のような世界遺産が伝えるメッセージです。1984年に世界遺産に登録された「自由の女神」は、ニューヨーク港の入り口に立ち、1886年の設置以来、アメリカに入国する何百万もの移民を出迎えてきました。高さ46メートルの「自由の女神像」は、フランスの彫刻家フレデリック・オーギュスト・バルトルディが、パリのエッフェル塔の製作者として有名なギュスターヴ・エッフェルの金細工技術の力を借りて、フランスのパリで制作しました。自由を象徴するこのモニュメントは、同時に19世紀における技術力の最大の成果でもあります。国際的な資金調達活動により、この像がフランスの彫刻家によってヨーロッパで制作されたという事実は、平和的な異文化交流の表現としてのこの世界遺産の象徴的価値をさらに高めています。



独立記念館
[アメリカ合衆国]
UNESCO

ペンシルベニア州フィラデルフィアの中心部に位置する「独立記念館」は、「独立宣言」と「アメリカ合衆国憲法」が、それぞれ1776年と1787年に調印された場所です。以来、アメリカ合衆国と世界史にとってなくてはならない重要なこのふたつの文書にうたい上げられた民主主義という普遍的原理は、世界中の立法者を鼓舞し続けてきました。この「独立記念館」は、1979年に世界遺産リストに登録されました。

■生徒の活動42



世界遺産と平和のクロスワードパズルを作る

目的：世界遺産条約と平和の間にある
きわめて重要なつながりを、生徒の心に強く印象づける



実習



授業時間：
1～2時間



公民



世界遺産地図

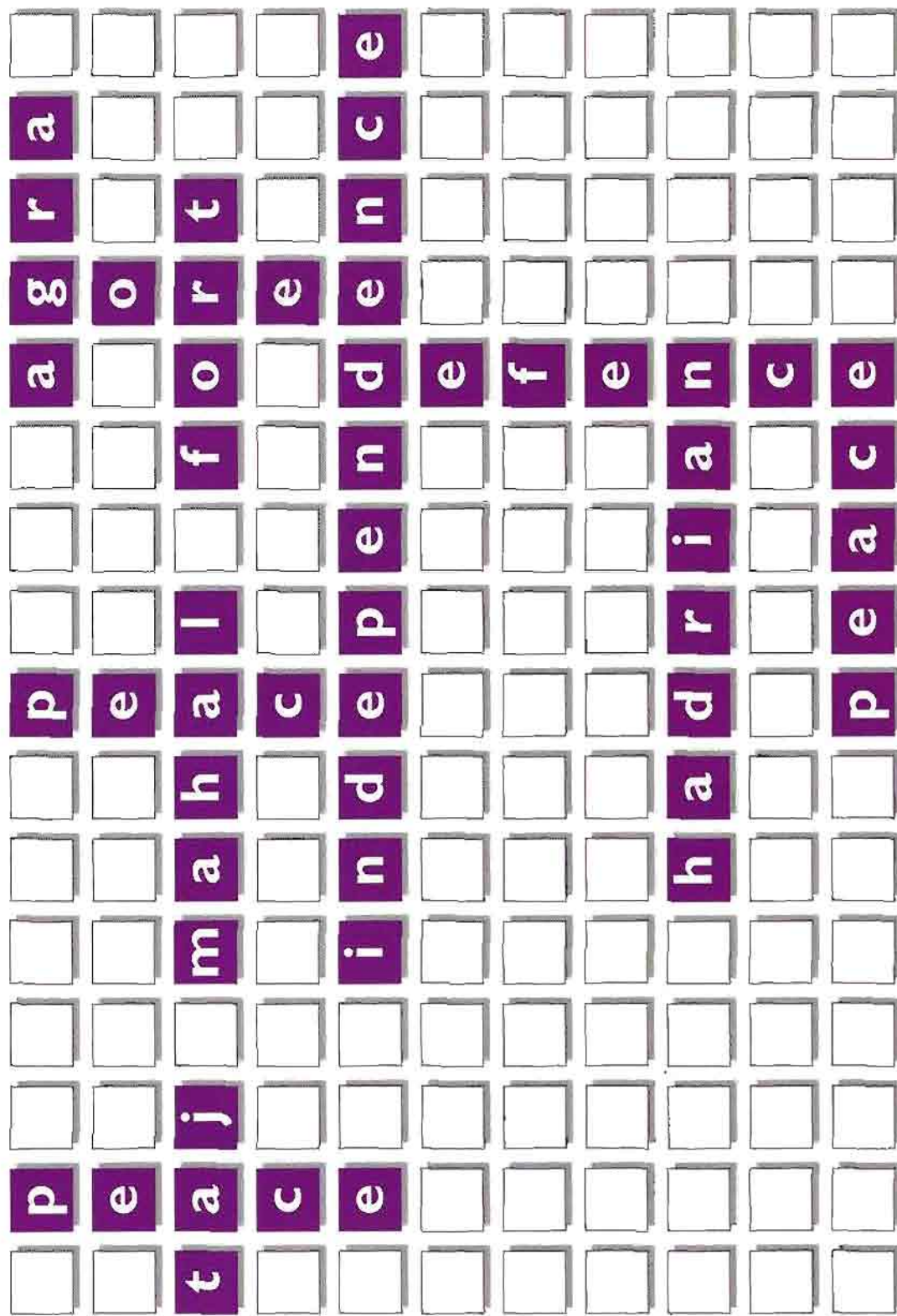


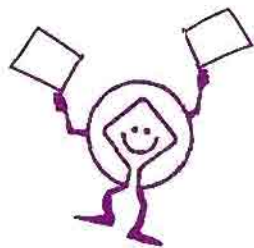
生徒の活動用
シート「世界
遺産と平和の
クロスワード

パズルを作
る」、辞典、
百科事典

✓生徒たちに2つのリストを作らせます。ひとつは世界遺産のリスト、もうひとつは平和に関連する概念や用語（平和の同義語として、休戦・停戦、調和・協調・友好、平穏・静寂・安定、関連語として非好戦的・非暴力的、平和の対義語として戦争・攻撃・紛争・敵対・戦い・戦闘）のリストです。

✓続いて、生徒たちに、世界遺産地域の名前や、作ったリストの中の言葉を使って、クロスワードパズルを作らせます。生徒の活動用シートのマスキを例として利用します。





カリキュラムを通じて： 世界遺産と平和の文化

美術

平和または美学に関連する世界遺産を選び出します。

平和と世界遺産保護を推進する特別なメッセージをこめたポスターを制作します。

外国語

生徒にとってなじみのある外国語に、「平和」と「遺産」を表わす言葉を翻訳しリストをつくります。(例：フランス語ではpaixとpatrimoine、スペイン語ではpazとpatrimonio)

外国語学習の時間に、平和関連の世界遺産をさらに調査します。

地理

新聞を読んで、世界の各地で起こっている紛争や緊張関係、それらが世界遺産に与える潜在的脅威についての記事を切り抜きます。

一カ月後、切り抜きを照合して世界の地域別に整理します。(例：アフリカ、アラブ諸国、アジア太平洋、ヨーロッパ、北アメリカ、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国)

紛争または緊張地帯の近くにある世界遺産を探し出し、損傷や破壊の可能性があるかどうか話し合います。

歴史

平和に関係がある、または平和を象徴する遺産(自国内または外国の遺産)で世界遺産リストに登録されていないものを見つけ出します。

その遺産の歴史的な重要性について話し合った後に、現在の位置づけや未来に向けての意味合いについて考えます。

語学

「平和」の類義語を一覧表にまとめ、そのうちひとつを選んで世界遺産に関係した文章を書きます。

数学

セネガルのゴレ島のような世界遺産をひとつ選び、例えば島から船に乗せられてアメリカに送られた奴隷の数を調べます。次に10年単位または100年単位でデータを図表化し、結果をもとに討議します。

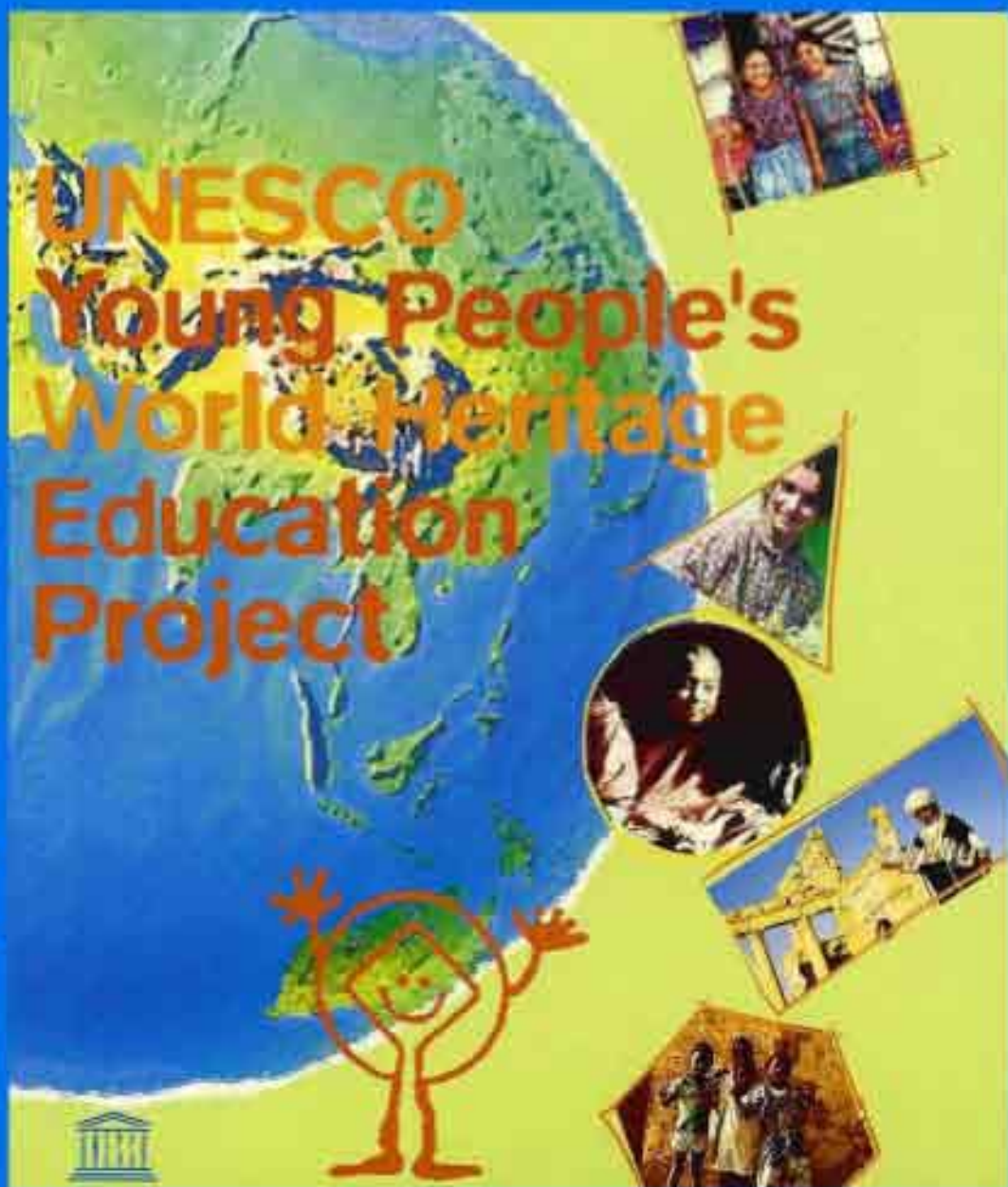


世界遺産と平和の文化

世界遺産



資料



私達が、世界遺産の重要性を理解するためには、
面白くて適切な教材が必要です。
若者は、その教材の準備に参加します。

「私たちの誓い」
第1回世界遺産国際ユースフォーラム、
ノルウェー、ベルゲン

資料

用語集

P175

連絡先

P179

参考資料一覧表

P184

その他の参考資料

世界遺産条約

世界遺産地域の写真25枚

世界遺産地図

概説



用語集

ユネスコ協同学校プロジェクト (ASP)

これは、世界中の学校が平和の文化をすすめる、他者への寛容を促し、国際理解を深めるために、1953年に発足しました。過去40年余にわたって、世界中で4500校以上の学校が、この目的をさらに進めるための新たな教育手法や材料を開発するため、ASPネットワーク (ASPネット) に参加しています。

生物多様性 (生物学的多様性)

地球上の全ての生命形態が多様であることを示し、この概念には地球上の異なった植物・動物・微生物とその遺伝子が含まれ、これらすべてから成る生態系のこととも示します。

保護

遺産地域の特別な価値を守るため、地域を見守る過程のこと。保護には維持、保存、修復、復元が含まれます。

登録基準

世界遺産リストに登録するため、顕著な普遍的価値を有する地域を選定する際に用いられます。

平和の文化

ユネスコが平和の精神の核心部分を守るために進めてきた活動のすべてに共通している概念です。

文化遺産

世界遺産条約に定められた、記念工作物、建造物、遺跡のこと。

文化的景観

人間が自然を利用して作り出した景観のこと。

ユネスコ総会

ユネスコの全加盟国が、ユネスコの計画や予算を承認するために2年ごとに開催します。

ICCROM (文化財の保護及び修復の研究のための国際センター)

文化財の保存及び修復の研究を行う国際センター、文化遺産地域の保存方法について専門的な助言を行い、修復技術者の養成コースを設けています。

ICOM (国際博物館会議)

世界中の博物館を発展させ、博物館専門職の活動を促進させるものです。

ICOMOS (国際記念物遺跡会議)

世界遺産リストへの登録を推薦された文化遺産や文化的景観に対し、専門的評価を行います。

IUCN (国際自然保護連合)

世界遺産リストに登録する自然遺産の選定にあたって、世界遺産委員会に助言します。

危機にさらされている世界遺産リスト

深刻な危機にさらされ、国際的な保護機関で保護する正当な必要性が世界遺産委員会によって認められた世界遺産のリスト。

加盟国

ユネスコに加盟している国のこと。

自然遺産

自然の特徴、地質学的・自然地理学的な形成物及び自然地域であると世界遺産条約で定義されています。

推 薦

世界遺産条約締約国が、物件を世界遺産リストに登録することを求めるためにとる手続きです。特別な登録用の書類に記入し、ユネスコ世界遺産センターへ提出します。

顕著な普遍的価値

顕著な普遍的な価値をもつ物件とは、その消失が全人類にとって何物にも代えがたい損失となるような物件のことです。顕著な普遍的価値とは、言い換えれば世界遺産としての価値です。

パトリモニー

遺産を守る若者を象徴したマスコットです。1995年にノルウェーのベルゲンで行われた第1回世界遺産ユースフォーラムの参加者たちが創りました。

締約国

世界遺産条約に従うことを約束した国のこと。したがって、締約国は世界遺産リストへの登録候補地を選定し、登録のために推薦することに同意しています。締約国が地域を推薦する場合、その地域の保全の方法を詳細にわたって提示し、管理計画を提出します。締約国は、登録された地域の世界遺産としての価値を守り、その状態を定期的にユネスコへ報告することが求められます。すべての締約国が集まる締約国会議が、2年に1度、ユネスコ総会の会期中に開かれます。この会議で世界遺産委員会の委員国が選出され、世界遺産基金の収支状況を審議し、重要な政策事項について判断をくだします。

世界遺産暫定リスト

条約の締約国は、世界遺産暫定リストを作るように求められています。これは5年から10年の間に世界遺産リストに登録するために推薦しようとする文化遺産あるいは自然遺産のリストです。

国際連合（国連）

186カ国（1998年現在）の独立国から成る国際機関です。第2次世界大戦後に、国際的な平和と安全を守るために創設され、国家間の友好を深め、社会の発展と生活水準の向上を図り、人権擁護を進めてきました。

ユネスコ（UNESCO）（国際連合教育科学文化機関）

1998年現在、186カ国が加盟している国際連合の専門機関です。諸国間の文化面での協力を通じて、平和を守る精神を人々の心の中に築くことを目的としています。

ユネスコ世界遺産センター

世界遺産委員会の決定を実行する役割を果たします。

ユネスコの若者のための世界遺産教育プロジェクト

ユネスコの世界遺産センターと、教育部門である協同学校プロジェクト調整室が協力して進めている国際プロジェクトで、世界遺産地域の価値についての理解を深め保護を進めるため、世界中の各地域で、学校のカリキュラムに世界遺産教育を導入することを第一の目的としています。

世界遺産

ユネスコの世界遺産リストに登録されている、「顕著な普遍的価値」をもっている文化遺産及び自然遺産のこと。

世界遺産ビューロー会議

世界遺産委員会の作業の準備を行うために、世界遺産委員会で選ばれた7カ国の委員国が年に2回開く会議のこと。

世界遺産委員会

締約国のうち21カ国で構成される政府間委員会で、世界遺産条約を実施する役割を担います。

世界遺産条約

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」は、第16回ユネスコ総会で採択され、「顕著な普遍的価値」を有する文化遺産及び自然遺産を守り、保全し、保存して、後世に伝えることを目的としています。

世界遺産基金

世界遺産地域の保護のために利用される基金で、任意拠出金と義務的拠出金により運営されています。

世界遺産リスト

「顕著な普遍的価値」を有すると考えられる文化遺産、自然遺産、複合遺産（文化的景観も含む）のリストです。

世界遺産ユースフォーラム

異文化間の理解と若者の交流を促し、世界遺産条約の重要性を認識し、世界遺産保護への若者たちの参加を促進することを目的としています。1995年にノルウェーのベルゲンで、1996年にクロアチアのドゥブロヴニクとジンバブエのビクトリアの滝で、また、1997年に中国の北京で開催されてきました。



連絡先

■ UNESCO Headquarters

UNESCO Headquarters

7, place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP
France
tel: (33 1) 45 68 10 00
fax: (33 1) 45 67 16 90
<http://www.unesco.org>

World Heritage Centre

UNESCO Headquarters
tel: (33 1) 45 68 15 71
(33 1) 45 68 18 76
fax: (33 1) 45 68 55 70
e-mail: wh-info@unesco.org
<http://www.unesco.org/whc>

Associated Schools Project (ASP)

Education Sector
UNESCO Headquarters
fax: (33 1) 45 68 56 22
e-mail: aspnet@unesco.org
<http://www.education.unesco.org/educprog/asp>

The Division of Cultural Heritage, UNESCO

within the Sector for Culture, is principally responsible for managing the international campaigns, some of which concern World Heritage properties. It also executes operational projects in co-operation with the World Heritage Centre, ICCROM and ICOMOS.

Division of Cultural Heritage
Sector for Culture
1, rue Miollis
75732 Paris Cedex 15
France
tel: (33 1) 45 68 37 56
fax: (33 1) 45 68 55 96



The International Standards Section

administers the implementation of the 1954 *Hague Convention (Convention for the Protection of Cultural Property in the Event of Armed Conflict)* and the 1970 *Convention on the Means of Prohibiting and Preventing the Illicit Import, Export and Transfer of Ownership of Cultural Property*

International Standards Section
Division of Cultural Heritage, Sector for Culture
UNESCO Headquarters

The Science Sector, UNESCO

with its Division of Ecological Sciences, Division of Earth Sciences and Bureau for Co-ordination of Environmental Programmes, co-operates with the World Heritage Centre and the IUCN in executing operational projects concerning the natural World Heritage properties, in particular for sites which are also UNESCO Biosphere Reserves.

Division of Ecological Sciences
Science Sector
1, rue Miollis
75732 Paris Cedex 15
France
tel: (33 1) 45 68 40 67
fax: (33 1) 45 68 58 04

Man and the Biosphere Programme:
e-mail: mab@unesco.org
<http://www.unesco.org/mab>

Culture of Peace Programme

is a transdisciplinary concept that brings together the activities which UNESCO carries out to promote adherence to values that are the heart of the «spirit peace».

Culture of Peace Programme Unit
Directorate
UNESCO Headquarters
fax: (33 1) 45 68 55 57
<http://www.unesco.org/cpp>

UNESCO Publishing Office (UPO)

UNESCO Headquarters
tel: (33 1) 45 68 43 00
fax: (33 1) 45 68 75 37

■ UNESCO regional and subregional offices

UNESCO Dakar

12 Avenue Roume, BP 3311, Dakar, Senegal
tel: (221) 23 50 82/21 96 69/21 89 21
fax: (221) 23 83 93
e-mail: uhdak@unesco.org

UNESCO Santiago

Calle Enrique Delpiano 2058, Casilla 3187, Santiago de Chile, Chile
tel: (562) 204 90 32
fax: (562) 209 18 75/251 30 76
e-mail: uhstg@unesco.org

UNESCO Bangkok

Prakanong Post Office, Box 967, Bangkok, 10110, Thailand
tel: (662) 391 8474/0879/0577/0880/0686
fax: (662) 391 0866
e-mail: uhbgk@unesco.org

UNESCO Amman

Al-Shmaisani, PO Box 2270, Wadi Saqra, Amman, Jordan
tel: (962 6) 60 65 59/42 43/42 34/68 96 37
fax: (962 6) 68 21 83
e-mail: uhamm@unesco.org

UNESCO Apia

PO Box 5766
Matautu, UTA PO, Apia, Samoa
tel: (685) 24 276
fax: (685) 22 253
e-mail: uhapi@unesco.org

UNESCO Harare

PO Box HG 435, Highlands, Harare, Zimbabwe
tel: (263 4) 77 61 14/15
fax: (263 4) 77 60 55
e-mail: uhhar@unesco.org

UNESCO San José

Ap. Postal 220, San Francisco 2120, San José, Costa Rica
tel: (506) 231 41 21/296 37 81
fax: (506) 231 22 02
e-mail: uhsjo@unesco.org

UNESCO Doha

PO Box 3945, Doha, Qatar

tel: (974) 86 77 07/77 08

fax: (974) 86 76 44

e-mail: uhdoh@unesco.org

UNESCO Port of Spain

c/o UNDP P.O. Box 812

Port of Spain - Trinidad and Tobago

tel: (1809) 622 05 36

fax: (1809) 628 48 27

e-mail: uhpos@unesco.org

■ Relevant organizations

International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property (ICCROM)

ICCROM

Via di San Michele 13

I-00153 Rome

Italy

tel: (396) 585 531

fax: (396) 585 533 49

e-mail: iccrom@iccrom.org

<http://www.icomos.org/iccrom>

International Council on Monuments and Sites (ICOMOS)

ICOMOS

49-51, rue de la Fédération

75015 Paris

France

tel: (33 1) 45 67 67 77

fax: (33 1) 45 66 06 22

e-mail: secretariat@icomos.org

<http://www.icomos.org>

World Conservation Union (IUCN)

IUCN

rue Mauverney 28

CH-1196 Gland, Switzerland

tel: (41) 22 999 0001

fax: (41) 22 999 0010

e-mail: mail@hq.iucn.org

<http://www.iucn.org>

International Council of Museums (ICOM)

ICOM
1, rue Miollis
75732 Paris Cedex 15
France
tel: (33 1) 45 68 28 67
fax: (33 1) 43 06 78 62
e-mail: secretariat@icom.org
<http://www.icom.org/icom>

Nordic World Heritage Office (NWHO)

NWHO
Postbox 8196 Dep.
N-0034 Oslo
Norway
tel: (47) 22 94 05 80
fax: (47) 22 94 05 81
e-mail: world-heritage.oslo@rapost.md.dep.telemax.no
<http://www.grida.no/ext/nwho/index.htm>

Organization of World Heritage Cities (OWHC)

OWHC
56 Rue Saint-Pierre
Quebec G1K 4A1
Canada
tel: (1) 418 692 0000
fax: (1) 418 692 5558
e-mail: secretariat@ovpm.org
<http://www.ovpm.org>

World Conservation Monitoring Centre (WCMC)

WCMC
219 Huntingdon Road
Cambridge CB30DL
United Kingdom
tel: (44) 1223 277 314
fax: (44) 1223 277 136
e-mail: info@wcmc.org.uk
<http://www.wcmc.org.uk>

World Tourism Organization (WTO)

WTO
Capitán Haya, 42
28020 Madrid
Spain
tel: (34 1) 571 06 28
fax: (34 1) 571 37 33





參考資料一覽表

■ UNESCO materials free of charge*

World Heritage map (folding poster)

Available in English, French and Spanish

World Heritage List

Available in English and French

Brief Descriptions of World Heritage Sites

Available in English and French

The World Heritage (information sheets)

Available in English, French and Spanish

The World Heritage 1998 (colour information brochure)

Available in English, French and Spanish

Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage

Paris, UNESCO 1972

Available in English, French, Spanish, Russian and Arabic

Conventions and Recommendations of UNESCO concerning the protection of the cultural heritage

Contains all of UNESCO's conventions and recommendations concerning the preservation of cultural heritage, including the following conventions mentioned in the Kit: the 1954 Hague Convention (*Convention for the Protection of Cultural Property in the Event of Armed Conflict*), the 1970 Convention on the Means of Prohibiting and Preventing the Illicit Import, Export and Transfer of Ownership of Cultural Property, and the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage.

Geneva, 1985

Available in English and French

Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention

Available in English and French

World Heritage Newsletter

Up-to-date accounts of policy-making and issues facing World Heritage

Available in English and French

The World Heritage Convention, Twenty Years Later

Léon Pressouyre, Paris, UNESCO, 1993

Available in English

World Heritage Education

A four-page leaflet briefly describing World Heritage Education and ASP
Available in English and French

ASP introduction sheet

A small leaflet describing ASP briefly

Key Words for Participating in the UNESCO Associated Schools Project

A packaged manual outlining the profile of ASP

Final Report on First World Heritage Youth Forum, Bergen, Norway, 24–28 June 1995

Available in English and French

Final Report on First European Regional World Heritage Youth Forum, Dubrovnik, Croatia, 25–30 May 1996

Available in English and French

Final Report on First African World Heritage Youth Forum, Victoria Falls, Zimbabwe, 18–24 September 1996

Available in English

Report of Asia-Pacific World Heritage Youth Forum, Beijing, China, 1997

Available in English

Periodicals

UNESCO Sources

Monthly

Available in English, French, Spanish, Chinese, Portuguese

Biosphere Reserves, Bulletin of World Research

UNESCO MAB Programme

Available in English and French

Booklets

Biodiversity

Environment and Development Briefs

Science, Conservation and Sustainable Use

Paris, UNESCO, 1994

Available in English

■ UNESCO materials for sale**

General publications on World Heritage

Management Guidelines for World Cultural Heritage Sites

Bernard M. Feilden and Jukka Jokilehto, ICCROM/UNESCO, 1993
Available in English and French

Guía del Patrimonio Mundial

INCAFO/UNESCO, Madrid/Paris, 1994
Available in Spanish

The World Heritage Desk Diary

INCAFO/UNESCO, Madrid/Paris
Published annually in English, French and Spanish

The World Heritage

Children's Press/UNESCO, Paris
A series for young people from 8–15 years of age
Available in English, French and Spanish

Patrimonio de la Humanidad

Encyclopaedia in twelve volumes
San Marco/UNESCO, Madrid/Paris, 1995
Available in Spanish

World Heritage

Encyclopaedia in twelve volumes
Verlagshaus Stuttgart/Plaza y Janes/UNESCO
Stuttgart/Paris, 1996/1997
Available in German

Schätze der Menschheit

Frederking & Thaler/UNESCO, München/Paris, 1996/1997
Available in German

The World Heritage

Encyclopaedia in twelve volumes
Kodansha/UNESCO, Tokyo/Paris, 1996/1997
Available in Japanese

Cultural Landscapes of Universal Value 'Components of a Global Strategy'

Bernd von Droste, Harold Plachter, Mechtild Rössler (ed.), Gustav Fischer-Verlag/UNESCO, Jena/Paris, 1995

Our Creative Diversity: Report of the World Commission on Culture and Development

Paris, UNESCO, 1995

Periodicals

The World Heritage Review

Quarterly, features in-depth articles on cultural and natural World Heritage sites

Available in English, French and Spanish

The UNESCO Courier

Monthly, generally contains one or two articles about World Heritage sites

Available in English, French and Spanish

■ Other materials for sale

CD-ROM World Heritage Cities

Cyberion/UNESCO, Paris, 1996

Available in English, French and Spanish

CD-ROM Dictionnaire Hachette Multimédia

Paris, Hachette, 1995

Available in French

CD-ROM Atlas Multimedia

Paris, Hachette, 1996

Available in French

Masterworks of Man and Nature

Sydney, Harper-MacRae Publishing, 1994

Available in English

Ordering address: IUCN, rue Mauverney 28, 1196 Gland, Switzerland

Paradise on Earth

Sydney, Harper-MacRae Publishing, 1995

Available in English

Ordering address: IUCN, rue Mauverney 28, 1196 Gland, Switzerland

World Heritage Twenty Years Later

Jim Thorsell, IUCN, Switzerland and United Kingdom, 1992

Available in English

Ordering address: IUCN, rue Mauverney 28, 1196 Gland, Switzerland

World Cultural and Natural Property

A series for young people
Tokyo, Gakken, 1994
Available in Japanese

List of contacts

*For UNESCO materials free of charge, contact:
UNESCO World Heritage Centre
7, place de Fontenoy, 75352 Paris 07 SP, France
fax: (33 1) 01 45 68 55 70
E-mail : wh-info@unesco.org

Associated Schools Project (ASP)
Education Sector
UNESCO, 7, place de Fontenoy, 75352 Paris 07 SP, France
fax: (33 1) 01 45 68 56 22
E-mail: aspnet@unesco.org

**For UNESCO materials for sale, contact:
UNESCO Publishing Office
1, rue Miollis, 75732 Paris Cedex 15, France
fax: (33 1) 45 68 57 41
e-mail: c.laje@unesco.org

**Information on World Heritage and ASP is also
available through UNESCO's server on the Internet:**

World Heritage
<http://www.unesco.org/whc>

ASP
<http://www.education.unesco.org/educprog/asp>

編 者：

女性地位向上課長 ブレダ・パブリック
ユネスコ教育部門 エリザベス・カワジキー
世界遺産センター サラ・ティチン

監 修：

前世界遺産センター所長 ベルント・フォン・ドロステ
ユネスコ教育部門人道的・文化的・国際的教育部長 カイザ・サボレイネン

編集協力：

ユネスコ教育部門 タロウ・コマツ
世界遺産センター フェン・ジン
世界遺産センターコンサルタント ジュリー・ハイーグ

協 力：

ユネスコ教育部門 オランド・ハール
ユネスコ教育部門 シグリド・ニーダマイヤー・タリ
ユネスコ教育部門 マサコ・リリエール
ユネスコ教育部門 アルフォンス・ティ

世界遺産センター シシリア・コク
世界遺産センターコンサルタント サリナ・ディーレウイル
世界遺産センター ヘルマン・ファン・ホフ
世界遺産センター マリア・ペレース
世界遺産センター メチル・ロスラ
世界遺産センター ユラ・ヴェンタ
世界遺産センター ミンジャ・ヤング

ユネスコ出版局 セシル・チュベール
ユネスコ出版局 ミチコ・タナカ

21世紀パートナーシップ フィリップ・ミューラ



モン・サン・ミシェルとその湾 フランス共和国

文化遺産登録基準：i, iii, vi

世界遺産登録年：1979年

概説：

ノルマンディー地方とブルターニュ地方の境目にあたる干満の差が激しい湾にそびえるモン・サン・ミシェル。四方を海に囲まれ、大天使ミカエルを奉るゴシック様式のベネディクト会修道院が岩山の上にそびえ立ち、頂上の修道院を中心に、ふもとには街が広がっています。11世紀から16世紀までの長い年月を重ねて建設されたこの修道院は、特異な立地条件に順応しながらも非常に繊細で芸術的であり、その姿は「西洋の奇跡」と言われています。



ターヌムの岩絵 スウェーデン王国

文化遺産登録基準：i, iii, iv

世界遺産登録年：1994年

概 説：

ブーフスレーンの北部に位置する、ターヌム地区の岩絵の題材は、さまざまな人物や動物、武器、舟などきわめて多岐にわたり、芸術性が非常に高いです。また、それらの絵は、当時の人々の文化や現在に至る共通点も表現しています。これらたくさんのすばらしい作品から、ヨーロッパの青銅器時代の日常生活や考え方をうかがい知ることが出来ます。



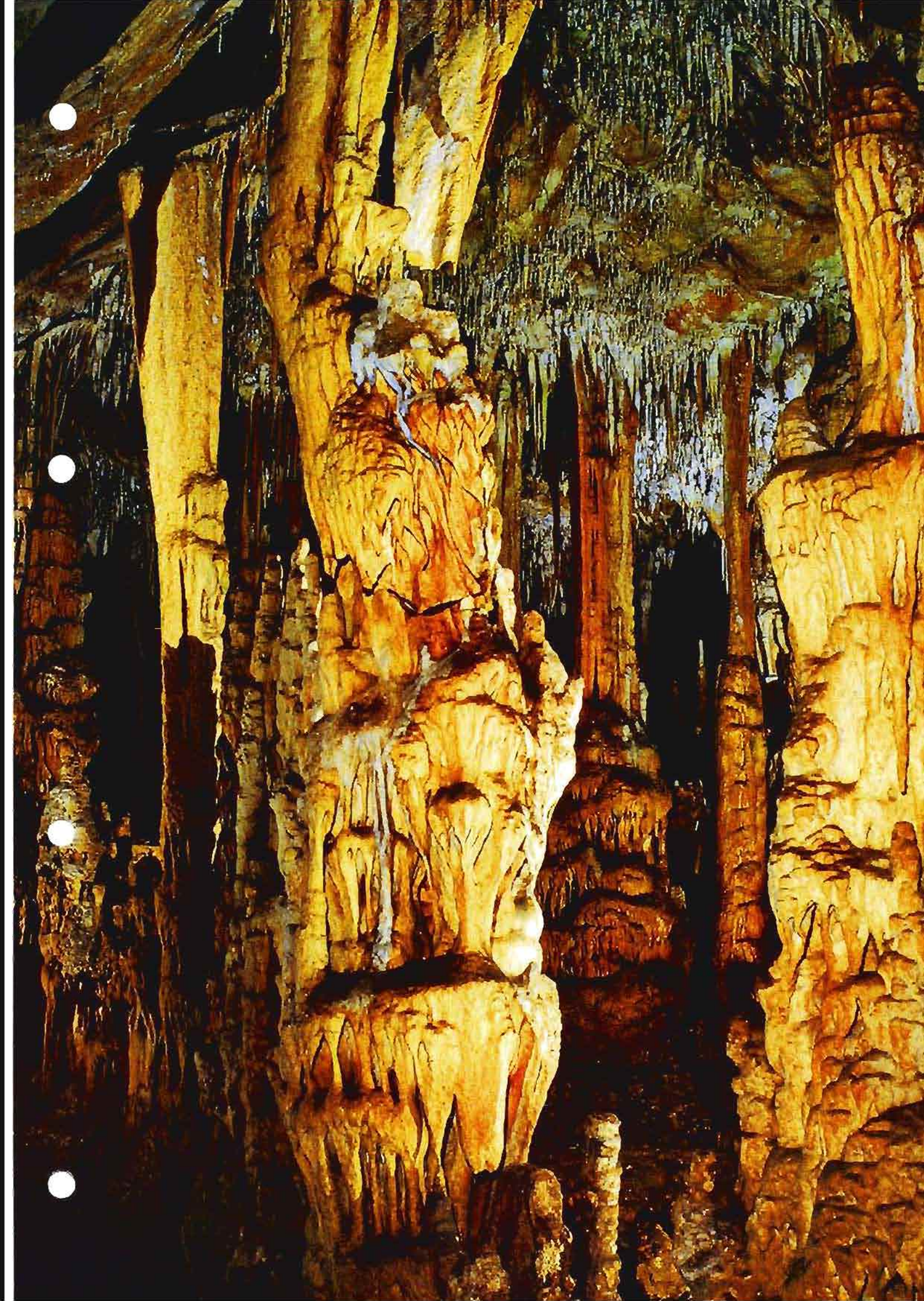
フェルクリンゲン製鉄所 ドイツ連邦共和国

文化遺産登録基準：ii, iv

世界遺産登録年：1994年

概 説：

6ヘクタールにもおよぶ製鉄所は、ザールラント州を流れるザール川の上流のフェルクリンゲン市に設置されました。19世紀と20世紀に西ヨーロッパと北アメリカで建設された一貫生産の製鉄所のうち、その当時の設備を有する唯一のものです。近年、操業を停止したものの、現在この巨大な製鉄所は完全にそのままの形で保存されています。



アグテレック・カルストと スロバキア・カルストの洞窟群 ハンガリー共和国／スロバキア共和国

自然遺産登録基準：i

世界遺産登録年：1995年

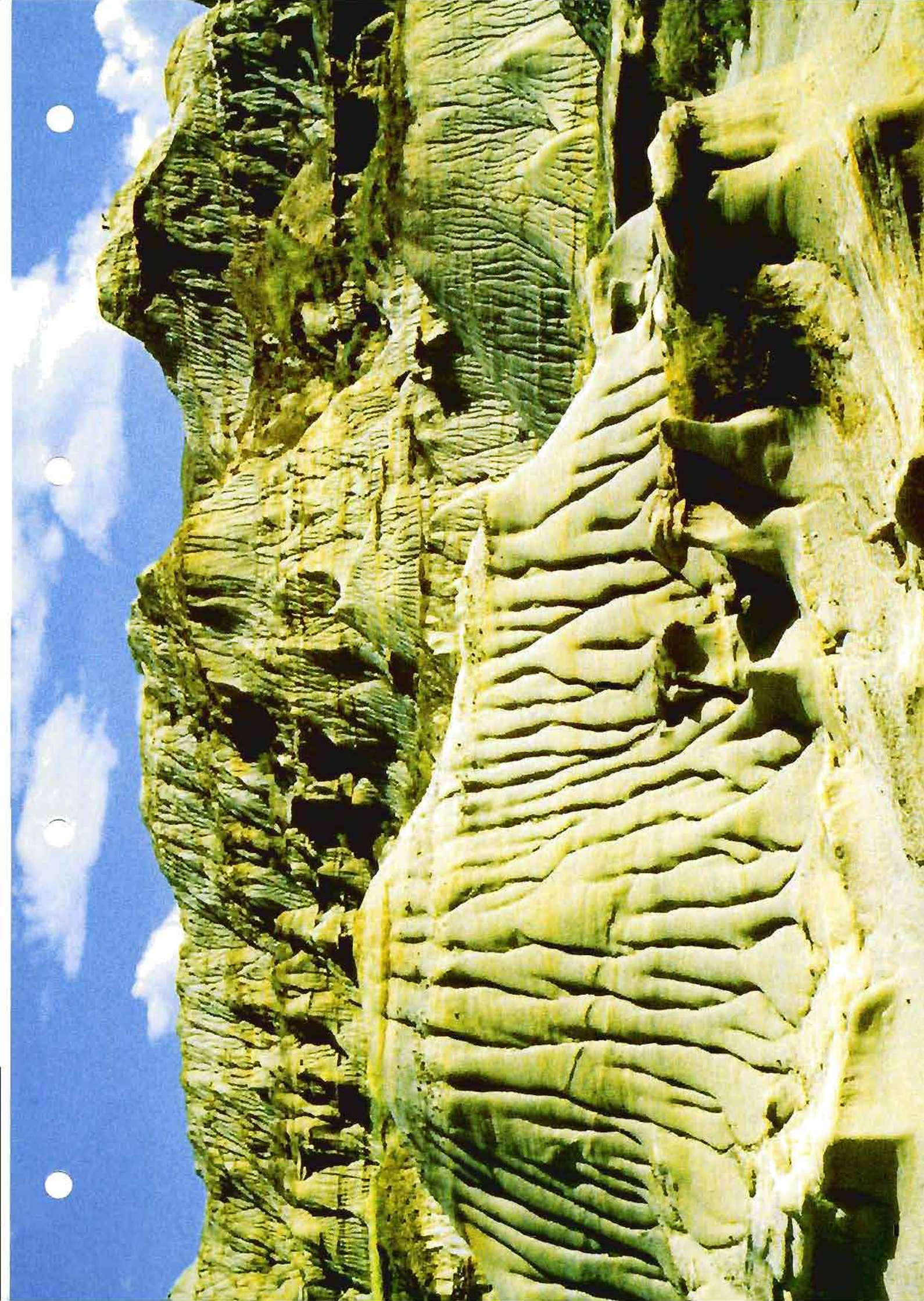
概 説：

限られた地域内に712の様々な形状の洞窟が集中し、代表的な温帯のカルストシステムを形成しています。熱帯気候と氷河期気候の特徴を示す極めて珍しい組み合わせが見られるため、数千万年にもおよぶ地質史の学習をすることができます。

© Young People's World Heritage Education Project 1998

Photo: UNESCO





州立恐竜公園 カナダ

自然遺産登録基準：i, iii

世界遺産登録年：1979年

概説：

アルバータ州にあるこの公園には、すばらしい景観の他、爬虫類全盛時代以降の最も重要な化石がいくつもあります。特に、7科約60種もの恐竜の化石は約7,500万年前のものです。



CASA DE DIOS

FERIA DE SALAMANCA

チキトスのイエズス会伝道施設 ボリビア共和国

文化遺産登録基準：iv, v

世界遺産登録年：1990年

概 説：

16世紀の哲学者が唱えた理想の共同体をつくる希望に燃えて築かれた「インディオ教化集落」。イエズス会士は、1696年から1760年にかけて以前のチキトスの領地であったところに模範となるようなインディオ教化集落10ヶ所を作りました。カトリック教会と伝統的な建築様式が混ざり合ったサン・フランシスコ・ハビエル、コンセプション、サンタアナ、サン・ミゲル、サン・ラファエル、サンホセの6ヶ所は今も息づく遺産です。



ブラジリア ブラジル連邦共和国

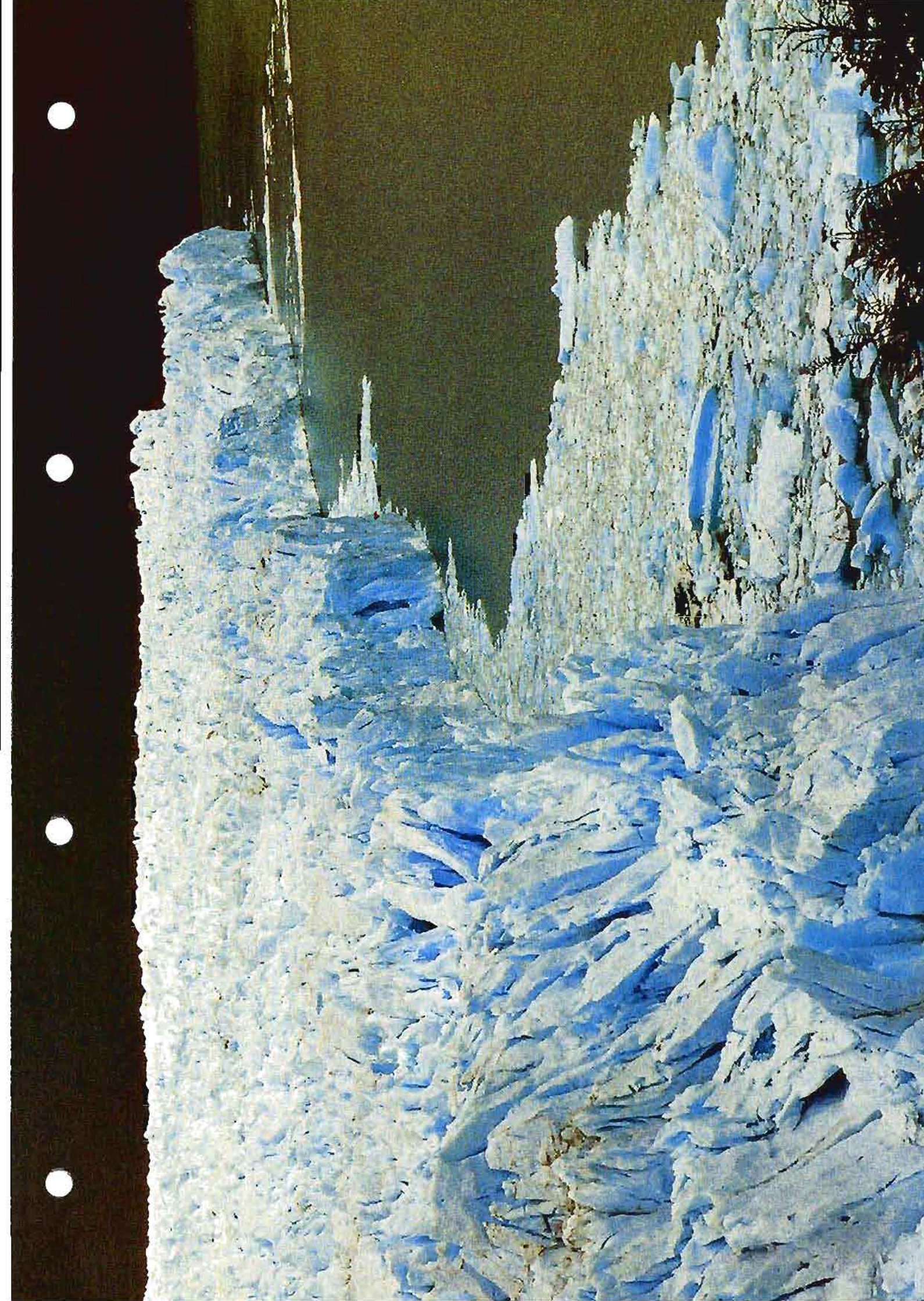
文化遺産登録基準：i, iv

世界遺産登録年：1987年

概 説：

ブラジリアは、1956年に国の中心で開発の遅れた何もない内陸部に建設された人工都市であり、都市計画の歴史上、画期的なものです。都市計画家ルシオ・コスタと建築家オスカー・ニーマイヤーは、居住地区や行政地区の設計（これは鳥の形にたとえられます）から建物自体の均整美に至るまで、全てが調和する都市の設計を目ざしました。なかでも政府関係機関の建物は特に想像力に富んだものです。





ロス・グラシアレス アルゼンチン共和国

自然遺産登録基準：ii, iii

世界遺産登録年：1981年

概 説：

ロス・グラシアレス国立公園はたぐい稀な美しい地域です。そこには、ごつごつした聳え立つ山々や無数の氷河湖があります。延長100マイル（160km）もあるアルゼンティーノ湖の最も上流部分では3つの氷河が合流し、巨大な氷山を大音響とともに乳灰色の氷河水の湖へ流し出しています。



ガラパゴス諸島 エクアドル共和国

自然遺産登録基準：i, ii, iii, iv

世界遺産登録年：1978年

概 説：

南米大陸から約1,000キロ離れた太平洋上にある19の火山島は他に類のない「進化の生きた博物館であり展示品である」と言われています。ここに生息するリクイグアナ、ゾウガメ、多くの種類のフィンチ（ホオジロ科の鳥）などの珍しい動物は、チャールズ・ダーウィンが1835年にここを訪問した後に、彼の進化論に影響を与えました。



リオ・プラターノ生物圏保護区 ホンジュラス共和国

自然遺産登録基準：i, ii, iii, iv

世界遺産登録年：1982年

概 説：

プラターノ川の流域にあるこの保護区は中央アメリカの多湿熱帯雨林が残されている数少ない地域で、多様な動植物が数多く生息しています。山腹地帯からカリブ海の海岸までの地域に、2,000人以上の先住民が伝統的な生活様式のままで暮らしています。





大ジンバブエ国立遺跡 ジンバブエ共和国

文化遺産登録基準：i, iii, vi

世界遺産登録年：1986年

概 説：

大ジンバブエ遺跡は、古くからの伝説によるとシバの女王の首府であり、11世紀から15世紀のショナ族のバントゥー文明を証明する特異な遺跡です。面積約80ヘクタールのこの都市は、中世時代から名の知れた重要な貿易の中心地でありました。



ジェンネ旧市街 マリ共和国

文化遺産登録基準：iii, iv
世界遺産登録年：1988年

概説：

紀元前250年から人の住んでいたジェンネは、市場の中心地そしてサハラを横断する黄金交易ルートのかなめへと発達しました。15世紀と16世紀にはイスラム教を布教するための精神的な拠り所のひとつともなりました。今もここで2,000人に近い人々が、小高い丘に建てられた伝統的な家屋に住み、季節的におこる洪水にも順応して生活しています。



ンゴロンゴロ保全地域 タンザニア連合共和国

自然遺産登録基準：ii, iii, iv

世界遺産登録年：1979年

概説：

巨大で完全な形をしたンゴロンゴロの火口原には、多数の野生動物が生息しています。近くには深い湖を有したエンバカイ・クレーターや活火山のオールドニョ・レンガ山があります。ここよりあまり離れていないオールドバイ溪谷で発掘をした結果、人類の祖先にあたるホモ・ハビリスが発見されています。



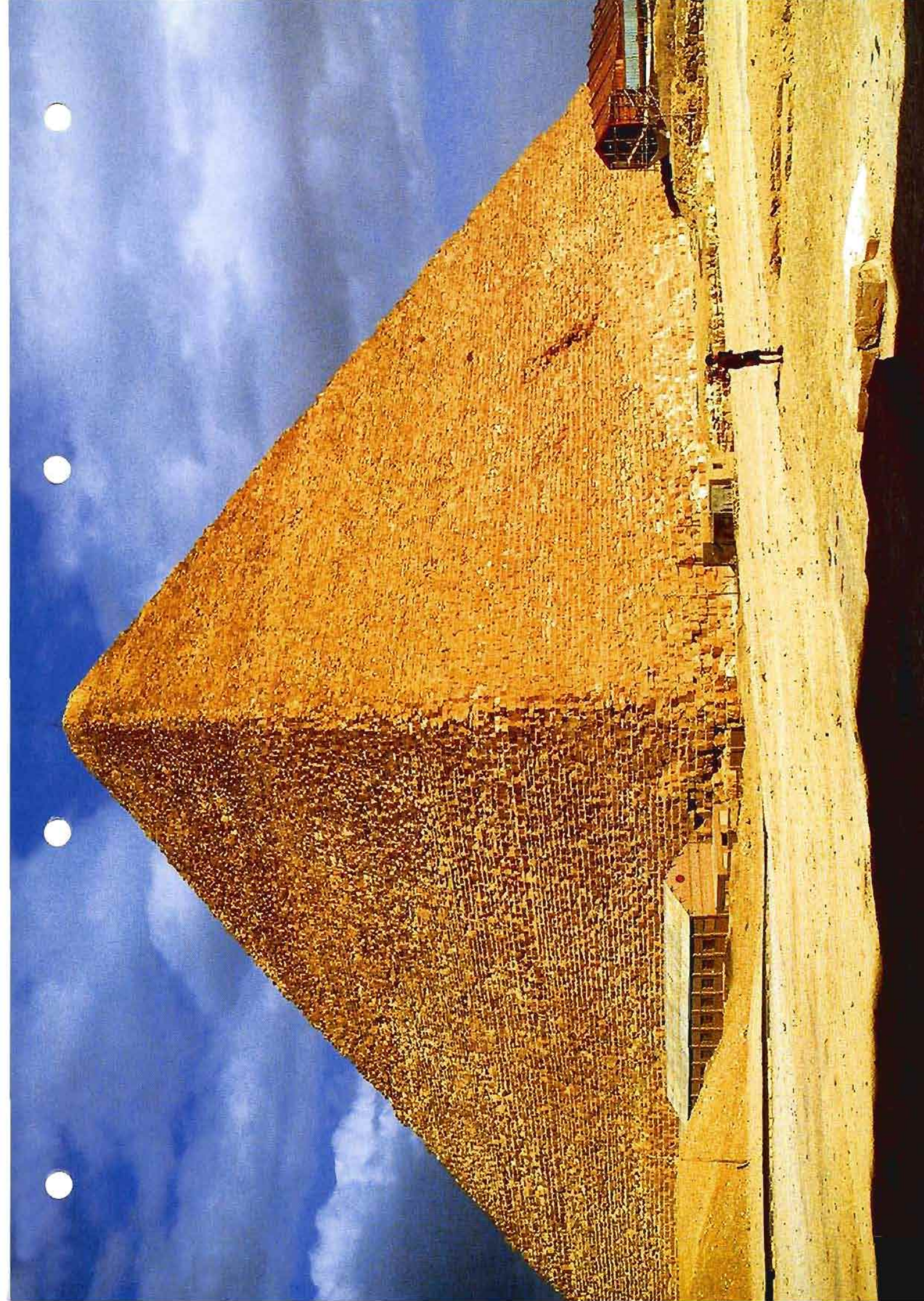
ニンバ山巖正自然保護区 コートジボワール共和国／ギニア共和国

自然遺産登録基準：ii, iv

世界遺産登録年：1981年

概 説：

ギニア共和国、リベリア、コートジボワール共和国にまたがっているニンバ山は、サバンナ地域にあります。山腹には深い森が繁り、特に豊かな動植物相が見られ、卵胎生ヒキガエル（ニシコモチヒキガエル）や石を道具として用いるチンパンジーなどの固有種も生息しています。



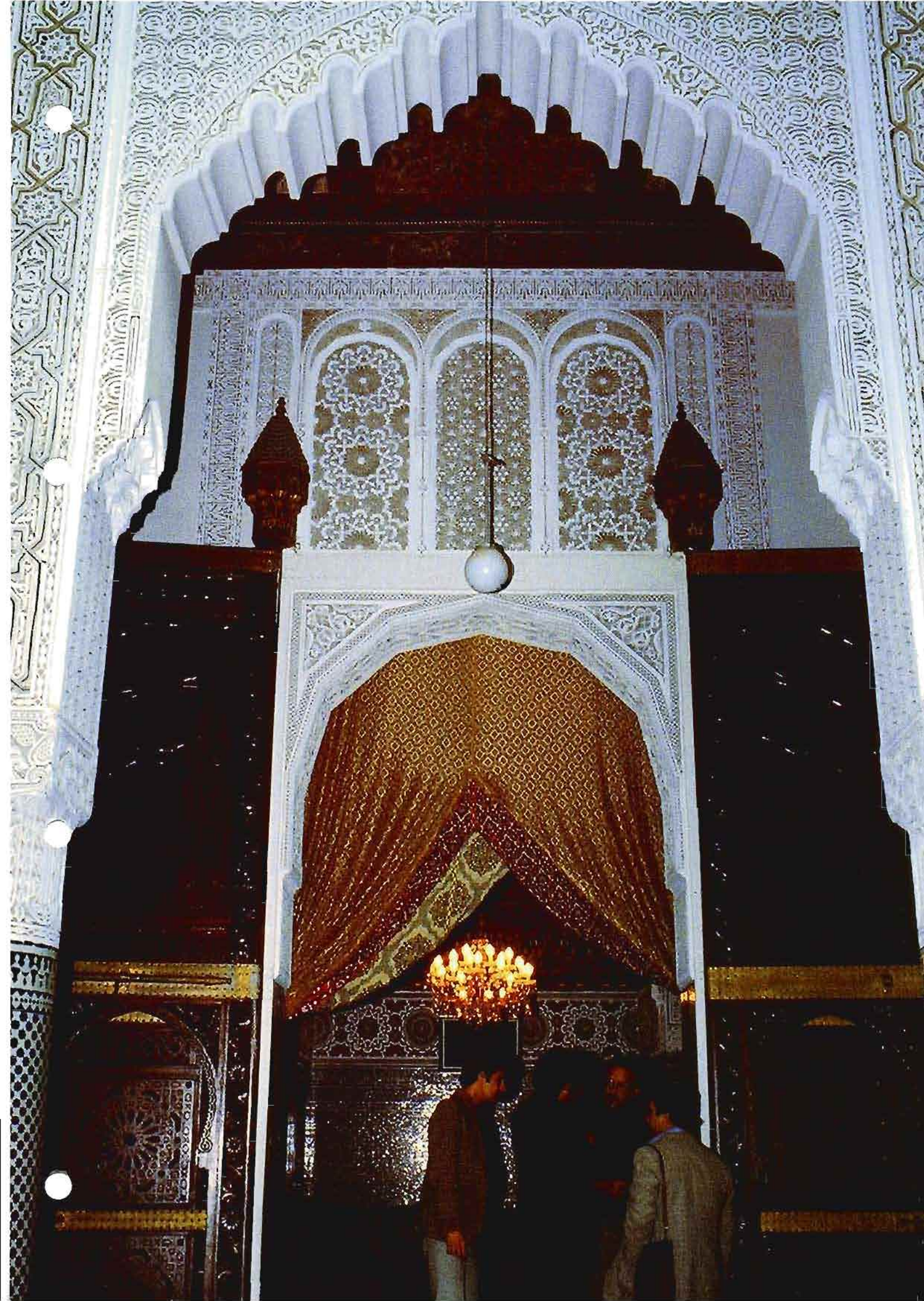
メンフィスとその墓地遺跡 ギーザからダハシュールまでの ピラミッド地帯 エジプト・アラブ共和国

文化遺産登録基準：i, iii, vi

世界遺産登録年：1979年

概 説：

古代エジプト王朝の首都近辺には、巨大な岩の墓石、凝った装飾を施したマスタバ（日干しレンガで造られた古代エジプトの墳墓）、寺院、ピラミッドなど驚異的な埋葬記念碑が残っています。古代において、この地域は世界7不思議の1つと考えられていました。



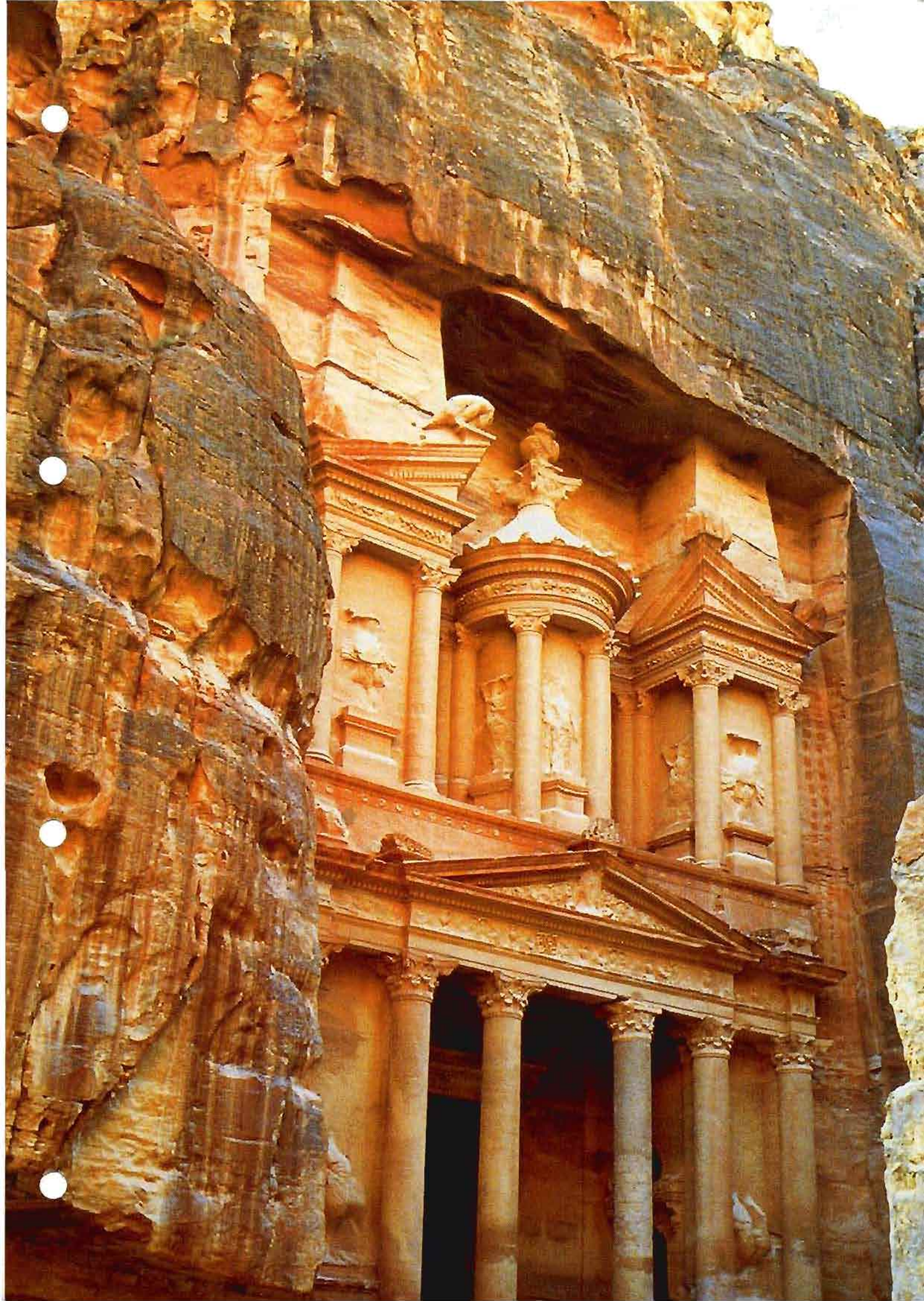
フェス旧市街 モロッコ王国

文化遺産登録基準：ii, v

世界遺産登録年：1981年

概 説：

9世紀に建設された古都フェスは、14世紀にマリニド家のもと最初の繁栄を迎え、さらにまた17世紀に栄華をきわめました。1912年、フランスがラバトを新しい首都と制定したことにともなってフェスの政治的な重要性は弱まりましたが、宗教的かつ文化的な役割は旧市街メディナの中心部にあるカラウイン・モスクとアンダルス・モスクの二つの有名なモスクを中心として今でも続いています。



ペトラ

ヨルダン・ハシミテ王国

文化遺産登録基準：i, iii, iv

世界遺産登録年：1985年

概説：

有史前より人が住んでいる、このナバテア王国の隊商都市ペトラはアラビア、エジプト、シリア-フェニキア間の重要な交易路でした。ペトラはその半分は普通につくられています、残り半分は山中の岩を削ってつくられたもので、通路と峡谷が入り混じっていて、建築物としても東洋の伝統とヘレニズム建築とが融合した世界でも有数なものです。



シバームの旧城壁市街 イエメン共和国

文化遺産登録基準：iii, iv, v

世界遺産登録年：1982年

概 説：

防護壁に囲まれた16世紀の都市シバームは、垂直方向の建設原則に基づいた都市計画の最古で最良の事例のひとつです。谷底にそびえ立つ、高い塔のような建物は非常に印象的で、「砂漠のマンハッタン」とも呼ばれています。



アンジャル レバノン共和国

文化遺産登録基準：iii, iv

世界遺産登録年：1984年

概説：

カリフ（イスラム教国家の支配者の称号）であるワリード1世が8世紀初頭に建設したアンジャル市の遺跡は、整然と区画された計画都市で、古代の宮殿都市の姿をしのばせます。ウマイヤ朝の都市計画を物語る顕著な例です。



モヘンジョダロの遺跡 パキスタン・イスラム共和国

文化遺産登録基準：ii, iii
世界遺産登録年：1980年

概説：

インダスの谷にある巨大な都市の遺跡モヘンジョダロは、紀元前3000年に日干しレンガだけで造られたものです。この遺産地域には、広い土手に造られた城壁都市、城壁、そして、都市計画の初期のシステムの証しとなる厳格な規則通りに造られた市街地区がみられます。



秦始皇陵 中華人民共和国

文化遺産登録基準：i, iii, iv, vi

世界遺産登録年：1987年

概 説：

この考古学的遺跡にある何千という像は1974年まで発掘されないままでした。中国初の統一国家である秦の始皇帝は紀元前210年に没した後、秦の都である咸陽の都市計画を反映するように設計された場所で、有名な素焼きの兵備に囲まれて埋葬されています。小さな像はすべて異なっており、馬、戦車、武器とともに写実主義の傑作であるとともに、歴史的な興味もおおいにかきたてます。

© Young People's World Heritage Education Project 1998

Photo: UNESCO





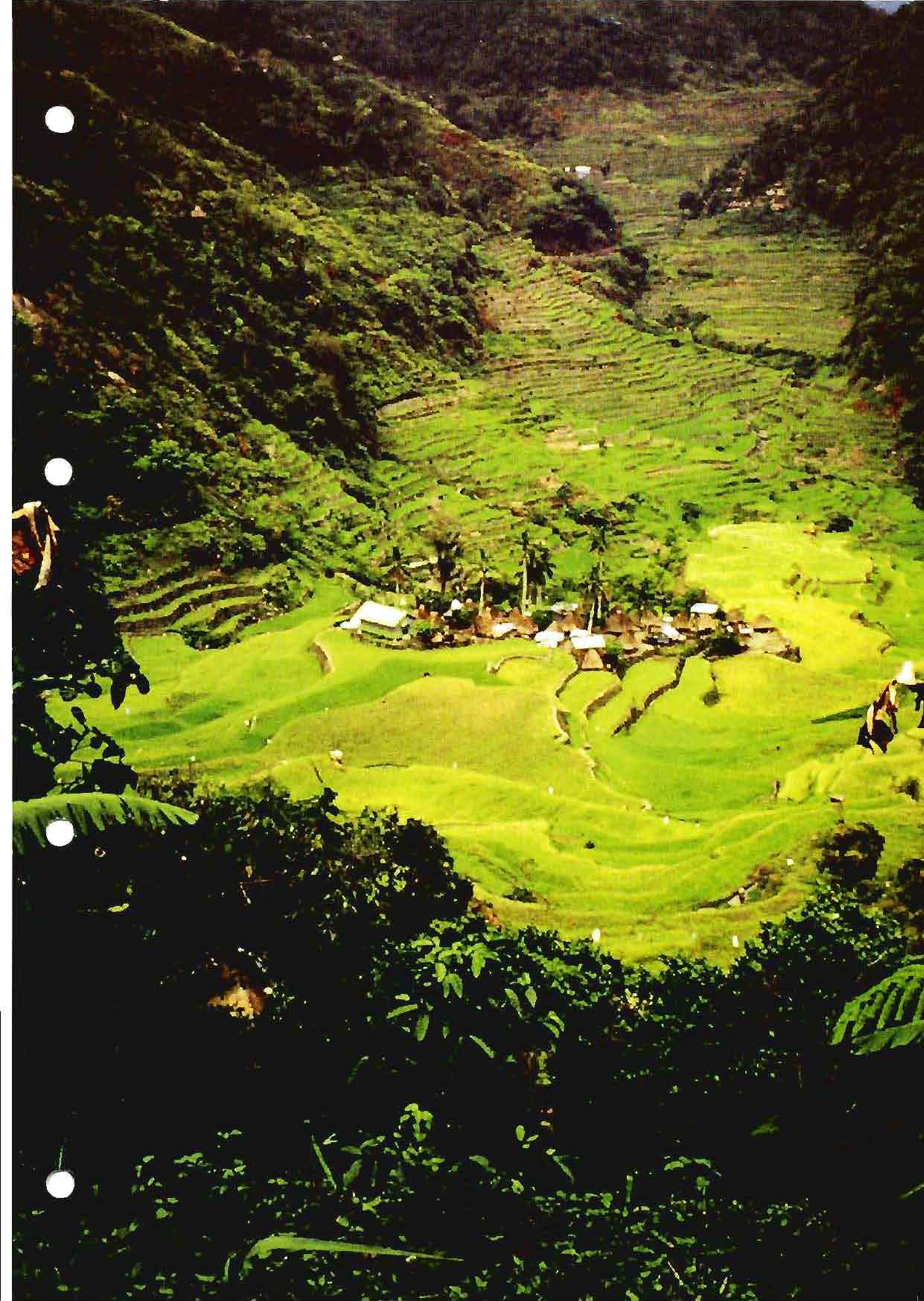
ルアン・プラバンの町 ラオス人民民主共和国

文化遺産登録基準：ii, iv, v

世界遺産登録年：1995年

概説：

この町には、伝統的な建築と19世紀から20世紀のヨーロッパ植民地時代に建てられた都市構造とのひとときわすぐれた融合があります。独特な町の景観はかなりよく保存されており、二つのはっきりと異なる文化的伝統が融合する重要な段階を示しています。



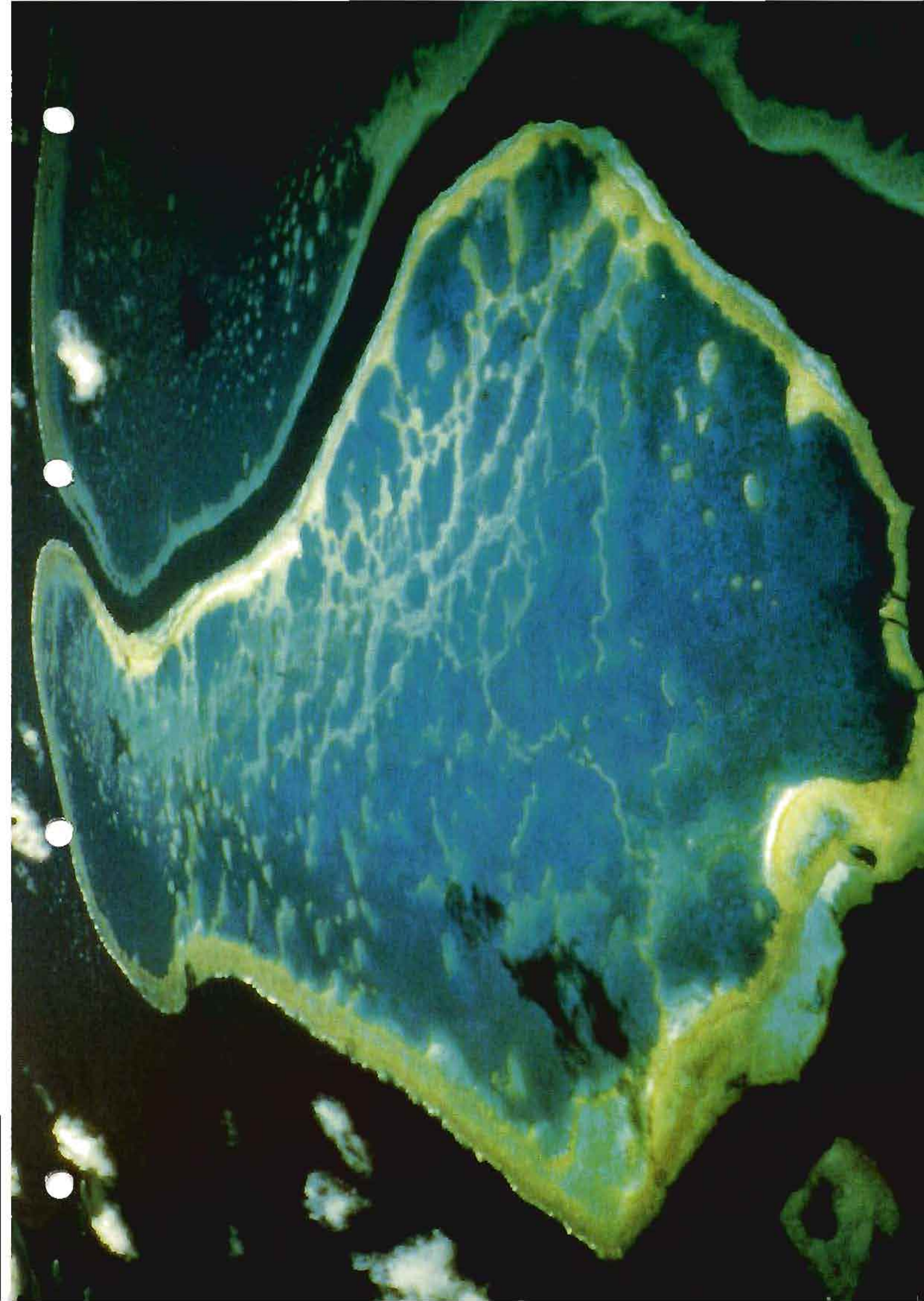
フィリピン・コルディレラの棚田 フィリピン共和国

文化遺産登録基準：iii, iv, v

世界遺産登録年：1995年

概 説：

2,000年もの間、イフガオの高地にある田は山の輪郭に沿って作られてきました。世代から世代へと受け継がれた知恵と、侵されることのない伝統、そして繊細な社会的均衡によってつくられたこの美しい景観は、人間と環境の間に調和が図られ、それが保存されてきたことを示しています。



グレート・バリア・リーフ オーストラリア

自然遺産登録基準：i, ii, iii, iv

世界遺産登録年：1981年

概 説：

オーストラリア北東海岸のすばらしく変化に富んだ美しい遺産であるグレート・バリア・リーフには世界最大のサンゴ礁があり、400種類のサンゴ、1,500種の魚類及び4,000種類の軟体動物が生息しています。また、絶滅の危機に瀕しているジュゴンやアウミガメなどの生息地としても科学的関心が持たれている場所です。